

# 嘉数トウンヤマ遺跡 I

—範囲確認調査報告書—

2008年(平成20年)3月  
沖縄県宜野湾市教育委員会

# 嘉数トウンヤマ遺跡 I

— 範 囲 確 認 調 査 報 告 書 —

2008年（平成20年）3月  
沖縄県 宜野湾市教育委員会

## 序

本報告書は、周知の遺跡である嘉数トウンヤマ遺跡の包蔵地内において、国有地管理処分に伴う土地売却計画が予定されたことから、平成16年度に宜野湾市教育委員会が実施した範囲確認調査の成果をまとめたものであります。

嘉数地域は、嘉数高台公園等の整備事業のほか、昨今の宅地開発等の市街地化が著しい中で、いまなお碁盤目状の集落形態を呈しており、旧来の面影を残した数少ない地域であります。

また、集落の北側には嘉数高台として名高いウィーヌヤマがあり、さらに北麓には比屋良川が流れ、県指定有形文化財「小祿墓」を主として、流域沿いには断崖を利用して古墓群が連なっており、その他にも拝所や石獅子、湧泉等が確認されております。嘉数トウンヤマ遺跡の後背にも、トウン（嘉数之殿）とジトウヒヌカン（地頭火の神）と称される祠が配置されており、これらが地域の財産として大切に継承されております。

今回の範囲確認調査により、掘立柱建物跡や倉庫跡と思われる多数の柱穴群や中世（グスク時代）の烟跡として検討されている小穴群のほか、嘉数村の旧道と思われる礫敷造構も確認されています。また、輸入陶磁器やグスク土器等の中世陶磁器や近世から近代にかけての本土産や沖縄産の陶磁器等が数多く出土しており、これらの調査成果からは、中世から近世を経て、近代へと連続と営まれてきた往時の嘉数村の様相について窺い知ることができると言えます。

今回の調査成果が、広く市民の歴史的教材ないしは文化財の保護・活用資料として生かされ、歴史学等の学術資料として御検討いただければ幸いに存じます。

末尾になりましたが、多大な御指導を賜りました文化庁文化財部と沖縄県教育庁文化課、並びに貴重な御指導・御助言を賜りました市文化財保護審議会の先生方と嘉数区自治会、その他関係各位に対しまして心から感謝申し上げます。

2008（平成20）年3月

沖縄県 宜野湾市教育委員会

教育長 普天間 朝光



卷頭圖版 1 調查區全景



溝状壁敷構① 全景



溝状壁敷構① 積出状況



溝状壁敷構② 全景



溝状壁敷構② 積出状況



柱穴・判状ピット・土坑検出状況



列状ピット群検出状況



土器検出作業



土器検出状況

## 例　言

1. 本報告書は、国有地管理処分に伴う土地売却計画に先立ち、宜野湾市教育委員会が国・県の補助を受けて、平成16年度に実施した、嘉数トゥンヤマ遺跡の範囲確認調査の成果を収録したものである。
2. 現地調査の実施にあたっては、内閣府沖縄総合事務局・財務部統括国有財産管理官の協力を得た。
3. 発掘調査並びに本文中における遺跡の基準方位は、国土座標系(旧座標系)第XV座標系の座標北を用い、層位・遺構は海拔高(那覇)を基準とした高さである。
4. 本書に掲載した地図は、基本的に宜野湾市都市計画課発行の都市計画図(1:2,500)を使用しており、他の情報図については、宜野湾市教育委員会が管理・運営しているGISデータを使用している。
5. 本書で使用した層名は、農林水産省水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
6. 出土遺物のうち、石材・石製品の石質同定は宜野湾市教育委員会文化財保護審議員の大城逸郎氏、貝類の同定は北谷町教育委員会の島袋春美氏、グスク土器の胎土分析並びに鍛冶関連遺物の分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。なお、石材・石製品、貝類については現在整理中の記録保存調査報告書にて報告することとする。
7. 本書の執筆は、城間　肇・上田圭一・矢作健一・橋本真紀夫があたり、執筆分担は下記する一覧に記してある。なお、本書の編集は杉村千重美・原田　円の協力を得て城間　肇が行った。

城間　肇（宜野湾市教育委員会文化課 文化財保護係 主事）

　　第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章、第Ⅴ章

上田圭一・矢作健一・橋本真紀夫（パリノ・サーヴェイ株式会社）

　　第Ⅳ章

8. 本報告書に掲載された遺構・出土遺物の撮影は城間　肇が行った。

9. 現地調査・資料整理にて得られた遺物・実測図・写真・デジタルデータ等の各種調査記録は、すべて宜野湾市教育委員会文化課にて保管している。

## 目 次

序

巻頭図版

例言

|                  |     |
|------------------|-----|
| 第Ⅰ章 調査に至る経緯      | 1   |
| 第1節 調査に至る経緯      | 1   |
| 第2節 調査体制         | 2   |
| 第3節 調査経過         | 4   |
| 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境     | 5   |
| 第1節 遺跡の位置と環境     | 5   |
| 第2節 自然的環境        | 6   |
| 第3節 歴史的環境        | 7   |
| 第4節 嘉数地域の位置と環境   | 8   |
| 第Ⅲ章 発掘調査の成果      | 11  |
| 第1節 調査区の設定と層序    | 11  |
| 1. 調査区の設定        | 11  |
| 2. 基本的層序         | 12  |
| 第2節 遺構           | 16  |
| 1. ピット群と掘立柱建物跡   | 18  |
| 2. 列状ピット群        | 18  |
| 3. 土器一括検出土坑      | 20  |
| 4. 溝状疊敷遺構        | 21  |
| 第3節 遺物           | 23  |
| 1. 土 器           | 24  |
| 2. 類須恵器          | 28  |
| 3. 白 磁           | 31  |
| 4. 青 磁           | 38  |
| 5. 青 花           | 56  |
| 6. 褐釉陶器（中国産・タイ産） | 63  |
| 7. 黒釉陶器          | 66  |
| 8. 三彩・鉄釉染付・瑠璃釉   | 66  |
| 9. タイ鉄絵・タイ半練     | 66  |
| 10. 本土産陶磁器       | 66  |
| 11. 沖縄産施釉陶器      | 69  |
| 12. 沖縄産無釉陶器      | 80  |
| 13. アカムヌー        | 86  |
| 14. 錢貨           | 92  |
| 15. ジーファー（簪）     | 92  |
| 16. 玉            | 92  |
| 17. 煙管           | 92  |
| 18. 高麗系瓦         | 92  |
| 第Ⅳ章 自然科学分析調査の成果  | 94  |
| 第1節 ゲスク土器胎土分析    | 94  |
| 第2節 鋳冶関連遺物分析     | 100 |
| 第Ⅴ章 結語           | 104 |
| 報告書抄録            |     |

## 卷頭図版目次

卷頭図版1 調査区全景

卷頭図版2 遺構・遺物検出状況

## 挿図目次

|                                     |    |   |    |
|-------------------------------------|----|---|----|
| 第 1 図 宜野湾市の位置図                      | 5  | 第 24 図 青磁 5 皿                               | 52 |
| 第 2 図 宜野湾市道路変遷図                     | 7  | 第 25 図 青磁 6 盤、酒食器、香炉、馬上杯、瓶、袋物               | 54 |
| 第 3 図 宜野湾市切崩敷村全圖 (明治 36 年)一部加筆      | 8  | 第 26 図 青花 1 碗                               | 59 |
| 第 4 図 嘉数周辺地域の遺跡情報図 1                | 9  | 第 27 図 青花 2 皿、杯、小杯、瓶                        | 61 |
| 第 5 図 嘉数周辺地域の遺跡情報図 2                | 10 | 第 28 図 補助陶器 中国産 (壺、擂鉢)、タイ産                  | 64 |
| 第 6 図 発掘調査地区位置図 ( $S=1/5000$ )      | 11 | 第 29 図 黒釉陶器、三彩、鉄釉染付、瑠璃釉、タイ鉄絵、<br>タイ半纏、本土産陶器 | 67 |
| 第 7 図 グリッド設定図 ( $S=1/1000$ )        | 11 | 第 30 図 沖縄産施釉陶器 1 碗                          | 74 |
| 第 8 図 調査区設定状況 ( $S=1/1000$ )        | 12 | 第 31 図 沖縄産施釉陶器 2 簡碗、小碗、皿、鉢                  | 76 |
| 第 9 図 基本的網序 ( $S=1/80$ )            | 13 | 第 32 図 沖縄産施釉陶器 3 壺、瓶、瓶子、急須、<br>火取、灯明具、袋物    | 78 |
| 第 10 図 西側畑地 TP 断面・平面 ( $S=1/80$ )   | 15 | 第 33 図 沖縄産無釉陶器 1 壺、甕                        | 82 |
| 第 11 図 主要遺構検出状況図 ( $S=1/100$ )      | 16 | 第 34 図 沖縄産無釉陶器 2 豊、擂鉢、鉢、蓋                   | 84 |
| 第 12 図 N-15 ピット平面図・断面図 ( $S=1/30$ ) | 18 | 第 35 図 アカムヌー 1                              | 88 |
| 第 13 図 ピット群検出状況図 ( $S=1/60$ )       | 19 | 第 36 図 アカムヌー 2                              | 90 |
| 第 14 図 土器一括検出土坑平面図・断面図 ( $S=1/30$ ) | 20 | 第 37 図 ジーファー (鷺)、玉、煙管                       | 93 |
| 第 15 図 ( $S=1/60$ )                 | 21 | 第 38 図 高麗系瓦                                 | 92 |
| 第 16 国 土器 瓢                         | 26 | 第 39 国 各粒度における鉱物・岩石出現頻度                     | 96 |
| 第 17 国 頬須恵器 壺                       | 29 | 第 40 国 破片物・基質・孔隙の割合                         | 98 |
| 第 18 国 白磁 1 碗                       | 34 | 第 41 国 胎土中の砂の粒径組成                           | 98 |
| 第 19 国 白磁 2 皿、杯、小杯、瓶                | 36 |   |    |
| 第 20 国 青磁 1 碗①                      | 44 |   |    |
| 第 21 国 青磁 2 碗②                      | 46 |   |    |
| 第 22 国 青磁 3 碗③                      | 48 |   |    |
| 第 23 国 青磁 4 碗④                      | 50 |   |    |

## 図版目次

|                            |    |  |     |
|----------------------------|----|--|-----|
| 図版 1 調査経過 1                | 4  | 図版 17 補助陶器                                 | 65  |
| 図版 2 戦前の旧嘉敷村 (昭和 20 年米軍撮影) | 8  | 図版 18 黒釉陶器、三彩、鉄釉染付、瑠璃釉、タイ鉄絵、<br>タイ半纏、本土産陶器 | 68  |
| 図版 3 西側畑地 挖堀坑堆積状況          | 14 | 図版 19 沖縄産施釉陶器 1                            | 75  |
| 図版 4 調査経過 2                | 22 | 図版 20 沖縄産施釉陶器 2                            | 77  |
| 図版 5 グスク土器 瓢               | 27 | 図版 21 沖縄産施釉陶器 3                            | 79  |
| 図版 6 頬須恵器 壺                | 30 | 図版 22 沖縄産無釉陶器 1                            | 83  |
| 図版 7 白磁 1                  | 35 | 図版 23 沖縄産無釉陶器 2                            | 85  |
| 図版 8 白磁 2                  | 37 | 図版 24 アカムヌー 1                              | 89  |
| 図版 9 青磁 1                  | 45 | 図版 25 アカムヌー 2                              | 91  |
| 図版 10 青磁 2                 | 47 | 図版 26 銀質                                   | 92  |
| 図版 11 青磁 3                 | 49 | 図版 27 ジーファー (鷺)、玉、煙管                       | 93  |
| 図版 12 青磁 4                 | 51 | 図版 28 高麗系瓦                                 | 92  |
| 図版 13 青磁 5                 | 53 | 図版 29 胎土薄片                                 | 99  |
| 図版 14 青磁 6                 | 55 | 図版 30 銅冶津の頸微鏡組織                            | 103 |
| 図版 15 青花 1                 | 60 |  |     |
| 図版 16 青花 2                 | 62 |  |     |

## 挿表目次

|                       |    |                       |     |
|-----------------------|----|-----------------------|-----|
| 第 1 表 嘉数地域の埋蔵文化財包蔵地一覧 | 9  | 第 15 表 補助陶器出土状況一覧     | 63  |
| 第 2 表 嘉数周辺地域の遺跡       | 10 | 第 16 表 沖縄産施釉陶器観察一覧    | 70  |
| 第 3 表 ピット法量一覧         | 17 | 第 17 表 沖縄産施釉陶器出土状況一覧  | 71  |
| 第 4 表 主要遺物出土状況一覧      | 23 | 第 18 表 沖縄産無釉陶器出土状況一覧  | 80  |
| 第 5 表 土器出土状況一覧        | 24 | 第 19 表 沖縄産無釉陶器観察一覧    | 81  |
| 第 6 表 グスク土器觀察一覧       | 25 | 第 20 表 アカムヌー出土状況一覧    | 86  |
| 第 7 表 頬須恵器出土状況一覧      | 28 | 第 21 表 アカムヌー観察一覧      | 87  |
| 第 8 表 頬須恵器観察一覧        | 28 | 第 22 表 煙管出土状況         | 92  |
| 第 9 表 白磁出土状況一覧        | 31 | 第 23 表 分析試料一覧及び胎土分類結果 | 94  |
| 第 10 表 白磁観察一覧         | 32 | 第 24 表 薄片観察結果         | 96  |
| 第 11 表 青磁出土状況一覧       | 39 | 第 25 表 銅冶津遺物出土状況      | 100 |
| 第 12 表 青磁観察一覧         | 40 | 第 26 表 供試材の履歴と調査項目    | 102 |
| 第 13 表 青花出土状況一覧       | 56 | 第 27 表 供試材の化学組成       | 102 |
| 第 14 表 青花観察一覧         | 57 | 第 28 表 出土遺物の調査結果のまとめ  | 102 |

# 第Ⅰ章 調査に至る経緯

## 第1節 調査に至る経緯

嘉数トゥンヤマ遺跡は、『土に埋もれた宜野湾』（1989年）・『宜野湾市文化財情報図』（2002年）等にて報告がなされている「周知の遺跡」である。同遺跡が所在する嘉数地域は、比屋良川護岸整備、嘉数高台公園、比屋良川流域公園整備等の各種開発事業のほか、戦後の外人住宅建設や昨今の宅地開発等の市街地化によって旧来の姿を失いつつあり、同遺跡についても遺跡の性格を把握するための詳細な確認調査が必要とされていた。

### 嘉数トゥンヤマ遺跡の国有地管理処分に伴う保護調整

嘉数トゥンヤマ遺跡の包蔵地一帯については、市文化課において定期的に文化財パトロールを実施している地域で、調査対象となった地所については、同遺跡包蔵地内の当該地所において、国有地管理処分に伴う土地売却の公告看板が設置されているのを確認したため、同遺跡の保護を含めた今後の取り扱いについての調整が急務となり、内閣府沖縄総合事務局財務部に対して、その詳細についての確認作業を行った。

その後、文化財保護法に基づく文化財の取り扱い及び埋蔵文化財調査の必要性について説明を行い、当該地所が国有地としての管理地であるという性格から、法定された所定の手続き等を経た上での試掘・確認調査の事前実施についての理解を得て、国有地管理処分に伴う競売計画の延期を要請した。

### 範囲確認調査の実施

調整経緯としては、内閣府沖縄総合事務局との調整後に県教育庁文化課に対して報告し、開発調整用資料の取得を目的として、文化庁国庫補助事業による試掘・確認調査の実施について承諾を得た。その後、当該管理地の地権者である内閣府沖縄総合事務局より、平成16年7月6日付で調査承諾書を添えて、市教育委員会宛に管理処分予定地の試掘・確認調査の依頼がなされ、文化財保護法第58条の2第1項（当時）により、平成16年7月30日付、宜教文第110号文書にて発掘調査通知を提出し、試掘・確認調査の実施に向けた手続きを終了した。

以上により、市教育委員会は文化財保護担当職員と文化財保護指導嘱託員並びに発掘作業員を充てて、平成16年8月9日より試掘・確認調査に着手した。調査の対象となったのは、宜野湾市嘉数一丁目235番地、遺跡の詳細な性格や範囲を把握するための確認調査を実施した。また、これに平行して調査区西側の耕作地においても、地権者と小作者の理解を得て試掘調査を実施し、最終的には、同年11月5日の埋め戻し及び原状回復措置をもって試掘・確認調査を終了した。調査の結果、管理処分の対象となった国有地全域に埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されたほか、調査区西側の耕作地についても同等の埋蔵文化財包蔵地であることが確認された。これにより、同年11月9日付け宜教文第110号文書にて、宜野湾警察署長宛に埋蔵文化財発見届を提出したほか、県教育庁文化課には埋蔵文化財保管証をそれぞれ提出した。その後、沖縄県教育委員会による埋蔵文化財認定通知があった旨の事務連絡が宜野湾警察署長より、平成17年1月20日付け文書にて宜野湾市教育委員会宛に提出され、同年3月31日に県教育庁文化課宛に発掘調査終了報告を提出している。なお、地権者である内閣府沖縄総合事務局長への完了報告については、不動産鑑定評価に係る個別的要因の留意事項である「埋蔵文化財の有無及びその状態について」に関する調査履歴と成果を整理した上で、同年7月26日付、宜教文第142号文書にて完了報告書を提出しており、これにより、今回の試掘・確認調査及びそれに伴う事務手続きを終了している。

## 第2節 調査体制

嘉数トゥンヤマ遺跡包蔵地内の国有地管理処分に伴う土地売却計画に係る範囲発掘調査については、平成16年度に実施し、資料整理及び報告書作成に係る整理業務は平成18～19年度に実施した。なお、調査体制については下記のとおりである。

事業主体 沖縄県宜野湾市教育委員会

|         |          |  |
|---------|----------|--|
| 事業責任者   | 教育長      | 宮城義昇(平成16年度)   |
|         | "        | 普天間朝光(平成16～19年度)   |
| 事業総括    | 教育部 教育部長 | 外間伸義(平成16～18年度)  |
|         | " "      | 新田和夫(平成18～19年度)  |
| 教育次長    |          | 新田和夫(平成16～18年度)  |
|         | " "      | 伊佐友孝(平成18～19年度)  |
| 事業事務    | 文化課 課長   | 城間盛久(平成16～18年度)  |
|         | " "      | 和田敬悟(平成19年度)   |
|         | 文化財保護係長  | 呉屋義勝(平成16～18年度)  |
|         | " "      | 豊里友哉(平成19年度)   |
|         | 文化財保護係主事 | 城間肇(平成16～19年度)   |
|         | 臨時職員     | 西銘五月(平成16～19年度)  |
|         | " "      | 宮平優子(平成19年度)   |
| 調査業務    | 文化財保護係主事 | 城間肇(平成16～19年度)   |
|         | 嘱託職員     | 宮平盛晃(平成16年度)   |
|         | " "      | 伊藤圭(平成19年度)  |
| 調査作業員   | 臨時職員     | 伊波敏夫、伊波晴美、上里やよい、奥浜恵子<br>米須清太、米須富士江、崎浜隆一、津波古美津江<br>徳里末子、玉城文子、照屋充、仲松光子<br>新田政江、仲村幸子、比嘉ムツ子、宮城常正<br>宮城春義<br>(平成16年度) |
| 資料整理業務  | 文化財保護係主事 | 城間肇(平成18～19年度)   |
|         | 嘱託職員     | 伊藤圭(平成19年度)  |
|         | " "      | 宮城初枝(平成19年度)   |
|         | " "      | 杉村千重美(平成19年度)  |
| 資料整理作業員 | 臨時職員     | 池田一美、伊佐祐姫、翁長和佳子、喜名ひとみ<br>古謝和美、杉村千重美、田盛謙代、新田政江<br>原田円、比嘉ムツ子、平川邦子、真志喜正枝<br>宮里みどり、山田葉月<br>(平成18～19年度)               |

|      |          |                    |
|------|----------|--------------------|
| 委託業務 | 画像解析業務等  | 財団法人京都市埋蔵文化財研究所    |
|      | 自然科学分析調査 | パリノ・サーヴェイ株式会社      |
|      | 発掘労務作業   | 社団法人宜野湾市シルバー人材センター |

調査指導及び調査協力（職名等は当時）

調査指導及び協力者として以下の方々に指導・協力を仰いた。

|       |               |          |
|-------|---------------|----------|
| 坂井 秀弥 | 文化庁文化財部記念物課   | 主任文化財調査官 |
| 清野 孝之 | "             | 文化財調査官   |
| 大城 慧  | 沖縄県教育庁文化課     | 課長補佐     |
| 島袋 洋  | "             | "        |
| 盛本 黙  | "             | 主幹兼記念物係長 |
| 中山 晋  | "             | 専門員      |
| 知念 隆博 | "             | "        |
| 瀬戸 哲也 | "             | "        |
| 宮城 黙  | 市嘉数区自治会       | 嘉数区自治会長  |
| 仲田 求  | 内閣府沖縄総合事務局財務部 |          |
| 知花 幸伸 | 嘉数区在（地権者）     |          |
| 伊波 真康 | 嘉数区在（土地使用者）   |          |
| 嵩元 政秀 | 宜野湾市文化財保護審議会  | 会長       |
| 新垣 義夫 | "             | 委員       |
| 大城 逸郎 | "             | 委員       |
| 池田 荣文 | 琉球大学法文学部      | 教授       |
| 赤嶺 政信 | "             | 教授       |
| 島袋 春美 | 北谷町教育委員会      |          |

### 第3節 調査経過

#### 発掘調査の経過

嘉数トウンヤマ遺跡包蔵地内の国有地管理処分に伴う土地売却計画に係る範囲発掘調査については、嘉数区自治会に対して事前の協力依頼を行い、地籍上の境界確認や安全対策等の環境整備を実施した上で調査区のグリッド設定を行っており、実質的な現地調査を平成16年8月9日より着手した。

今回の調査は、市文化課文化財保護担当職員1人・文化財保護指導嘱託員1名・発掘作業員8人・発掘労務作業員（市シルバー人材センター会員）6人の計16人で実施し、調査範囲は面積にして883m<sup>2</sup>であった。

調査区設定については、トウン（嘉数之殿）と称される嘉数集落の辻所から南方向の軸線を基軸とし、それに直交する形で東西に任意の作業軸を設けてグリッド設定を完了しており、これに基づいて調査区内にて散見される遺物の表面採集を行った。

調査は基軸となる15ライン西側の各グリッドの表土を重機にて除去し、一部については基盤層である石灰岩まで掘り下げて基本的層序の確認を行ったところ、旧耕作土と思われる堆積土とピット群が検出されたため、作業員による掘り下げを行い、下層の堆積状況確認と遺構面検出作業を行った。これにより、調査グリッド全面にて旧耕作土が確認されたほか、国有地化以前の開発行為で、一部は遺構面まで大規模に搅乱されていることが確認された。

耕作土や一部の搅乱土を除去後に検出された各遺構については、グスク時代（中世）が想定される柱穴や小穴・土坑等が多数検出されたほか、近世から近代の嘉数村の旧道と思われる溝状遺構が検出されており、これらの多くについては、国有地管理処分後に予想される本発掘調査にて詳細を把握することとし、国有地化以前の開発行為による重機搅乱の土坑壁面に確認された柱穴・土坑等と前述の溝状遺構を調査した。これらの確認された各遺構の検出状況や断面図等の記録作業の後、自然科学分析調査用の各種サンプルを採取して、調査区内の原状回復を行い、平成16年11月5日には、調査に係る全ての作業を終了した。



図版1 調査経過1

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

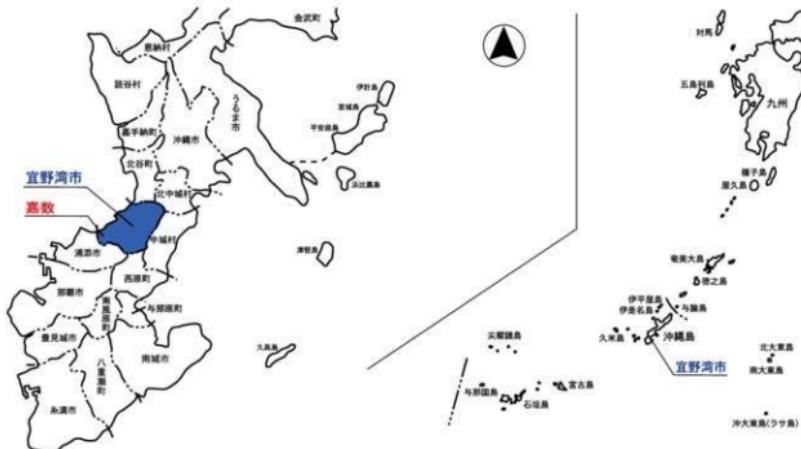
### 第1節 遺跡の位置と環境

#### 宜野湾市の位置と環境

宜野湾市は、沖縄本島中部西海岸にあって東シナ海に面し、周辺には北谷町・北中城村・中城村・西原町・浦添市が隣接する。那覇市からは北に 12.4 km 離れた地点に位置し、市域には国道 58 号線、330 号線等の主要幹線が、普天間飛行場基地の外縁部に廻っている。さらに、沖縄自動車道北中城 IC ・ 西原 IC へのアクセス道路として、県道宜野湾北中城線や 34 号線などの県内主要幹線道路も展開し、本島中南部と北部地域を結ぶ要所となっている。

総面積は 19.37k m<sup>2</sup> で、略東西 6.1 km 、略南北 5.2 km の略長方形を呈す。市域北側にキャンプ瑞慶覧、中央に普天間飛行場基地が占拠し、市民居住区域は普天間飛行場基地の外縁部に展開するドーナツ状をなす。地目比率は、米軍基地が 33.3% 、民間地の宅地 36.3% 、田畠 8.5% 、原野 2.1% 、その他 19.8% となっている（1992 現在）。

地形は、ひな壇状の 4 つの段丘面を形成し、海岸沿いの沖積低地、内陸側の 3 つの段丘面は大半が琉球石灰岩層で成り立つ。琉球石灰岩層の段丘縁には洞穴と湧泉が点在し、本市の自然及び人文的景観の特徴となっている。また、中城と接する範囲では、クチャと称される泥岩の島尻層群が見られる。海拔高度の最高位は、中城村・西原町・本市の 3 市町村界にあたるサンカホージリと称する 146 m の地点である。河川は浦添市と西原町の境に比屋良川、北谷町・北中城村・中城村との境に普天間川が流れている。気候は亜熱帯性で、年間平均気温は 22.4 ℃ と温暖である。雨量は春から夏が多く、夏から秋は台風が多い。年間降水量は 1800 ~ 2500 mm 程である。



第1図 宜野湾市の位置図

前身の「宜野湾間切」は、1671年に浦添・中城・北谷の三間切から13村を割き、新たに1つの村を設けて、14村で新設された。1649年編纂『絵図郷村報』には、宜野湾間切新設以降の“村名”として、浦添間切に「かよく・宜湾・かミ山・加数・志やな・大志やな・内ミな・喜友名・あら城・いさ」、中城間切に「前ふてま・寺ふてま」、北谷間切に「あきな」がある。先の三間切から割かれた“村”がそれらの“村々”に相当し、「真志喜」村が新たに“村”に相当する。

1908年(明治41)「沖縄県及島根町村制」の施行により、従来の間切は町・村に、村は字に改められた、宜野湾間切は宜野湾村となる。宜野湾村の戸数は2,401戸、人口は11,184人を数え、1939年(昭和14)には、志真志・長田・愛知・赤道・中原・上原・真栄原の7つの屋敷集落が新たに“字”として設置され、1943年(昭和18)には真栄原から佐真下が分離して新たに“字”が設置された。今次大戦を経て、1955年段階で18,469人の人口も1960年3月には3万人を越え、1962年7月1日に宜野湾市に昇格し、1964年2月には戦後の混乱期の産物である対人的行政区を、地域を明確にした20の行政区に分割統合している。

市制施行後も市域の市街化傾向は急激をきわめ、嘉数ハイツ・大謝名団地・上大謝名区の自治会が新設されるに及び、宜野湾市は都合23自治会20行政区によって編成されるようになった。さらに、「那覇広域都市計画圈」において軍用地を除く市全域が市街化区域に指定されることになった。これに併せて、西海岸の公有水面埋め立てに伴うコンベンションセンター・市営球場などの公共施設の整備により、宜野湾市は新しい市街地として発達している状況にある。宜野湾市の総世帯数は、2006年4月現在、36,021世帯、人口は89,532人となっている状況で年々増加傾向にあると言える。現在、宜野湾市は将来の都市像“ねたてのぎのわん”的実現に向けて、経済の自立=コンベンション・リゾート都市の形成、生活・居住の自立=ハイアメニティ都市の形成、文化の自立=国際学園文化都市の形成を柱とする諸公共事業が推進されている。

## 第2節 自然的環境

宜野湾市の地形は、4つの海岸段丘からなる。第1面は、比屋良川河口右岸から宇地泊・大山・伊佐に連なる標高3~30m(低位段丘下位面)の海岸低地で、第2面は、海岸低地から崖や急斜面となって比高5~10m程上方になる大山・真志喜・宇地泊・伊佐一帯で、標高30~40m(低位段丘上位面)の石灰岩段丘をなす。第3面は、キャンプ瑞慶覧から普天間飛行場基地へと延びる標高50~90m(中位段丘下位面)の石灰岩段丘で、普天間飛行場基地の滑走路建設の際に大部分が改変されたが、1950年米軍作成地形図では、標高60~80mの地形が500mの幅で続いている。第4面は、標高90m以上(中位段丘上位面)の高位置で、野嵩のヒージャーバンタ~沖縄国際大橋東に残存し、代表的なのは赤道から宜野湾の縁地帯である。石灰岩段丘縁辺部には、洞穴・湧泉が発達し、洞穴は第3段丘や第4段丘の周縁に点在、湧泉は第2段丘や第4段丘の麓部に多い。

地質は、泥岩(クチャ)の島尻層群と、不整合に覆う琉球石灰岩層、海岸低地の沖積層で形成される。島尻層群は、標高80~120mの位置の丘陵地に発達しており、その上層には肥沃なジャーガルが被さっている。琉球石灰岩層は、第3面以下に発達する。石灰岩層上部にはマージが堆積し、島尻層群と石灰岩層の境界一帯は、地質・地形の湾入・起伏が著しく、シマシガーやシリガーラなどの小河川によりブロックが分かれる。

嘉数トゥンヤマ遺跡は、ウィーヌヤマと称される石灰岩堤からなる丘陵とウチグスクと称される円錐カルストからなる小丘陵との間にあり、標高62~75mの緩斜面状の小丘陵に位置する。

### 第3節 歴史的環境

沖縄諸島に人類が住み着いたのは現在から約3万年前とされ、宜野湾市では大山洞穴から「大山洞人」と称される20歳前後の男性の下顎骨片が発見されている。このほかにも、普天満宮洞穴遺跡等においてリュウキュウムカシキヨンやムカシキヨン等の化石動物が発見されている。

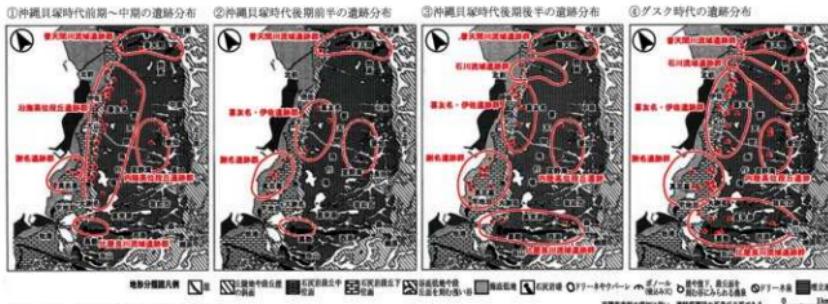
現在から6,000～7,000年前より、沖縄諸島に土器や石器などの技術を用いた生活文化が登場する。この文化は、沖縄固有の独自性が強いことから、九州や本州の縄文・弥生等の時代区分とは別に沖縄貝塚時代と称され、同時代は遺跡の立地・出土遺物等の違いから早期・前期・後期に大別されている。前期は、沖縄諸島域に当時の土器形式が広く分布することから、定着的な集団が各地域に形成される時期と考えられ、中期は、拠点的な大規模集落が平地帯に展開し、小規模遺跡が周縁に点在する。後期は、海岸低地の砂地にも居住域が拡散し、その規模も一律に大きくなっていくようである。

12～15世紀に及ぶグスク時代は、農耕を基礎とする社会が形成・発達した時期である。農耕の基盤である土地・その生産を支える道具の入手や製作・同時期に展開された日本や中国・朝鮮・東アジア地域との交易などを通して各地域の集団は共同化し、その中から“按司”と称される在地支配者層が出現する。按司を中心とした各地域の集団は、互いの在地の権益を守り、且つ、それを拡大させるために相互に抗争を繰り返しながら淘汰していく、14世紀頃には中山・山北・山南の3つの勢力が拮抗するようになる。市域のグスク時代の遺跡は、迫地や河川流域の谷底低地を控える平地・丘陵斜面・段丘線の高所に立地しており、市域の伝統的集落である近世の“村”的形態がこの時期に端緒が求められる。

グスク時代以降は、第一尚氏、第二尚氏王統による中央集権的古代国家の確立、1609年の薩摩藩島津氏の侵攻等、幾通りかの過程を経て近世基盤型集落へと変化させ市域の伝統的村落や18世紀以降の屋取集落が形成されていく。

近代以降は、1872年に琉球藩、1879年には沖縄県の設置が強行され、1881年（明治14）6月には沖縄県庁の中部支所として中頭郡役所が普天間に移設された。併せて中頭郡教育事務所、中頭郡組合農事試験場などの官公署が設置され、市域は本島中部地域の政治・経済・教育の中心となる。1902年（明治35）には首里から普天間に至る普天間街道、1922年（大正11）には県営鉄道嘉手納線（軽便鉄道）が開通し、利便性は一層高まりをみせた。1908年（明治41）の「沖縄県及び島嶼町村制」の施行により間切は町・村に、村は字に改められ宜野湾村となる。また、屋取人口の社会的増加等もあり、新たな字が分離・新設された。

先の大戦により本市域も壊滅的な打撃を被り、戦後の軍用地接收と度重なる基地造成によって市域の景観は大きく変貌した。他地域に比べ、僅かに焼失を免れた野嵩地区が市域住民をはじめ以南の戦闘地域住民の収用所となった。1946年9月以降、帰住が許可され、社会基盤の復活が果たされると米軍基地関連産業の活況により市域の人口も急増した。1962年7月1日には市に昇格し、1964年2月には対人的行政区の地域を明確にした20行政区に分割統合された。



第2図 宜野湾市遺跡変遷図

#### 第4節 嘉数地域の位置と環境

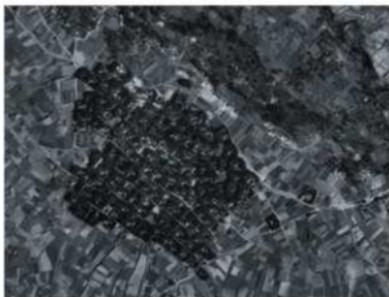
##### 嘉数地域の概況

嘉数地域は、方言で「カカジ」と称されており、近世の首里王府によって編纂された『おもろさうし』巻十五には、「かかずもりぐすく」と聖地ウイーヌヤマの歌謡が見られることでも知られている地域である。

嘉数集落の北側には大謝名、北東側には真栄原・佐真下、西側から南東側にかけて浦添市に隣接しており、旧嘉数村の頃の小字には伊礼原・内城原・後原・嘉数原・前原・東原・東門原・仲嘉原・比屋田原・上栄茶原・水玉屋原・西原があったが、昭和 14 年の村行政区画設置に基づき、西原が佐真下に、仲嘉原・比屋田原・上栄茶原・水玉屋原が真栄原に分離されている。旧集落は嘉数原にあり、旧来の碁盤目型集落の面影を残した数少ない集落である。集落の後方にはウイーヌヤマ（嘉数高台）があり、その北麓を比屋良川が流れ、東側のウシヌクス坂から浦添当山に至る道路は、旧並松街道であった。

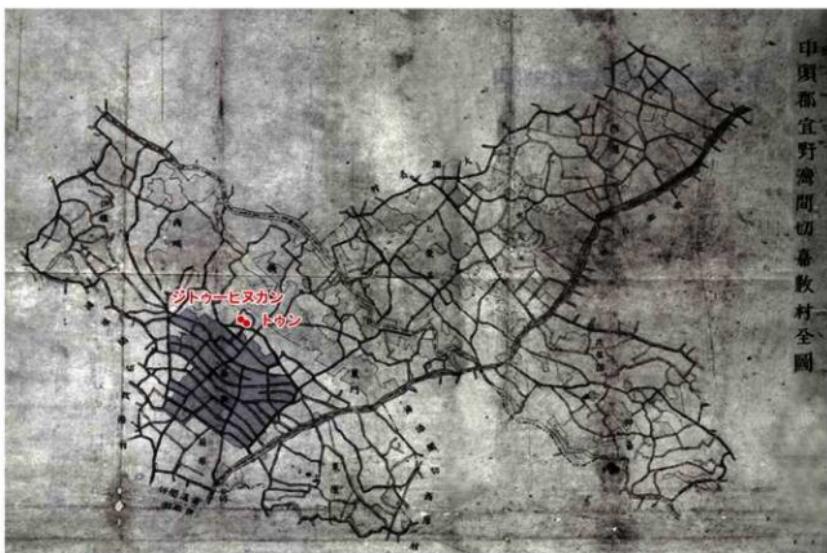
嘉数地域に残る伝承によると、小字後原と同内城原に集落があり、その 2 つの集団が嘉数原に移動合併して旧嘉数村を形成したとされ、慶長検地時には既に「賀数」（浦添間切）は存在していたとされている。現在の嘉数集落の大半は伊礼原・内城原・嘉数原に集在しており、1979 年（昭和 54）には伊礼原を中心とした新興住宅地に嘉数ハイツ自治会が設置されている。

戦前までの嘉数は、ほとんどが純農業集落で家畜も盛んであった。畑作は甘藷が主で、ミーゾーキ（箕）等の竹細工も盛んで、嘉数ソーキとしても有名であった。



図版 2 戦前の旧嘉数村（昭和 20 年米軍撮影）

中頭都宜野湾間切嘉数村全圖



第3図 宜野湾間切嘉数村全圖（明治 36 年）一部加筆

## 嘉数トウンヤマ遺跡と周辺遺跡

嘉数地域にて確認されている遺跡には、テラガマ洞穴遺跡・前原遺跡・内城原遺跡・内城原第二遺跡・内城原洞穴遺跡・内城原遺物散布地・後原遺物散布地・ウィーグスク遺跡・トゥンヤマ遺跡・ウチグスク遺跡・ミーガー遺跡・ジトゥーヒヌカン祭祀遺跡・トーバルヌヤマ祭祀遺跡・比屋良川流域古墓群・後原古墓群・内城原古墓群・後原石豊道・シュイワタンジ古道・嘉数91高地戦跡の19遺跡が確認されており、これらの遺跡の時代や時期・立地・内容・現況・保存状況等の詳細については、第4図及び下記する一覧（第1表）を参照されたい。

周辺遺跡としては、昭和14年の村行政区画設置以前の旧嘉数村の小字であった上栄茶原（現真栄原）のアガリイサガマ洞穴遺跡・比屋川橋・水玉屋原（現真栄原）や比屋田原（現真栄原・我如古に分割）のナガサクガマ遺物散布地がある。周辺地域の遺跡としては、大謝名前原第一・第二遺物散布地のほか、大謝名黄金森グスク遺跡・大謝名カンジャーガマ岩陰遺跡がある。

第1表 嘉数地域の埋蔵文化財包蔵地一覧

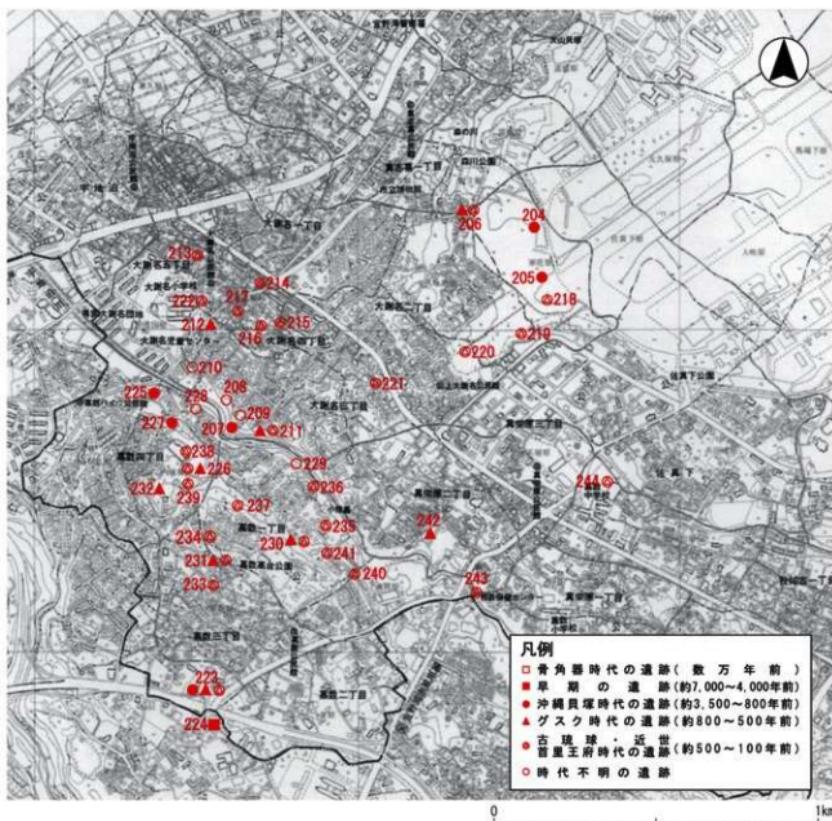
| 番<br>号 | 遺<br>跡<br>名  | 施<br>設<br>形<br>態 |        |                  |                  | 遺<br>跡<br>性<br>質 |        |                  |                  | 登<br>録<br>年<br>代       | 登<br>録<br>地<br>域             | 内<br>容<br>概<br>要             | 管<br>理<br>者 | 管<br>理<br>状<br>況 |
|--------|--------------|------------------|--------|------------------|------------------|------------------|--------|------------------|------------------|------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------|------------------|
|        |              | 施<br>設<br>形<br>態 | 形<br>態 | 中<br>間<br>形<br>態 | 散<br>布<br>形<br>態 | 施<br>設<br>形<br>態 | 形<br>態 | 中<br>間<br>形<br>態 | 散<br>布<br>形<br>態 |                        |                              |                              |             |                  |
| 223    | タウイ岡穴遺跡      | 石室・土室・石室         | 石室     | 石室               | 石室               | 石室               | 石室     | 石室               | 石室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 224    | 前原遺跡         | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 225    | 内城原遺跡        | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 226    | 後原遺跡・遺跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 227    | 内城原洞穴遺跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 228    | 内城原遺物散布地     | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 229    | 後原遺物散布地      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 230    | タウイダケ原跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 231    | シカヤマ遺跡       | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 232    | タウイバの遺跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 233    | ミーガー遺跡       | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 234    | ワリーリークス・野庭遺跡 | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 235    | ヘルムヤマ・野庭遺跡   | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 236    | 内城原洞窟古跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 237    | 後原古窯跡        | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 238    | 内城原古墓群       | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 239    | 新原古墳         | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 240    | ツバキアゲハ古跡     | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |
| 241    | 泰敷11高地跡      | 土・石室             | 土室     | 土室               | 土室               | 土室               | 土室     | 土室               | 土室               | 1970(昭和45)年<br>1月1日(公) | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 内城原庄下地区の内城原庄<br>内城原庄下地区の内城原庄 | 井伊郡         | 良好               |



第4図 嘉数周辺地域の遺跡情報図1

第2表 嘉数周辺地域の遺跡

| 大字  | 遺跡名                        | 大字  | 遺跡名                       | 大字 | 遺跡名                     |
|-----|----------------------------|-----|---------------------------|----|-------------------------|
| 大瀬名 | 204 菊花原遺跡                  | 大瀬名 | 218 菊花原古墓群                | 嘉数 | 231 トクシヤマ遺跡             |
|     | 205 久永地区遺物散布地              |     | 219 久永地区第一古墓群             |    | 232 ウチグスク遺跡             |
|     | 206 菊花原第二遺跡                |     | 220 久永地区第二古墓群             |    | 233 モーガー古墳群             |
|     | 207 大瀬名穴道跡                 |     | 221 東原古墓群                 |    | 234 ジラービスケン跡地遺跡         |
|     | 208 前原第一遺物散布地              |     | 222 カシヅヤー・ガマ沿線遺跡          |    | 235 ヨーバルヌヤマ跡地遺跡         |
|     | 209 前原第二遺物散布地(旧称比屋良川右い①地点) |     | 223 テラグマ洞穴遺跡              |    | 236 比屋良川流域古墳群           |
|     | 210 前田原遺物散布地               |     | 224 前原遺跡                  |    | 237 後原古墓群               |
|     | 211 黄金森グスク跡                |     | 225 内城原遺跡                 |    | 238 内城原古墓群              |
|     | 212 大瀬名原古敷石地               |     | 226 内城原第二遺跡               |    | 239 後原石器遺跡              |
|     | 213 ヤマツガヤー古酒泉              |     | 227 内城原穴道跡                |    | 240 シュワブランジ古道           |
|     | 214 タシスカヤー古酒泉              |     | 228 内城原遺物散布地(旧称比屋良川右い②地点) |    | 241 嘉数91高地戰跡            |
|     | 215 ウイースヤマ跡地遺跡             |     | 229 後原遺物散布地(旧称比屋良川右い③地点)  |    | 242 アガリサヤマ洞穴遺跡(旧稱新町穴道跡) |
|     | 216 ウカヤ祭祀遺跡                |     | 230 ウィーヴスク遺跡(旧称嘉数遺跡)      |    | 243 比屋良川橋               |
|     | 217 ジトウニシカン祭祀遺跡            |     |                           |    | 244 ナガサカガマ遺物散布地         |



第5図 嘉数周辺地域の遺跡情報図2

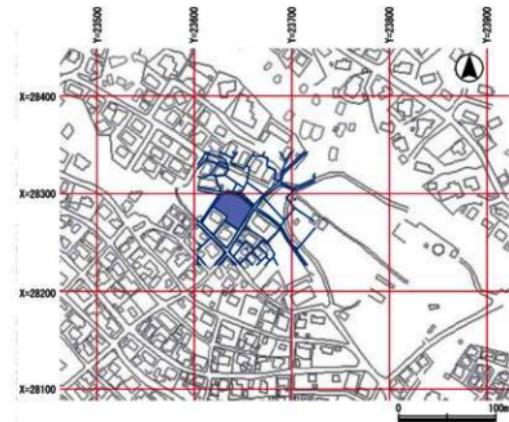
## 第III章 発掘調査の成果

### 第1節 調査区の設定と層序

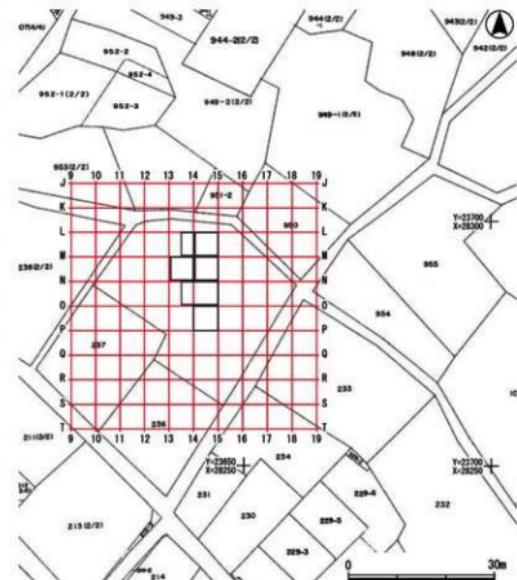
#### 1. 調査区の設定

調査区の設定については、トゥン（嘉数之殿）と称される嘉数集落の拝所から、南北方向の軸線を基軸としてアルファベット数字を、それに直交する形で東西に算用数字を5m毎に付して任意の作業軸を設定した後に、北東隅の交点に各グリッド番号をL-15・M-15のように指示している。さらに、地籍合併図や登記簿図面等をもとに境界測量を行い、隣接する住宅地や市道・里道等との境界を把握し、その損壊防止に努めたほか、GPS測量を導入して調査区内の基準点測量と水準点観測も併せて実施することで、国土座標系（旧座標第XV座標系）の座標地を確認し、調査範囲並びに位置を確定した。また、西側隣地の畠地についても、地権者並びに土地使用者より試掘調査の実施についての許可を得たことから、試掘調査実施に向けた簡単な地形測量を実施した。

なお、今回の調査は、嘉数トゥンヤマ遺跡包蔵地内の国有地管理処分が予定される地所の範囲確認調査であったことから、当該遺跡の範囲や時期・時代等の性格を把握することが目的とされたため、基軸となる15ラインを中心として西側のL-14～N-14グリッドとL-15～O-15のみを発掘調査の対象とし、残りについては競売後に予想される本発掘調査に委ねることとした。



第6図 発掘調査地区位置図 (S=1/5000)



第7図 グリッド設定図 (S=1/1000)

## 2. 基本的層序

今回の嘉数トゥンヤマ遺跡における範囲確認調査では、石灰岩基盤層を含めて基本的に9枚の層序が確認できている(第9図参照)。前述のとおり、バックホーにて表土を除去したところ、調査グリッド全面にて旧耕作土が確認されたほか、国有地化以前の開発行為で、一部は遺構面まで大規模に搅乱されていることが確認されており、僅かに遺構を覆す堆積層が残存する状況であった。また、検出された各遺構は、地山であるマージを検出面としており、下位の状況としては、普天間飛行場基地内において設定されている基本層序のV層(マージ)～Ⅷ層(石灰岩基盤層)が把握されており、平成13年度以降、継続的に調査する普天間飛行場基地内の層序観が基地外においても確認された初の事例となっている。以下に、今回の調査にて確認された嘉数トゥンヤマ遺跡の基本的層序について記す。あわせて西側畠地にて実施した試掘調査の層序観についても記すこととする。

### ＜範囲確認調査区＞

I a層 腐植土壌。暗褐色混礫土層で、改変後の客土上層が腐食土壤化した層。7.5YR4/1

I b層 客土層。茶褐色混礫土層でコンクリ片・ゴミ等の現代遺物が散見される。7.5YR4/1・10YR4/2

II a層 旧耕作土層①。畑としての終期か。灰褐色土層で1cm程度の石灰岩礫のほか、焼土や炭化物も含んでいる。基本的に耕作土層であることから、粒形は小さい。2.5 YR 4/1・10 YR 3/1～4/1

II b層 旧耕作土層②。II a層以前の耕作土。暗紅褐色混礫土層で、1cm程度の石灰岩礫のほか、粒形の小さい焼土を多量に含んでいる。II a～b層のいずれも耕作土層であることから、混入物の粒形は攪拌されたことに由来する球粒化を呈している。2.5 YR 4/1・10 YR 4/1～5/2

溝状礫敷 L14～15グリッドやM-15グリッドにて検出された溝状礫敷遺構①及び②の敷地造成層または遺構①～②覆土層。上位層であるII a～b層とは明らかに様相が異なり、黒褐色土で混入物が非常に少ない。

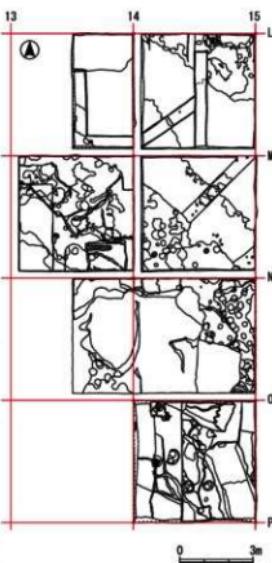
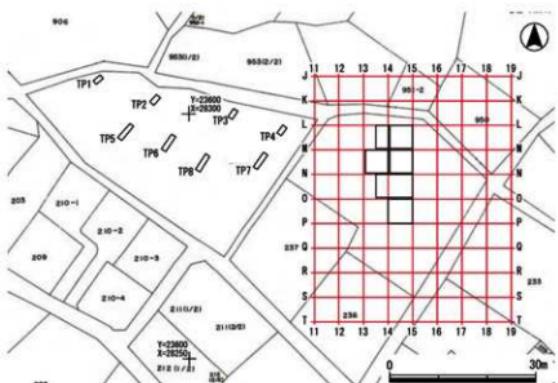
7.5YR4/1

V 層 明褐色の粘土質シルト(普天間飛行場基地 基本層序)。

VI 層 鈍い明黄褐色で上方細粒化する砂質シルト(同上)。

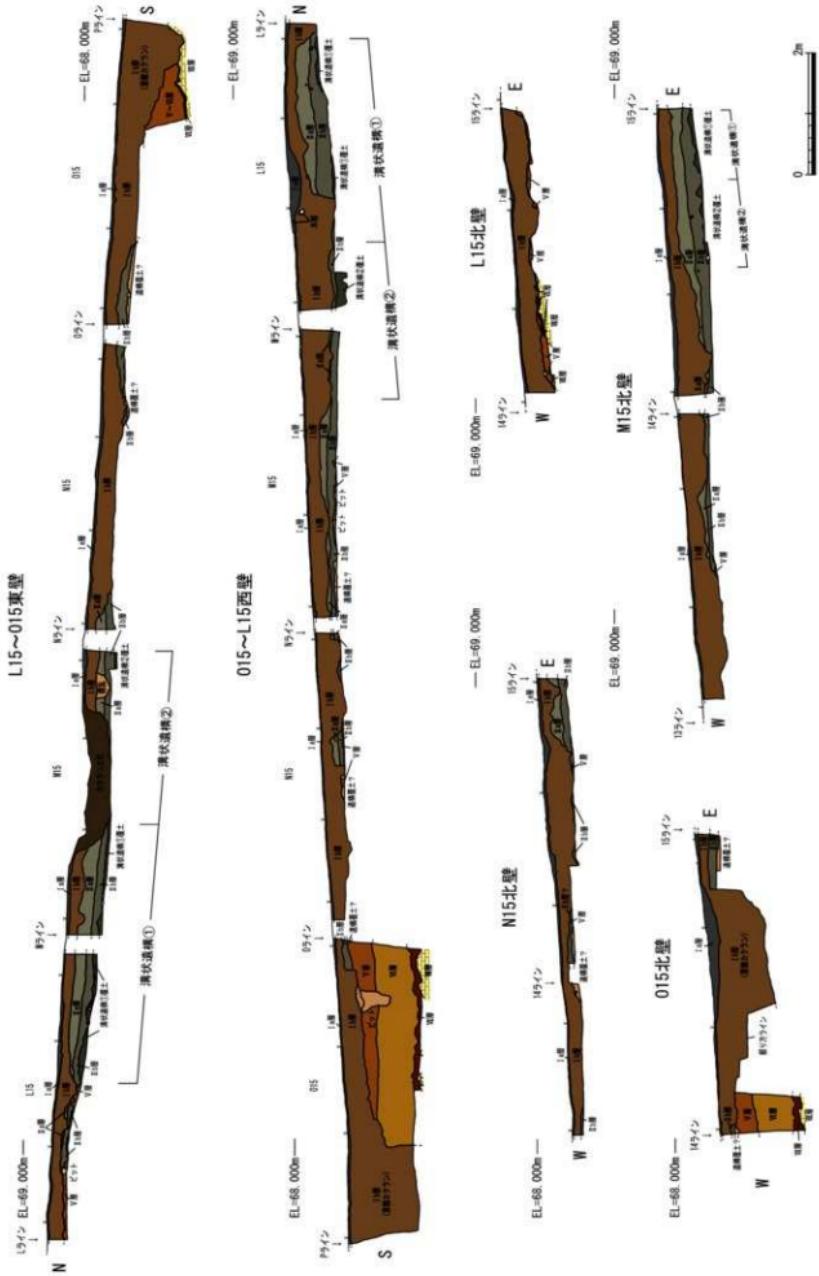
VII 層 暗褐色の粘土質シルト。Ⅷ層に沿うように堆積(同上)。

Ⅷ 層 黄灰色を呈する琉球石灰岩を構成する石灰岩(同上)。



第8図 調査区設定状況 (S=1/1000)

(S=1/200)



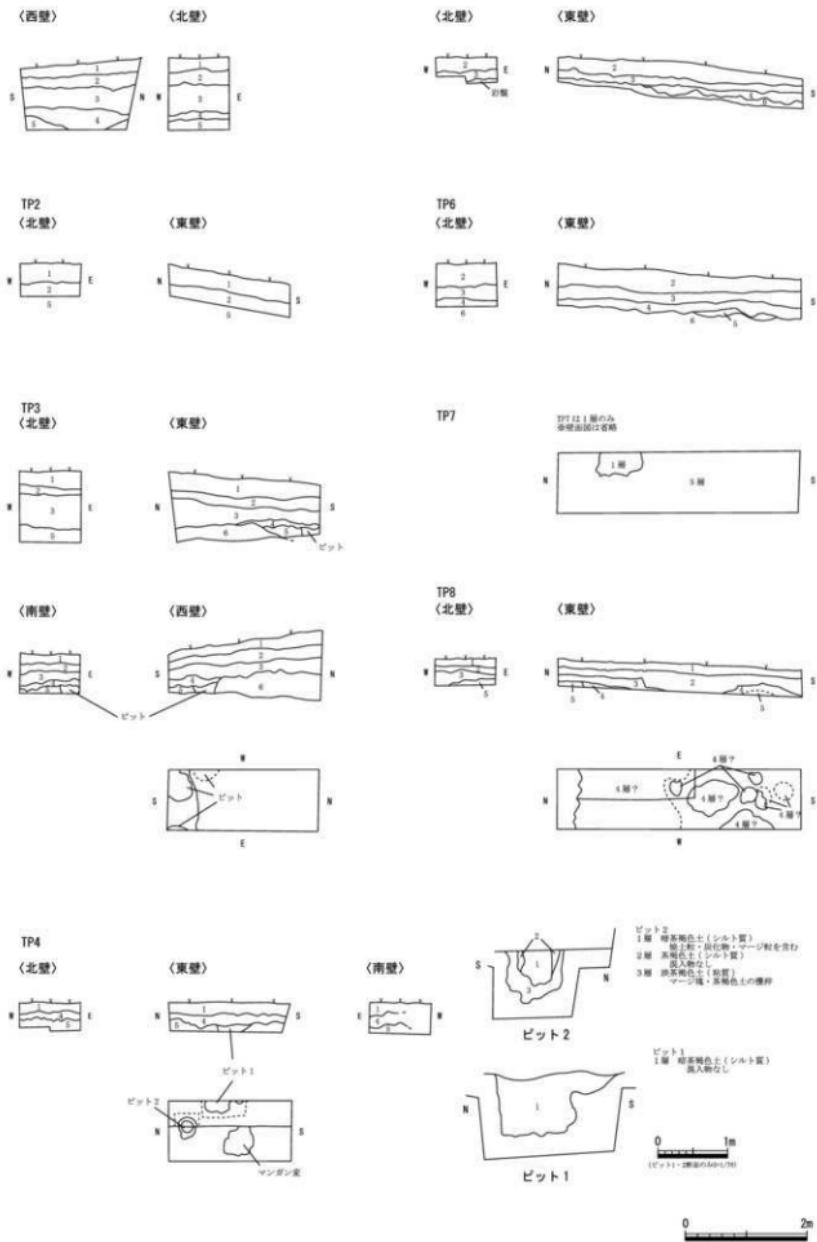
〈西側畑地試掘調査区 基本的層序〉

範囲確認調査区の西側には小作農の行われている農地があり、葉菜や豆類等の畑作が営まれているが、地権者と小作者の御理解と御協力をいただき、農閑期の時期に試掘調査を実施した。当該地の地形条件は南西方向への緩斜面をなすことから、西側畑地の前面において南西方向に軸を持つ試掘坑を8箇所設定した。これらの試掘坑には、1~8のTP Noを付して記録している。いずれの試掘坑についても耕作に伴う擾乱が認められており、プライマリーな遺物包含層等は確認されていない。なお、試掘調査を実施する以前に、地表面に散見される遺物の表面採集を行っている。以下に、各試掘坑の共通層序の概要を記す。

- 1層 耕作土層。試掘調査時点での耕作面。暗褐色混疊土層で焼土粒・炭化物粒僅かに含む。
- 2層 耕作土層。耕作機の攪拌により形成された1層以前の耕作土層。茶褐色混疊土層で、1層に比して焼土粒を多く含む。炭化物粒はあまり見られない。
- 3層 耕作土層。2層以前の耕作土層で耕作機により攪拌されている。やや粘質の暗褐色混疊土層で、焼土粒・炭化物粒・石灰岩小礫を多く含んでいる。
- 4層 耕作土層。遺構検出面であるマージ上層を大きく巻き上げる状態で攪拌された層。橙褐色混疊土層で、マージ塊や大きめなマージ粒を含んでいるほか、焼土粒や石灰岩小礫を含む。初期の作土化の痕跡が顕著である。
- 5層 地山面。いわゆるマージで、普天間飛行場基地の基本層序であるV~VII層に対応する層である。
- 6層 基盤層である琉球石灰岩。普天間飛行場基地の基本層序であるVII層に対応する層である。



図版3 西側畑地 試掘坑堆積状況

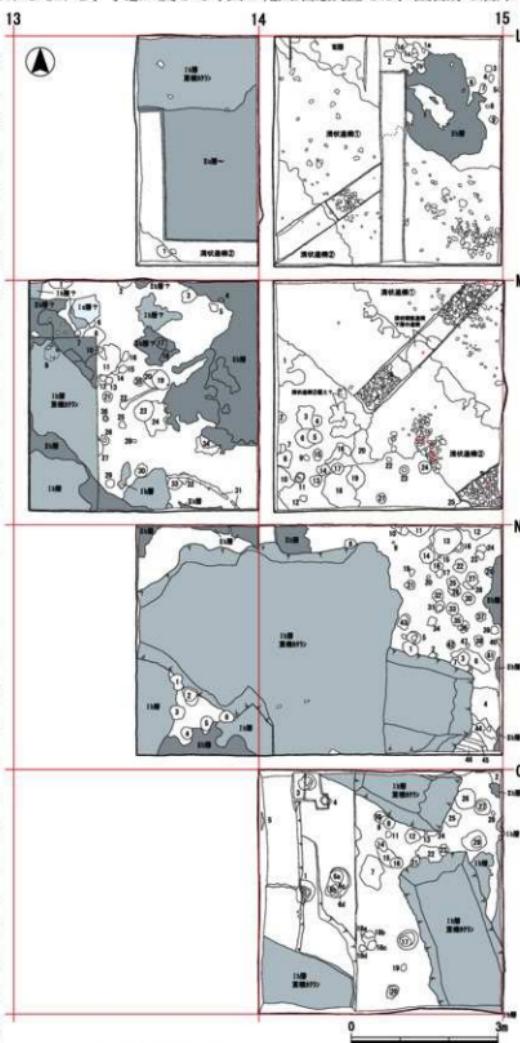


第10図 西側畑地 TP 断面・平面 (S=1/80)

## 第2節 遺構

これまでにも述べてきたように、表土除去後に調査グリッド全面において旧耕作土層が確認されたほか、国 有地化以前の開発行為によって、一部は遺構面まで大規模に搅乱されているのが確認されており、そのことを示すバックホーによる搅乱土坑が無数に存在する状況であった。言うまでもなくプライマリーな遺物包含層についても、今回の調査においては確認することができなかったことから、当初より、調査区内の遺構の保存状況は芳しくないことが予想されていた。しかしながら、予想に反して今回の範囲確認調査では、住居跡や倉庫跡等の掘立柱建物跡が想定される多くのビット群や土坑が集中的に検出されており、これらの中には柱痕が明瞭なビットについても複数例が認められ、建物の平面的プランについても検討が可能な状況であった。その他にも、規則的に列状をなすビット群が検出されており、当該遺構は昨今の発掘調査の事例からグスク時代の畠跡が考慮されている。また、グスク土器複数個体が一括して検出された土坑も確認されており、周辺のビットからは接合資料も検出されていて特徴的であると言える。これらは、いずれもグスク時代(中世)が比定されている遺構である。また、近世以降に成立した嘉数村の旧道が想定される溝状礫敷遺構も2条検出されており、現在の里道とおおよそ平行する形で並列している状況であった。

このような状況から、嘉数トウンヤマ遺跡が中世から近世～近代にかけての複合遺跡であることが把握されたわけだが、今回の調査は遺跡の範囲や時期・時代等の性格を把握することが目的とされた範囲確認調査であることから、これらの確認された各種の遺構については、基本的に競売後に予想される本発掘調査において詳細な調査を実施することとし、N-15 グリッド内のバックホーによる搅乱土坑において認められた断面情報が把握できる遺構のみを調査対象としたことを断っておく。以下に、確認された主要な遺構についての詳細を記す。



第 11 図 主要遺構検出状況図 (S=1/100)

第3表 ピット法量一覧

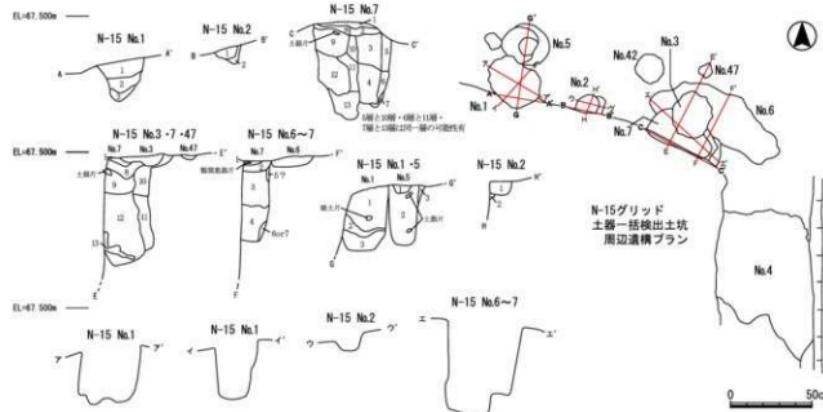
| アソブ | 遺物<br>番号 | 寸<br>法(cm) |    |    | 形<br>状 | 出<br>土<br>遺<br>物 | 備<br>考          |
|-----|----------|------------|----|----|--------|------------------|-----------------|
|     |          | 後幅         | 前幅 | 深さ |        |                  |                 |
| L14 | 1        | 38         | 17 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 4        | 44         | 20 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 1b       | 27         | 21 | —  | 楕円形    | 青磁               |                 |
|     | 1c       | 38         | 25 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 1d       | 31         | 23 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 2        | 23         | 11 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 3        | 13         | 13 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 4        | 18         | 10 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 5        | —          | —  | —  |        |                  |                 |
|     | 6        | 17         | 17 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
| L15 | 7        | 21         | 13 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 8        | 7          | 6  | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 9        | 18         | 14 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 1        | 49         | —  | —  |        |                  |                 |
|     | 2        | 31         | —  | —  |        |                  |                 |
|     | 3        | 22         | 27 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 4        | 11         | 10 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 5        | 26         | 17 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 6        | 17         | 12 | —  | 円形?    |                  |                 |
|     | 7        | —          | 11 | —  | 楕円形?   |                  |                 |
| M11 | 8        | 45         | 41 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 9        | 38         | 30 | —  | 楕円形    | 石火(青磁)底          |                 |
|     | 10       | 11         | 10 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 11       | —          | —  | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 12       | 15         | 14 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 13       | 15         | 12 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 14       | 14         | 13 | —  | 楕円形?   |                  |                 |
|     | 15       | 19         | 15 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 16       | 23         | 12 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 17       | 28         | 21 | —  | 楕円形    |                  |                 |
| M12 | 18       | 45         | 18 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 19       | 39         | 32 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 20       | —          | 15 | —  | 楕丸形?   |                  |                 |
|     | 21       | 21         | 21 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 22       | —          | —  | —  | 楕状?    | 円弧状遺構?           |                 |
|     | 23       | 42         | 36 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 24       | 71         | 31 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 25       | 15         | 12 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 26       | 21         | 19 | —  | 楕円形    | 柱穴(青磁)?          |                 |
|     | 27       | 40         | —  | —  | 不記形    |                  |                 |
| M13 | 28       | 7          | 7  | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 29       | 17         | 17 | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 30       | 28         | 23 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 31       | —          | —  | —  | 楕状?    | 円弧状遺構?           |                 |
|     | 32       | 20         | 19 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 33       | 25         | 23 | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 34       | 52         | —  | —  | 不記形    | 柱穴(青磁)?          |                 |
|     | 35       | 30         | 30 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 36       | 14         | 12 | —  | 楕円形    |                  |                 |
| M14 | 1        | 100        | —  | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 2        | —          | 19 | —  | 楕円形?   |                  |                 |
|     | 3        | 46         | 31 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 4        | 32         | 30 | —  | 円形?    |                  |                 |
|     | 5        | 31         | 26 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 6        | —          | 40 | —  | 楕円形?   |                  |                 |
|     | 7        | 17         | 9  | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 8        | 34         | 29 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 9        | 13         | 10 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 10       | 89         | —  | —  | 不記形    |                  |                 |
| M15 | 11       | 23         | 17 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 12       | 13         | 12 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 13       | 25         | 21 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 14       | 25         | 19 | —  | 楕丸形    |                  |                 |
|     | 15       | 24         | 19 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 16       | 32         | 24 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 17       | 33         | 22 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 18       | 82         | 35 | —  | 不記形    |                  |                 |
|     | 19       | 30         | 27 | —  | 楕丸形?   |                  |                 |
|     | 20       | 70         | 38 | —  | 不記形    |                  |                 |
| N14 | 21       | 20         | 18 | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 22       | 10         | 8  | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 23       | 19         | 18 | —  | 円形     | 柱穴(青磁)?          |                 |
|     | 24       | 26         | 25 | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 25       | 35         | —  | —  | 円形?    |                  |                 |
|     | 2        | 41         | 30 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 3        | 31         | 30 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 4        | 25         | 24 | —  | 円形     |                  |                 |
|     | 5        | 29         | 23 | —  | 楕円形    |                  |                 |
|     | 6        | 27         | 24 | —  | 円形?    |                  |                 |
| N15 | 1        | 34         | 25 | 26 | 楕円形    | アスク土器            | 柱穴(青磁)?・窓(10cm) |
|     | 2        | 16         | 11 | 12 | 楕円形    | アスク土器            | 窓(10cm)         |

## 1. ピット群と掘立柱建物跡

V層以降（マージ）の地表面にて 159 基のピット群が検出されている（第 13 図・第 3 表）。これらのピット群は他の遺構とともにグリッド設定範囲外の当該敷地全域に広がっている可能性が十分に想定される。ピット群 159 基の内訳は、後述する列状ピット群 35 基と柱穴等が想定される 124 基で、ここでは後者について述べる。平面形は円形・橢円形・隅丸方形・不定形を呈しており、多くが円形・橢円形で、M-14 № 26・34、M-15 № 23、N-15 № 1・5・7、O-15 № 1・5・6・17・18・27・29 は柱痕が明瞭であり、掘立柱建物の柱穴が想定される。M-15 の重機擾乱部分や O-15 のサブトレンチにより損壊を受けた複数のピットを基礎資料とするべく調査・記録化を行い、積極的に平面プラン 1・2 を想定した（第 12 図）。直径 20 ~ 30 cm で深度 40 cm 前後のタイプと直径 40 cm 前後で深度 60 cm 前後のタイプの規格性が窺える。

## 2. 列状ピット群

N-14 ~ 15・O-15において植栽痕と称される列状ピット群が検出されている。当該遺構は、ゲスク時代（中世）の畠跡が考慮されており、近年の発掘調査成果においても報告事例が増加傾向にある。集中的に検出されている N-15 の状況からは上述のプラン 1・2 と同様に北西～南東の軸を有しており、直径 20 ~ 30 cm 前後で、N-14 や O-15 検出の当該ピットの基軸・直径についても同様な状況が窺える。なお、今回の調査では N-15 № 3 のみを調査・記録化し、その他の列状ピット群については検出状況のみを把握しただけである。



N-15 № 1・2・7 検出状況



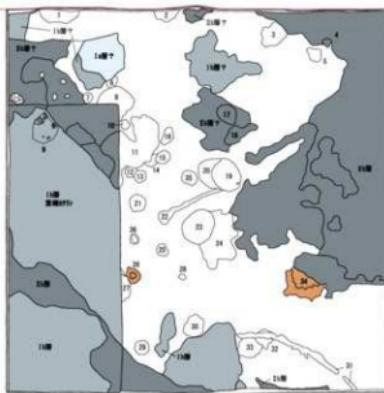
N-15 № 1 イーイ' ライン



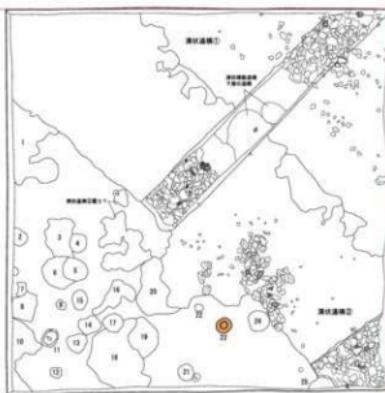
N-15 № 7 E ~ E' ライン

第 12 図 N-15 ピット平面図・断面図 (S=1/30)

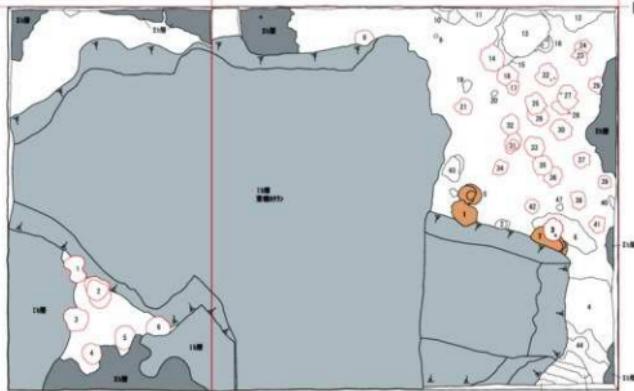
13



14



15

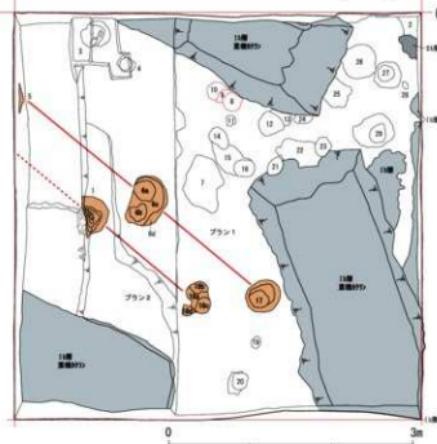


N

0



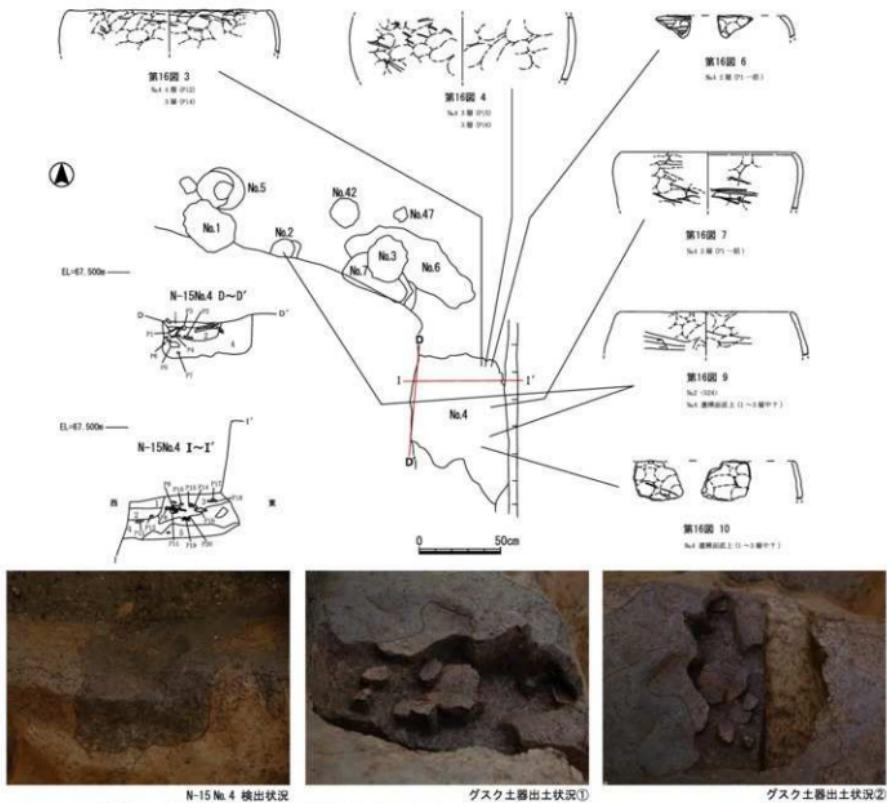
N-15 №.7 F ~ F' ライン



第13図 ピット群検出状況図 (S=1/60)

### 3. 土器一括検出土坑

N-15 № 4 土坑において、グスク土器片が一括して検出されている。重機攪乱により全容は把握できないが、II b 層除去後の遺構検出時において、すでに上位面に多量の土器片が露出している状況であったことから、平面的な堆積層の分層を行い、北側 1/3 部分を半裁して堆積状況及び出土状況を図化した。また、土坑中央部分の 1 ~ 3 層中において集中する土器片についても図化して取り上げており（第 14 図）、残りについては本調査時において調査することとし、今回の調査成果から残存部分の最大限の情報を抽出する手法を検討することとした。これらの一括出土された土器片の詳細については後述するが、遺構の性格としては廃棄土坑が想定され、1 ~ 3 層中の出土数は全体の約 80% を占めており、完掘していないにも関わらず、№ 4 土坑全体の 1/3 程度の出土資料で多くの接合が可能である。大部分が鍋であると思われ、口縁資料から少なくとも 10 個体以上はあるものと想定された（第 4 表）。また、質感・色調・焼成状況等の情報から 4 種に大別されたため、肉眼観察等による初期の分類に対する自然科学分析調査による精査を行っている（第 IV 章）。さらに、周辺のピットからも土器片が検出されており、それらが№ 4 土坑より検出された土器片と接合することも確認されている。



第 14 図 土器一括検出土坑平面図・断面図 (S=1/30)

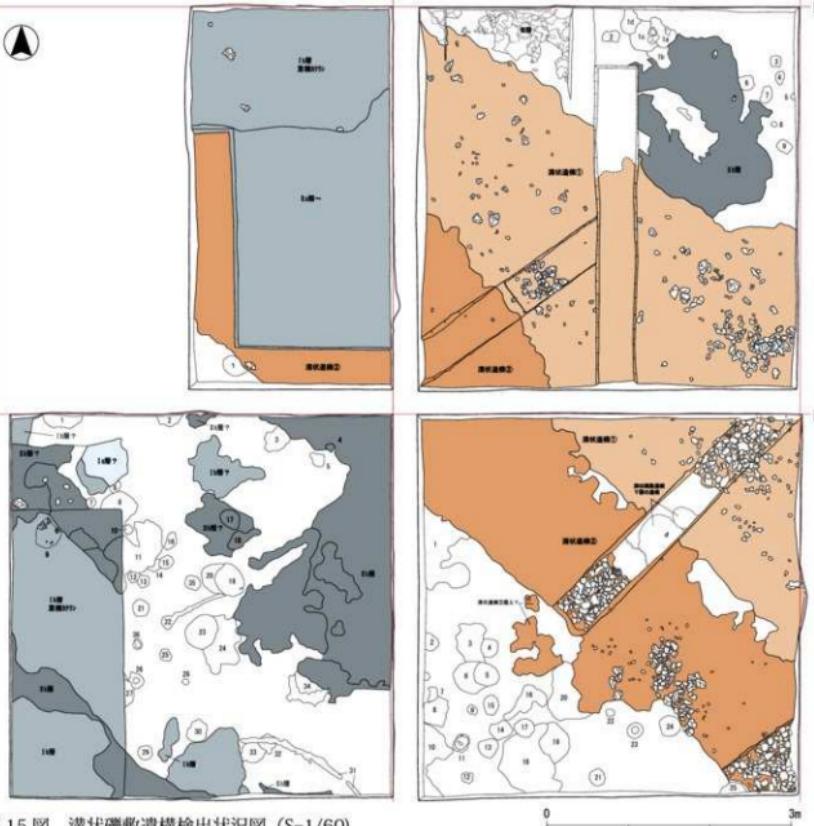
#### 4. 溝状礫敷遺構

L-14～15・M-14～15において溝状の礫敷遺構が2条確認されている。これらは、近世以降に成立したとされる旧嘉数村の里道が想定されており、現在も利用されている里道とおおよそ平行する形で2条とも検出されている。いずれも北西～南東に軸を持ち、M-15の北東～南西に設定した2つのサブトレンチにおける溝状礫敷遺構①～②の状況からは、溝状礫敷遺構②は溝幅が平均して1.5mと狭く、半円状に20～25cm程掘り下げた後、石灰岩礫を丁寧に充填している状況であったが、①は溝幅が2.5～4mと広く、5～10cm程の非常に浅い溝に雜に石灰岩礫を敷いている状況であった。さらに、両者の切りあい状況から溝状礫敷遺構①に先行して溝状礫敷遺構②が存在していたものと考えられ、溝状礫敷遺構②→溝状礫敷遺構①→現在の里道という変遷が推察できると言える。両者ともグリッド設定範囲外の北西～南東方向に延長して残存している可能性が十分に予想できる。また、溝状礫敷遺構①・②については、礫敷直上に青磁・白磁・褐釉陶器・黒釉陶器等の中世陶磁や沖縄産陶器等の近世以降の在地の陶器類が確認されており、青磁と沖縄産施釉陶器が顕著であった。さらには礫敷中には沖縄産施釉・無釉陶器のほか、アカムヌー等が含まれているのが確認されており、これらが旧道普請時に廃棄された可能性が考慮される。

13

14

15



第15図 溝状礫敷遺構検出状況図 (S=1/60)



O15 グリッド西壁断面図



サブトレーンチ東壁



O15 No. 1 断面



O15 No. 5 断面



M15 北壁断面



M15 東壁断面



N15 No. 4 土器取り上げ後



発掘調査メンバー

図版4 調査経過2



## 1. グスク土器

今回の範囲確認調査において、遺物収納コンテナ（大）8箱分のグスク土器が得られており、その大部分が表探や搅乱層、耕作土層等より出土した資料である。ここではN-15 № 4土坑において一括検出されたグスク土器片と周辺遭構から出土したグスク土器を対象としている。前節でも述べたが、N-15 № 4一括検出土坑の性格としては廃棄土坑か想定されている。1～3層中の出土数は№ 4全体の約80%を占めており、完掘していないにも関わらず、№ 4土坑全体の1/3程度の調査で、多くが接合可能となっている。興味深いのは殆どが鍋であると思われる点で、口縁資料から少なくとも10個体以上はあるものと想定されたほか、周辺ピット出土の土器片が№ 4土坑より検出された土器片と接合することも確認されており特徴的であると言える（第4表）。これらのグスク土器は、質感・焼成状況・硬質程度・特徴的混和材等の情報に特に留意して肉眼観察を行い、下記する4分類の特徴を設定してみた。なお、搅乱層や耕作土層等より出土した資料については分類済みだが未集計であるため、グスク土器全体の詳細については、現在整理中の緊急発掘調査報告書にて述べることとする。また今回は、肉眼観察等の初期分類に対する自然科学分析調査による精査を行っており、新たな観察視点や分類基準を模索すべく、肉眼観察における分類項目を補完する形でさらに細分類をしている（第IV章参照）。

### 鍋（第16図1～13）

概ね内輪・内傾に広口・広底を基調とした煮沸形態で、グスク土器の主要器種である。N-15 № 4一括検出土坑より得られたグスク土器片は、口縁・胴部・底部が確認されており、把手・突起部分は得られていない。今回の分類は、質感・焼成状況・硬質程度・特徴的混和材等の情報に特に留意して行った。以下に分類概要を記す。

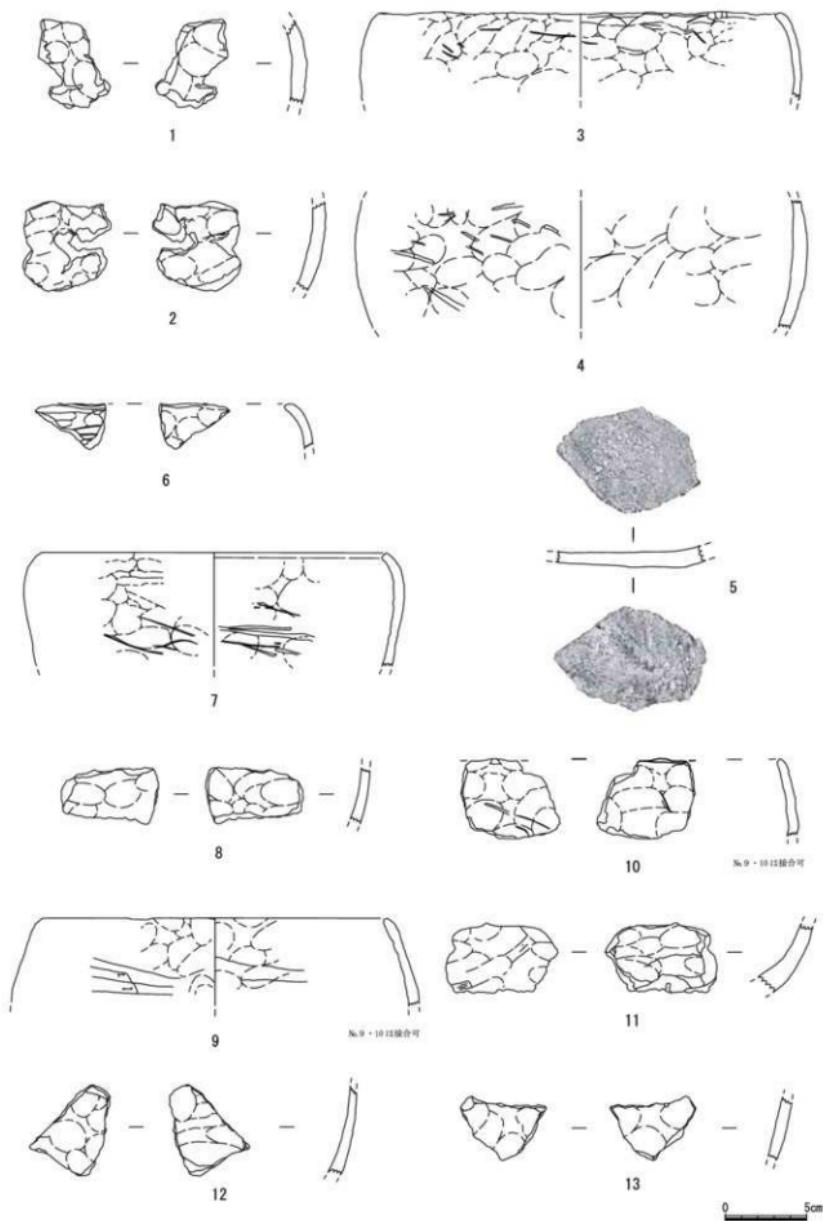
- I類 軟質泥胎であばた状を呈する多孔質の土器で焼成も比較的良好。胎土中には石英のみ、もしくは石英と長石が認められ、僅かではあるが鉱物片あるいは岩石片等の有色鉱物を含み、調整痕も顕著である。真志喜森川原遺跡A口類に相当するものと思われる。外側面に土付着が著しいタイプをa、やや硬質なタイプをb、いわゆる軟質泥胎をc、やや砂質なタイプをdとして細分した。
- II類 軟質泥胎であばた状の多孔質土器で調整痕も認められ、焼成も良好である。肉眼観察的な情報はI類に類似するが、胎土中には混和材としての石灰質砂粒が顕著に認められる。真志喜森川原遺跡Aハ類に相当するものと思われる。
- III類 比較的硬質で胎土は砂質である。器面は鉱物片あるいは岩石片と思われる有色鉱物の混和材の露出によりザラツキ感がある。真志喜森川原遺跡B口類に相当するものと思われる。
- IV類 硬質で胎土は泥質を呈しており、III類に類似する。滑石粒の混和が認められ、細粒と粗粒があり、量により青灰色を呈するものもある。III類に比して少量ではあるが、鉱物片あるいは岩石片と思われる有色鉱物の混和材が認められる。

第5表 土器出土状況一覧

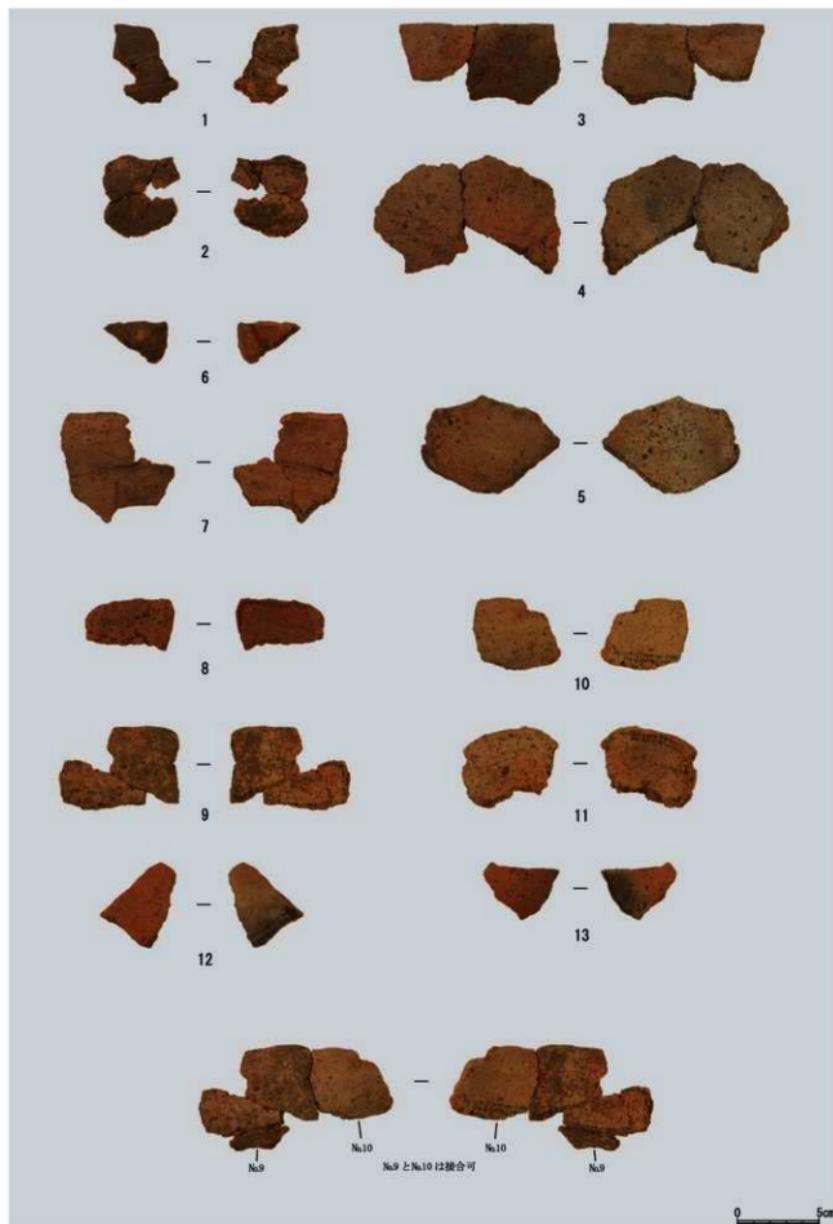
| 出土分類・部位        | I        |          |          |          | II       |          |          |          | III      |          |          |          | IV       |          |          |          | 合計 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----|
|                | Ⅰ類<br>口縁 | Ⅰ類<br>胴部 | Ⅰ類<br>底部 | Ⅰ類<br>全体 | Ⅱ類<br>口縁 | Ⅱ類<br>胴部 | Ⅱ類<br>底部 | Ⅱ類<br>全体 | Ⅲ類<br>口縁 | Ⅲ類<br>胴部 | Ⅲ類<br>底部 | Ⅲ類<br>全体 | Ⅳ類<br>口縁 | Ⅳ類<br>胴部 | Ⅳ類<br>底部 | Ⅳ類<br>全体 |    |
| N-15 № 4       | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
|                | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
| 115            | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
| N-15 № 4-115-1 | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
| N-15 № 4-115-2 | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
| N-15 № 4-115-3 | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |
| N-15 № 4-115-4 | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 3        | 1        | 1        | 1        | 1        | 11 |

第6表 ゲスク土器観察一覧

| 擇団番号<br>図版番号 | 器種・分類 | 部位  | 口種<br>器高<br>底径 | 胎土質・混和材<br>器面観察等   | 器形・成形等の特徴   | 器面調整  | 色調  | 出土地                    |                      |
|--------------|-------|-----|----------------|--|---|---|---|------------------------|----------------------|
|              | 1     | I a | -              | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒を混入。<br>外面に土が付着する。                | 脛部中央より口縁部に向かう緩やかに内壁。  | 内外面ともに指圧痕が顯著である。<br>外面はナデ調整がなされている。                           | 内外面ともに<br>にぶい褐色   | N-15N4<br>N-15N5       |                      |
|              | 2     | I a | -              | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒を混入。<br>外面に土が付着する。                | 脣部下部より緩やかに丸みを持って脣上部へ立ち上がる。                                  | 内外面ともに指圧痕が顯著である。<br>外面はナデ調整がなされている。                           | 内外面ともに<br>にぶい褐色   | N-15N4<br>N-15N4 3層    |                      |
|              | 3     | 口縁  | 24.8           | 軟質泥胎でやや硬質。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。               | 内壁口縁。<br>全周に丸みを持たせて内壁をせる。<br>口唇は丸みを帯びる。<br>全体的に丁寧な成形。       | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整。ナデ調整がなされている。                          | にぶい褐色<br>にぶい黄褐色   | N-15N4 3層<br>N-15N4 4層 |                      |
|              | 4     | I b | -              | 軟質泥胎でやや硬質。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。<br>(最大脣径28cm) | 脣部下部より緩やかに丸みを持って脣上部へ立ち上がる。                                  | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整。ナデ調整がなされている。比較的に躊躇な成形である。             | にぶい褐色<br>にぶい黄褐色   | N-15N4 3層              |                      |
|              | 5     | 底部  | -              | 軟質泥胎でやや硬質。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。               | 底面の立ち上がりは切は比較的緩やかである。<br>全体的に躊躇な成形。                         | 内面の器面状態良好で比較的丁寧な成形。<br>外面部底面は葉脈痕か? 凹凸が顯著である。                  | にぶい橙褐色<br>にぶい黄褐色  | N-15N4 3層              |                      |
| 第160回<br>図版5 | 6     | I c | 口縁             | -  | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒。<br>Na7と同一個体か?              | 口縁直下で強く内壁。<br>口唇部は丸みを帯びる。<br>全体的に躊躇な成形。                       | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整。ナデ調整がなされている。比較的に躊躇な成形である。             | にぶい橙褐色<br>にぶい褐色        | N-15N4 2層            |
|              | 7     | I c | 口縁             | 21.2   | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒を混入。<br>Na6と同一個体か?           | 口縁直下で強く内壁。<br>口唇部は丸みを帯びる。<br>内壁断面が舌状・平坦と均一性がない。<br>全体的に躊躇な成形。 | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整。強引な凹凸がある。その後ナデ調整がなされている。比較的に躊躇な成形である。 | にぶい橙褐色<br>にぶい褐色        | N-15N4 2層            |
|              | 8     | I d | 脣部             | -  | 軟質泥胎でやや硬質。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒を混入。                    | 脣部下部より緩やかに丸みを持って脣上部へ立ち上がる。                                    | 内外面ともに指圧痕が顯著である。<br>外面はナデ調整がなされている。                           | にぶい橙褐色                 | N-15N4 4層            |
|              | 9     | II  | 口縁             | 21.2   | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。<br>Na10と同一個体。 | 内壁口縁。<br>脣部中央から辺の字状に強く内傾させる。<br>口唇は丸みを帯びる。<br>全体的に丁寧な成形。      | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整が顯著で、その後ナデ調整がなされている。比較的に丁寧な成形である。      | にぶい橙褐色<br>にぶい褐色        | N-15 N.1<br>N-15 N.2 |
|              | 10    | II  | 口縁             | -  | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。<br>Na9と同一個体。  | 内壁口縁。<br>脣部中央から辺の字状に強く内傾させる。<br>口唇は丸みを帯びる。<br>全体的に丁寧な成形。      | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整が顯著で、その後ナデ調整がなされている。比較的に丁寧な成形である。      | にぶい橙褐色<br>にぶい褐色        | N-15N4 1~3層          |
|              | 11    | 脣部  | -              | 軟質泥胎。<br>あばた状で多孔質。<br>石英・長石・赤色粒・<br>石灰質砂粒を混入。                    | 脣部下部より緩やかに丸みを持って脣上部へ立ち上がる。<br>厚手の成形である。                     | 内外面ともに指圧痕が顯著。横江口縁毛目状の調整が顯著で、その後ナデ調整がなされている。比較的に丁寧な成形である。      | にぶい橙褐色  | N-15N4 1~3層            |                      |
|              | 12    | III | 脣部             | -  | 比較的硬質で砂質。<br>石英等の有色軽石を多量に混入。<br>全体的にザツキ感がある。                | 薄作りで、脣部下部より丸みを持って立ち上がる。<br>非常に丁寧な成形。                          | 内外面ともに指圧痕が顯著である。<br>外面はナデ調整がなされている。                           | にぶい赤褐色                 | N-15N4 1~3層          |
|              | 13    | IV  | 脣部             | -  | 比較的硬質で泥質。<br>滑石等の有色軽石を少量混入。<br>全体的に有色軽石を僅かに混入。              | 薄作りで、脣部下部より丸みを持って立ち上がる。<br>比較的丁寧な成形。                          | 内外面ともに指圧痕が顯著である。<br>外面はナデ調整がなされている。                           | にぶい赤褐色                 | N-15N4 9層            |



第16図 土器 鍋



図版5 土器 鋼

## 2. 類須恵器

類須恵器と思われる資料については、総数 103 点が得られている。本遺跡より出土した類須恵器は、概ね徳之島カムイヤキ窯の須恵器であると思われる。いずれも全形の窓い破片資料であるが、その全てが壺であると思われ、その他の器種については確認できていない。これらを出土層位別に見た場合、I a～b 層中 39 点、西側烟表採 28 点で II a～b 層中は僅かに 10 点と、ここでも重機搅乱や耕作に伴う恒常的な搅拌の状況が窓えると言える。さらに、部位別に見た場合、口縁部 3 点、把手 1 点、胴部 93 点、底部が 6 点となっており、胴部資料が極端に多く偏向的であると言える（第 7 表）。以下、特徴的な 14 点について図示して部位別に概観することとし、個々の遺物については観察表に記載した。

### 壺（第 17 図 1～14）

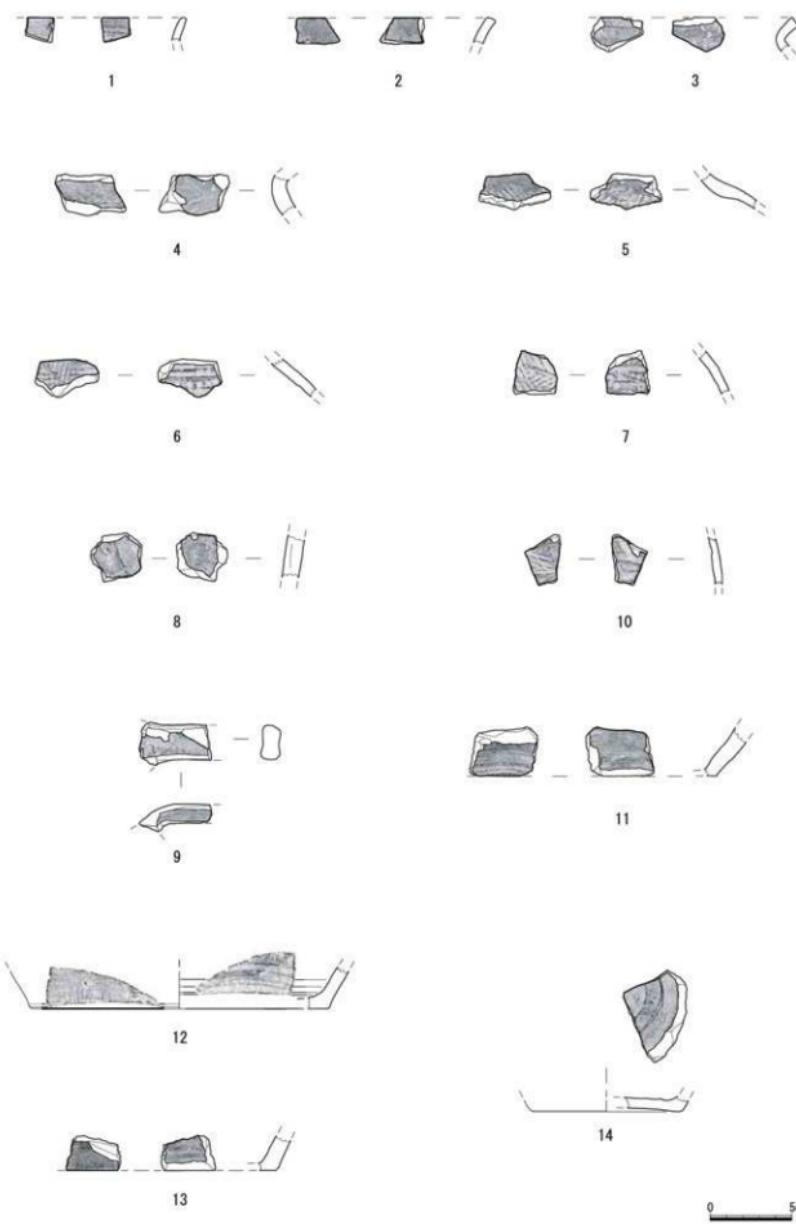
いずれの部位についても破片資料であることから全形は窓い知れないが、口縁部資料については、形態的な特徴から把手付壺や短頸の壺である可能性が考慮され、把手も 1 点検出されている。多くは無文であるが、一部の胴部資料については波状沈線が認められる資料がある。器壁両面ともに窓削りや叩き締め、ナデ調整等が行われている。底部資料については、大きめの壺と小壺とが得られている。

第 8 表 類須恵器観察一覧

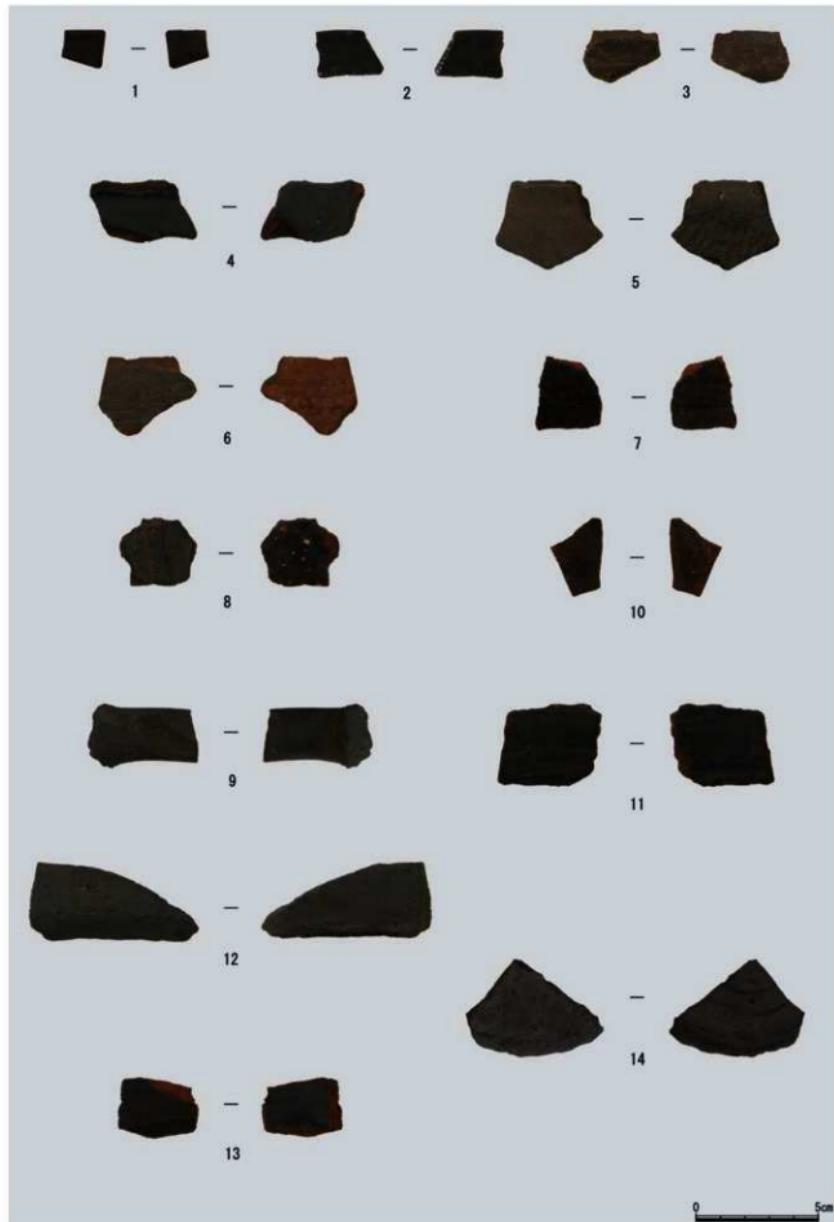
| 種図番号<br>図版番号   | 器種 | 部位         | 口径<br>器高<br>直径 | 焼成   | 色調等<br>外/内        | 器形・成形技法・文様等  | 出土地         |
|----------------|----|------------|----------------|------|-------------------|--|-------------|
| 第 17 図<br>図版 6 | 壺  | 口縁         | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 把手付壺の口縁か？微弱な外反。<br>薄手で、口唇部は舌状を呈する。<br>両面ともヘラ削り後に、ナデ調整を行う。      | L15 表採      |
|                |    |            | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 把手付壺の口縁か？微弱な外反。<br>1 に比して厚手で、口唇はやや平坦傾向。<br>両面ともヘラ削り後に、ナデ調整を行う。 | N14 I a～b   |
|                |    | 口縁         | -              | 還元焼成 | 灰褐色               | 無頬窓の口縁か？字状に大きな外反。<br>やや厚手で、口唇は平坦に成形。<br>両面ともヘラ削り後に、ナデ調整を行う。    | M15 I a     |
|                |    |            | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 無頬窓の胴部。くの字形に大きな外反。<br>厚手で、両面ともヘラ削り後にナデ調整を行う。                   | 西側烟表採       |
|                |    | 胴部<br>(肩?) | -              | 還元焼成 | 灰褐色               | 短頸窓の胴部(肩)片か？<br>外面は縫杉文の叩きの後にナデ調整。<br>内面に格子文の叩き痕。               | L14 I b     |
|                |    |            | -              | 焼成不良 | 灰褐色/茶褐色           | 短頸窓の胴部(肩)片か？<br>外面に縫杉文の叩きの後にナデ調整。<br>内面に格子文の叩き痕。               | L14 I a～b   |
|                |    | 胴部         | -              | 焼成不良 | 灰褐色               | 外面に縫杉文の叩きの後にナデ調整。<br>内面に格子文の叩き痕。                               | 西側烟表採       |
|                |    |            | -              | 還元焼成 | 灰褐色/黒灰色<br>(白色鉢物) | 把手付壺の胴部片。把手の位置に見られる円形の凹部分は確認できる。<br>両面ともヘラ削り後に、ナデ調整を行う。        | L14 I a～b   |
|                |    | 把手         | -              | 還元焼成 | 灰褐色               | 把手付壺の把手。<br>比較的丁寧なナデ調整を行う。                                     | 西側烟表採       |
|                |    |            | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 外面はヘラ削り後に、ナデ調整を行う。<br>波状沈線を施す。<br>内面は格子文の叩きの後にナデ調整。            | O15 表採      |
|                |    | 胴部         | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に難な調整である。                            | M1 I a～b    |
|                |    |            | -              | 還元焼成 | 灰褐色               | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に難な調整である。                            | O14 I a～b   |
|                |    | 底部         | -              | 還元焼成 | 黒灰色               | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に難な調整である。                            | M1 I b～II a |
|                |    |            | 18.2           | 焼成不良 | 器面は黒灰色<br>胎土は茶褐色  | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に丁寧な調整である。                           | N15 I b     |
|                |    | 底部         | -              | 還元焼成 | 灰褐色               | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に難な調整である。                            | N15 I b     |
|                |    | 底部         | 9.0            | 還元焼成 | 灰褐色               | 両面ともにヘラ削り後にナデ調整を行う。<br>全体的に難な調整である。                            | N15 I b     |

第 7 表 類須恵器出土状況

| 部位・基盤・寸法 | 壺  |    |    |    | 合計  |
|----------|----|----|----|----|-----|
|          | 口縁 | 把手 | 胴部 | 底部 |     |
| 口縁       | 1  | 7  |    |    | 8   |
| I        | 1  |    |    |    | 1   |
| I a      |    | 9  | 1  |    | 10  |
| I a～b    | 1  | 25 | 2  |    | 28  |
| I b～II a |    | 1  |    |    | 1   |
| I b～II a |    | 13 | 3  | 12 | 28  |
| II a     |    | 4  |    |    | 4   |
| II b     |    | 5  |    |    | 5   |
| II a～b   |    | 1  |    |    | 1   |
| 底        |    |    |    |    | 1   |
| X15 未記   | 1  |    |    |    | 1   |
| 不明       |    | 1  |    |    | 1   |
| 西側烟表採    |    | 1  | 26 | 1  | 28  |
| TP II    |    | 2  |    |    | 2   |
| 合計       | 3  | 1  | 93 | 6  | 103 |



第17図 類須恵器 壺



図版6 類須恵器 壺

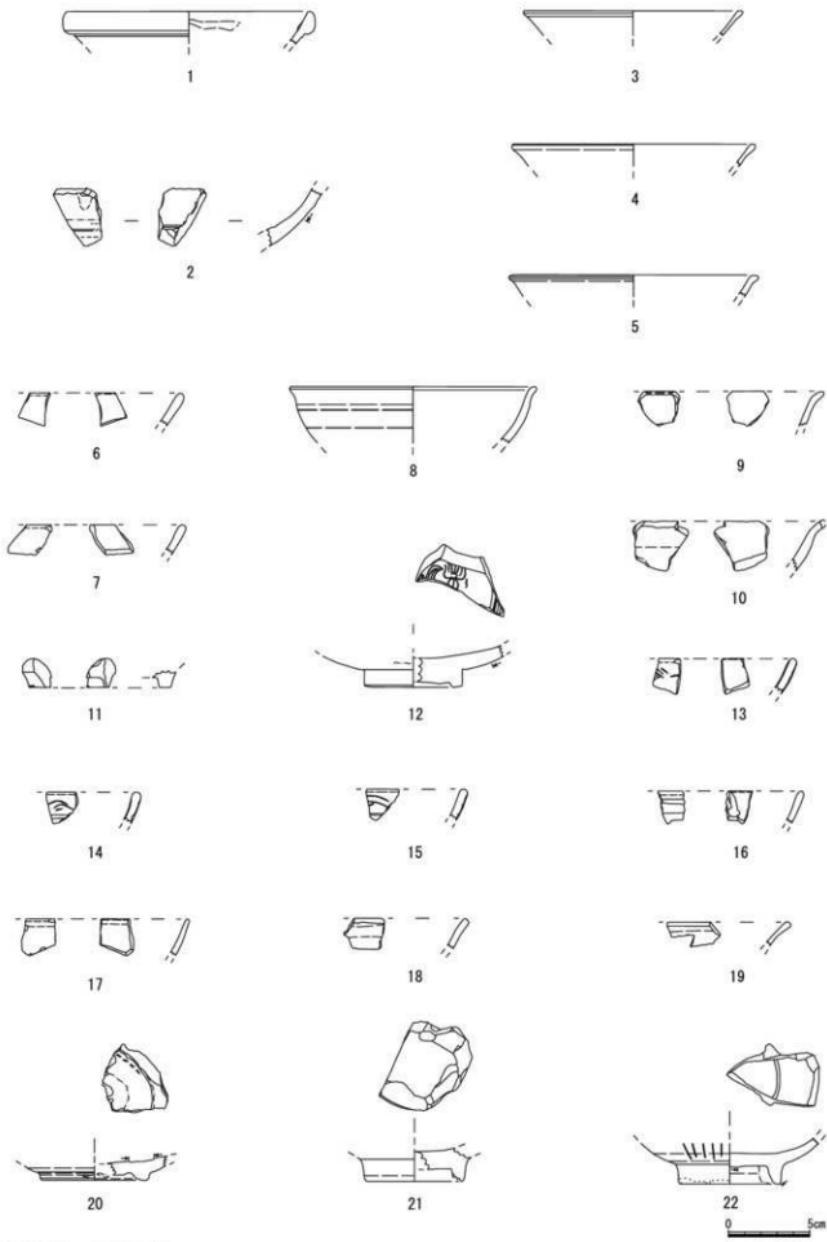


第10表 白磁觀察一覧1

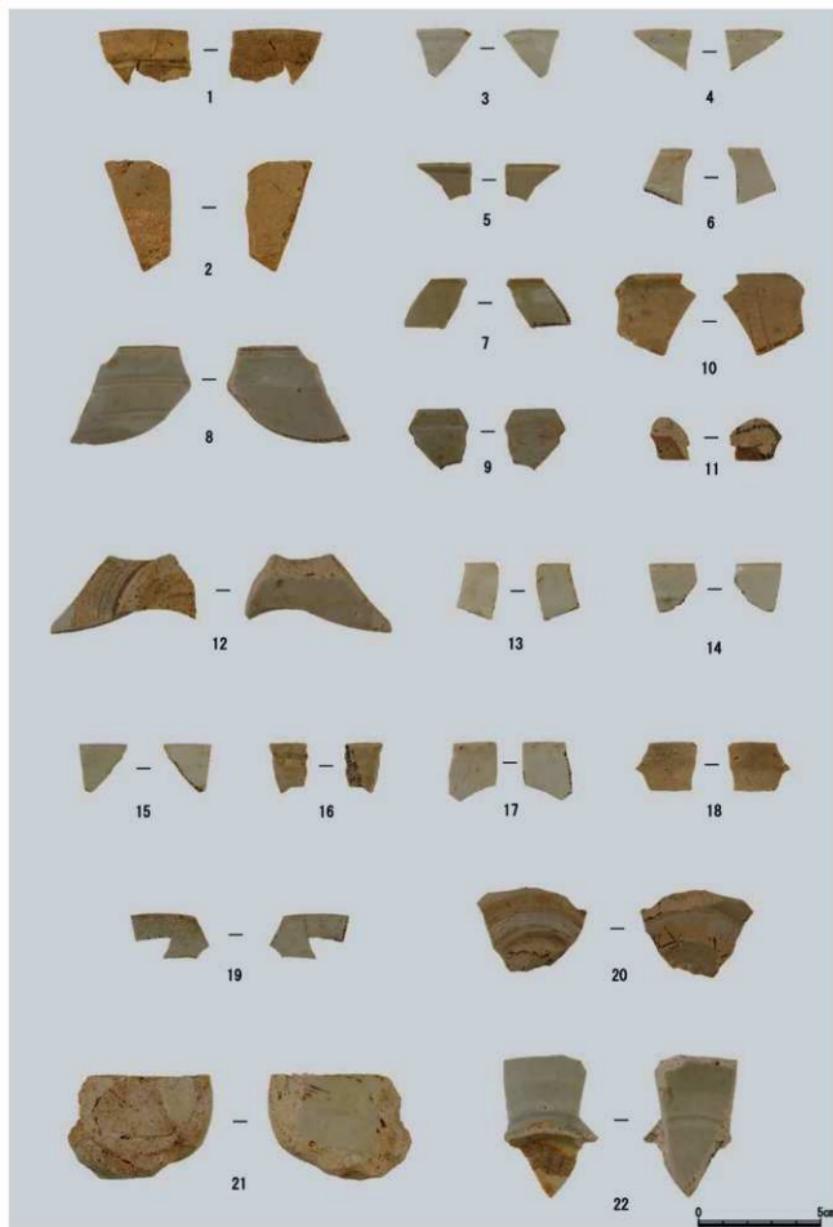
| 博岡番号<br>国版番号   | 器種・分類                          | 部位       | 口径<br>器高<br>底径      | 器形・成形・文様等の特徴   | 素地                      | 釉色・施釉状況・貫入等  | 出土地                   |
|--|--------------------------------|----------|---------------------|--|-------------------------|--|-----------------------|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10          | I                              | 口縁<br>脚部 | 15.0<br>-<br>-<br>- | 透「ハ」の字状に開く器形。玉縁下部を捺状工具で作り、底をなす。<br>全体的に薄作りである。             | 淡黄白色の繩粒子。<br>僅かに気泡感。    | 黄灰白色の釉を両面に施す。<br>内面に縦下部に釉垂り。<br>両面に非常に細かい貫入。           | L14 II b<br>L15 I a~b |
|  |                                |          | -                   | 厚手の成形で、見込みに圓輪を巡らす。   | 淡黄白色の繩粒子。<br>僅かに気泡感。    | 黄灰白色の釉を内面から外側胴下部まで施す。<br>外表面下部に釉垂り。<br>あばた状の気泡感。細かい貫入。 | TP7-1層                |
|  |                                |          | 13.6                | 口縁部を矧く折り、口唇を平坦に成形し内端に明顯な梗を持つ。                              | 淡黄白色の繩粒子。               | 淡黄白色の釉を両面に施す。  | L14 I b               |
|  |                                |          | 15.0                | 口縁部を矧く折り、口唇を平坦に成形し内端に明显な梗を持つ。                              | 淡黄白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡黄白色の釉を両面に施す。  | L12表採                 |
|  |                                | 口縁<br>脚部 | 15.4<br>-<br>-      | 口縁部をやや長めに折り、口唇を平坦に成形し内端に明顯な梗を持つ。                           | 灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。   | 灰白色の釉を両面に施す。   | M15 I b~ II a         |
|  |                                |          | -                   | 口縁部を微弱に内巻せる。<br>口唇は丸みを帯びる。                                 | 淡黄白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡黄白色の釉を両面に施す。  | M15 I b~ II a         |
|  |                                |          | -                   | 口縁部を微弱に内巻せ、内端に梗を持つ。<br>口唇は丸みを帯びる。                          | 灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。   | 灰白色的釉を両面に施す。   | L15 II b              |
|  |                                |          | 15.2                | 口縁下部から丸みを持つ立ち上がる。<br>口縁をやや外反させ、口唇は丸みを持つ。<br>外面上には触感窓が見られる。 | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 灰白色的釉を両面にやや厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                          | L15 I b               |
|  |                                |          | -                   | 口縁をやや外に反させ、口唇は丸みを持つ。                                       | 灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。   | 灰白色的釉を両面にやや厚めに施す。<br>両面に細かい貫入。                         | M14 II a              |
|  |                                |          | -                   | 脚部から丸みを持つ立ち上がる。<br>口縁をやや外反させ。                              | 淡黄灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。 | 白濁した灰白色的釉を両面に<br>やや厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                  | TP5-3層                |
| 11<br>12<br>13<br>14<br>15<br>16<br>17<br>18<br>19<br>20 | IV                             | 脚部<br>底部 | -                   | 無文外反脚の底部資料と思われる。<br>高台内側には浅く、比較的丁寧な成形である。                  | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | -  | L15 I b~ II a         |
|  |                                |          | -                   | 見込みに圓輪と構思不能な印加文。<br>高台内側には浅く、各部内端のものが幅付く。<br>高台の道は踏んである。   | 灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。   | 灰白色的釉を内面も脚部下部まで施す。                                     | L15 I b~ II a         |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや外反させ。  | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | -  | 西側埋表採                 |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | L15 I b               |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | 西側埋表採                 |
|  |                                | V        | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | 西側埋表採                 |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | L15 I b               |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | 西側埋表採                 |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | L15 I b~ II a         |
|  |                                |          | -                   | 口縁部をやや内巻気味に立ち上らせて<br>口唇とする。口唇は丸みを持つ成形。<br>外面上には触感窓がある。     | 淡灰白色の繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色の釉を両面に厚めに施す。<br>両面に粗い貫入。                           | 西側埋表採                 |
| 21<br>22<br>23<br>24<br>25<br>26<br>27<br>28             | VI<br>VII<br>I<br>II a<br>II b | 底部       | -                   | 薄手の直口縁。表面に外側に折れる。<br>口唇はやや平坦に成形。外側に調整板。<br>全体的に雑な造りである。    | 淡黄灰白色的繩粒子。<br>僅かに気泡感。   | 黄灰白色的釉を両面に施す。<br>両面に非常に細かい貫入。                          | TP7-1層                |
|  |                                |          | -                   | 薄手の直口縁。表面に外側に折れる。<br>口唇はやや平坦に成形。外側に調整板。<br>全体的に雑な造りである。    | 淡黄灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。 | 淡黄白色的釉を両面に施す。<br>両面に粗い貫入。                              | M14-15 I a~b          |
|  |                                |          | 6.4                 | 高台は高く、内端を斜けに削り取る。<br>底端を丸くする。                              | 淡灰白色的繩粒子。<br>僅かに気泡感。    | 灰白色的釉を内面に施した後。<br>底の目状に接着とっている。                        | TP6-3層                |
|  |                                |          | -                   | 分類不明の底部資料。<br>青花の可能性も考慮しておいて。<br>高台内側等は比較的丁寧である。           | 淡灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色的釉。<br>内面から高台外側まで施す。                               | K13表採                 |
|  |                                |          | 6.0                 | 高台は高く、内端を斜けに削り取る。<br>底端を丸くする。                              | 淡灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色的釉。<br>内面から基本的に高台外側まで施す。<br>優等にアルナ釉の滑着板。           | L15 I a~b             |
|  |                                | III      | -                   | 口縁部を矧く外反させる。<br>口唇は丸みを持つ。                                  | 淡灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色的釉を両面に施す。<br>両面に粗い貫入。                              | L15 I a~b             |
|  |                                |          | -                   | 口縁部を矧く外反させる。<br>口唇は丸みを持つ。                                  | 淡灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡灰白色的釉を両面に施す。<br>両面に粗い貫入。                              | L15 I a~b             |
|  |                                |          | -                   | 薄手で、口縁をやや内巻氣味に立ち上がらせる。<br>口唇は丸みを持つ。                        | 淡黄白色的繩粒子。               | 白濁した白色釉を施す。<br>両面に粗い貫入。                                | M15 II b              |
|  |                                |          | -                   | 薄手で、口縁をやや内巻氣味に立ち上がらせる。<br>口唇は丸みを持つ。                        | 淡黄白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡黄白色的釉を両面に施す。<br>両面に粗い貫入。                              | 西側埋表採                 |
|  |                                |          | -                   | 薄手で、口縁をやや内巻氣味に立ち上がらせる。<br>口唇は丸みを持つ。                        | 淡黄白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 淡黄白色的釉を両面に施す。  | M15 II a              |
|  |                                | II b     | -                   | 明乳頭の丸縁部、外端に削り取る。<br>口唇部には丸模が多量に付着。                         | 淡灰白色的繩粒子。<br>黒色繩粒子を含む。  | 灰白色的釉を内面に薄く施し、口唇から<br>外端にかけて薙痕。                        | L15 II b              |

第10表 白磁觀察一覧2

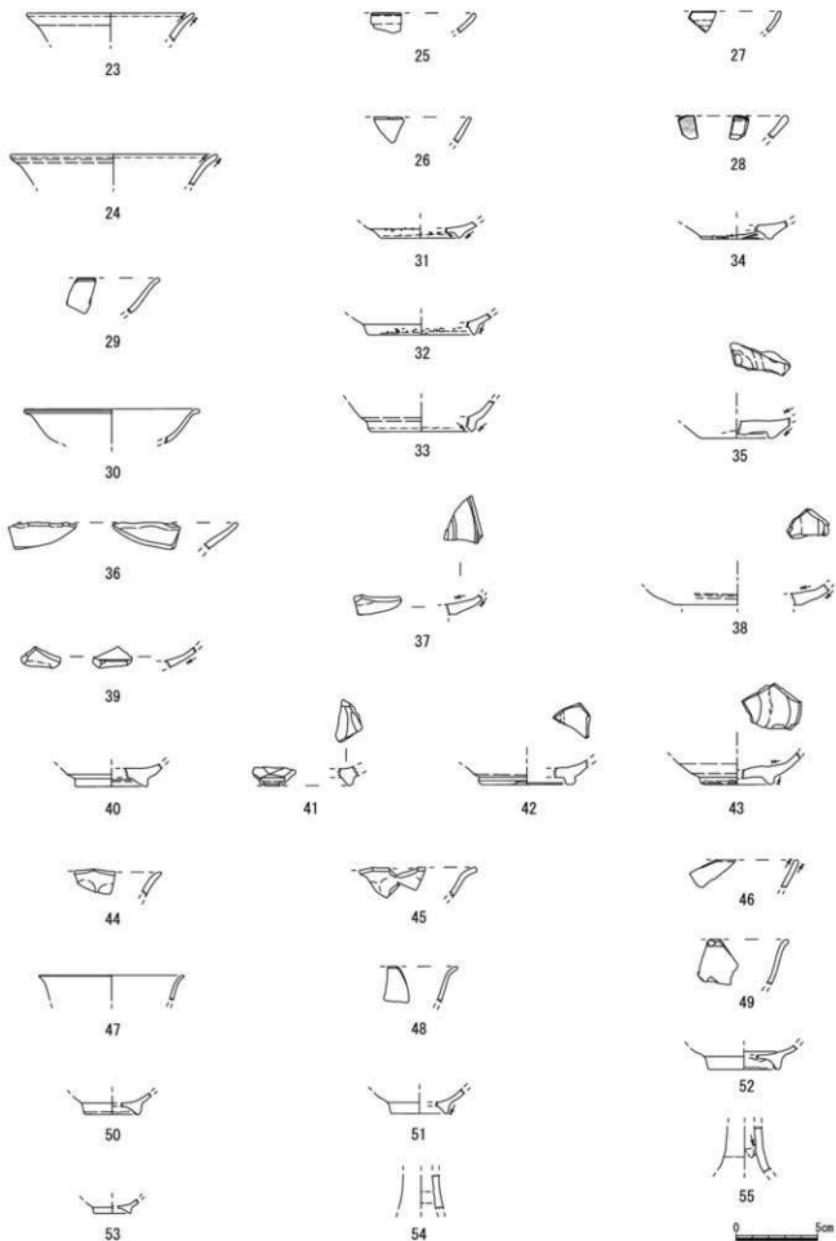
| 標因番号<br>図版番号   | 機器・分類 | 部位 | 器形・形態・文様等の特徴  | 产地                     | 釉色・施釉状況・貢入等                                      | 出土地                 |
|--|-------|----|---|------------------------|--|---------------------|
| 39<br>30<br>31<br>32<br>33<br>34<br>35<br>36<br>37<br>38                                     | III   | 口縁 | - 薄手の直の口縁破片。<br>- 口縁部を微弱に外反させる。<br>- 口唇は丸みを持つ。丁寧な造りである。         | 淡灰白色の微粒子。<br>黒色微粒子を含む。 | 淡灰色の釉を両面に厚く施す。                                   | L14 I b             |
|  |       | 口縁 | - 薄手の直の口縁破片。<br>- 口縁部を緩やかに外反させる。口唇は丸みを持つ。<br>- 比較的の雑な造りである。     | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 淡灰白色的釉を両面に厚く施す。                                  | L14 I b<br>L15 II b |
|  |       | 底部 | - 薄手の直の底部資料。<br>- 高台を三つの角形状に成形する。<br>- 比較的丁寧な造りである。             | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 淡灰白色的釉を両面に厚く施す。後付部分の釉を焼き取る。<br>高台付近の内側面に砂粒が付着。   | L15 表採              |
|  |       | 底部 | - 薄手の直の底部資料。<br>- 高台を三つの角形状に成形する。<br>- 31に比べて雑な造りである。           | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 淡灰白色的釉を両面に厚く施す。後付部分の釉を焼き取る。<br>高台付近の内側面に砂粒が付着。   | 西側塙表採               |
|  |       | 底部 | - 薄手の直の底部資料。<br>- 高台を三つの角形状に成形する。<br>- 比較的丁寧な造りである。             | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 淡灰白色的釉を両面に厚く施す。後付部分の釉を焼き取る。<br>高台付近の内側面に砂粒が付着。   | 西側塙表採               |
|  |       | 底部 | - 薄手の直の底部資料。<br>- 高台が不明瞭のため、基面低した。<br>- 外底の成形は非常に雑で繋げている。       | 灰白色の細粒子。               | 見込みに施釉した後、焼き取ったかの<br>ような痕跡が認められる。                | 西側塙表採               |
|  |       | 底部 | - 内削りは浅く、成形は雑である。   | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 外面の削下部と内施釉。<br>内底は墨脱並且。<br>非常に細かい貢入。             | M15 I b~ II a       |
|  |       | 口縁 | - 薄手の櫻花皿の口縁資料。<br>- 口唇を微弱に靡ませ桜花としている。                           | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 淡灰白色的釉を両面に厚く施す。                                  | L15 I b~ II a       |
|  |       | 胴部 | - 剣下部から角度を変えて立ち上がりせ。<br>- 壊折れがある。高台端は水平に削り取る。<br>- 比較的丁寧な造りである。 | 灰白色の微粒子。<br>微細な気泡感。    | 灰白色的釉を内面から削下部まで<br>施釉した後、見込みの釉を焼き取る。             | M15 I a~ b          |
|  |       | 胴部 | - 剣下部から角度を変えて立ち上がりせ。<br>- 壊折れがある。高台端は水平に削り取る。<br>- 比較的丁寧な造りである。 | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。   | 灰白色的釉を内面から削下部まで<br>施釉する。外面は釉が垂れる。                | N14 I b             |
| 40<br>41<br>42<br>43<br>44<br>45<br>46<br>47<br>48<br>49<br>50<br>51<br>52<br>53<br>54<br>55 | VI    | 胴部 | - 薄手の直の底部資料。<br>- 見込みに複数の縫隙を施す。<br>- 比較的丁寧な造りである。               | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 灰白色的釉を内面から削下部まで<br>施釉した後、見込みの釉を焼き取る。<br>粗い貢入が入る。 | L15 II b            |
|  |       | 底部 | - 外底を円弧に内削している。<br>- 高台端を直位に削り取り角度を変えて<br>立ち上らせる。比較的雑な成形。       | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 見込みに施釉した後、焼き取ったかの<br>ような痕跡が認められる。                | M14 I a~ b          |
|  |       | 底部 | - 外反重の底部資料か?  | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。   | -  | L15 I a~ b          |
|  |       | 底部 | - 高台を三つの角形状に成形する。<br>- 比較的雑な造りである。                              | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。   | 見込みに重ね焼きの際の胎土?                                   | M14 I a~ b          |
|  |       | 底部 | - 高台外面に段階的に取り換る。内削りは浅い。<br>- 外面に不明瞭なカナ貝が見られる。                   | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。   | 見込みに重ね焼きの際の胎土?                                   | M14 I a~ b          |
|  |       | 底部 | - 高台を逆「ハ」の字状となるように削り取る。<br>- 外面に不明瞭なカナ貝が見られる。                   | 灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。    | 灰白色的釉を高台外面まで施釉後に<br>見込みを焼き取っている。                 | L15 II b            |
|  |       | 口縁 | - 口唇を弧状に削り、波状口縁とする。<br>- 外面を削りて直角にする。                           | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白色の釉を両面に施す。<br>両面に細かい貢入が入る。                      | L14 I a~ b          |
|  |       | 口縁 | - 口唇を弧状に削り、波状口縁とする。<br>- 外面を削りて直角にする。<br>- 44に比べて丁寧な成形である。      | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 自薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | I b~ II a           |
|  |       | 口縁 | - 薄手の直口縁。口唇を口壳としている。<br>- 型成形か?                                 | 微細な微粒子。                | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>口唇を口壳としている。                | 西側塙表採               |
|  |       | 口縁 | 9.0<br>- 薄手で緩やかに外反させる。型成形か?                                     | 白色の微粒子。<br>微細な気泡感。     | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>外底はやや失透気味である。              | M15 I b~ II a       |
| 44<br>45<br>46<br>47<br>48<br>49<br>50<br>51<br>52<br>53                                     | III   | 口縁 | - 薄手で緩やかに外反させる。型成形か?  | 白色の微粒子。                | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | L14 I a~ b          |
|  |       | 口縁 | - 薄手で若干強めに外反させる。型成形か?   | 白色の微粒子。                | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | L14 I a~ b          |
|  |       | 口縁 | - 薄手で若干強めに外反させる。型成形か?   | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | L14 I a~ b          |
|  |       | 底部 | - 型成形の杯底部。  | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>高台内面に砂粒が付着する。              | 西側塙表採               |
|  |       | 底部 | - 型成形の杯底部。  | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>外底はやや失透気味である。              | 西側塙表採               |
|  |       | 底部 | - 型成形の杯底部。  | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>蓋付両面に砂粒が付着する。              | 西側塙表採               |
|  |       | 小杯 | 底部<br>- 型成形の小杯底部。   | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | 西側塙表採               |
|  |       | 瓶  | 瓶部<br>- 瓶の瓶部資料。<br>- 内面の剥離痕が顕著。                                 | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。                               | N14 I b             |
|  |       | 瓶  | 瓶部<br>- 瓶の瓶部資料。<br>- 内面に擦れ痕が認め痕。                                | 淡灰白色的微粒子。<br>黑色微粒子を含む。 | 白薦した灰白色的釉を両面に厚く施す。<br>内面に釉痕。                     | 西側塙表採               |



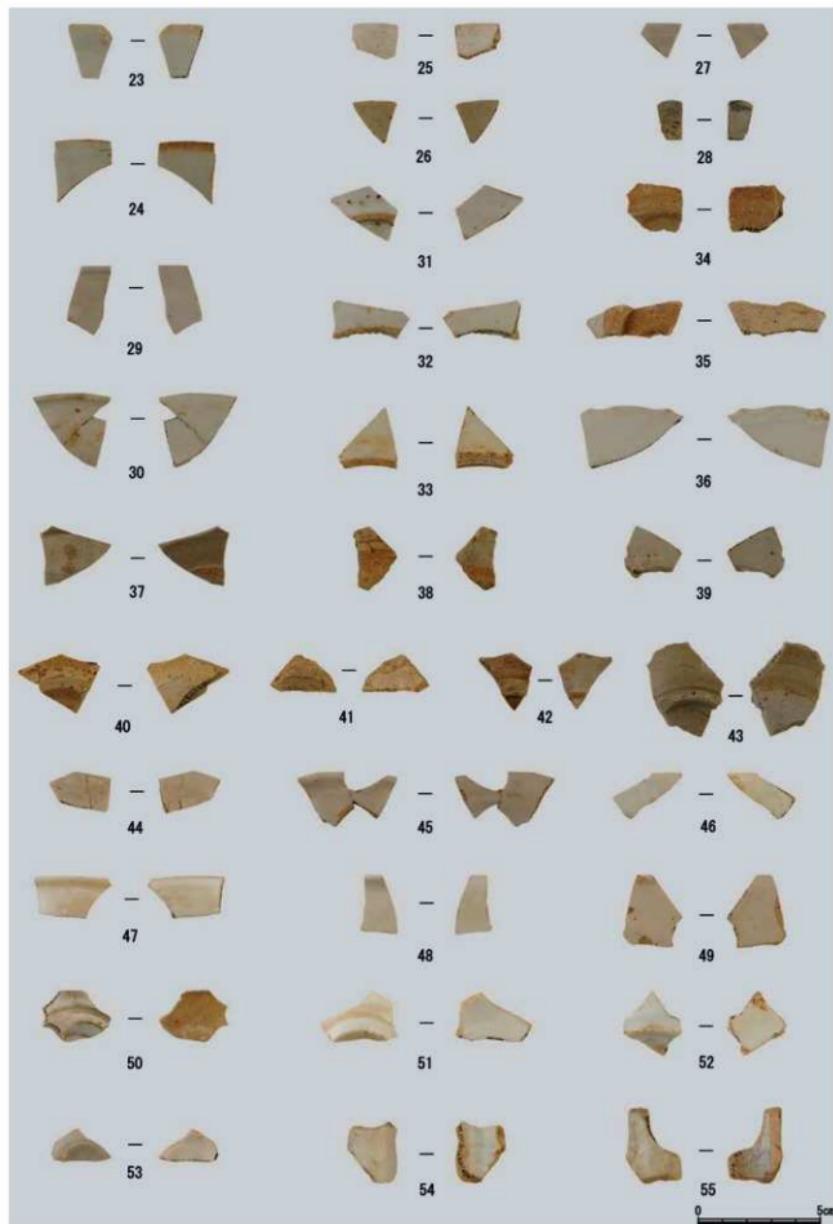
第18図 白磁1 碗



圖版7 白磁 1



第19図 白磁2 皿(23~43)、杯(44~52)、小杯(53)、瓶(54~55)



図版8 白磁 2

#### 4. 青 磁

輸入陶器で最も多く検出されたのは青磁である。総点数は1,882点を数え、他の輸入陶器を圧倒する。確認された器種としては、碗・皿・盤・酒会壺・香炉・馬上杯・瓶・袋物等がある。層別出土傾向としては、I a～b層が679点、II a～b層が407点、I～II層一括が221点と全体の7割弱を占めている。器種別傾向としては、碗が1,510点と全体の8割を占めている状況にある（第12表）。以下、器種別分類について述べ、詳細は観察表に記した。

碗（第20図～23図1～104）

- I類 薄花文碗（第20図1～5）直口タイプで内面に片切彫りや笠削りにより沈線や蓮華文を描いている。
- II類 柳描文碗 内外面に柳描文を施す碗。小破片のため、本報告では割愛した。
- III類 鎌蓮弁文碗（第20図6～12）直口タイプで外面に鎌を削りだした後、片切彫りにより蓮弁文を描いている。
- IV類 無鎌蓮弁文碗（第20図13～20）直口タイプで外面に片切彫りにより蓮弁文を描いている。
- V類 二叉蓮弁文碗（第20図21）比較的薄手の直口碗で、先の尖った叉状工具で蓮弁文を描いている。
- VI類 無文外反碗（第20図22～29）口縁部が外反する大振りの碗で、口唇は丸く成形されている。
- VII類 玉縁口縁碗（第21図30～35）口縁部を玉縁状に成形する碗で、佐敷タイプと称されている碗である。
- VIII類 ラマ式蓮弁文碗（第21図36～40）やや厚手の外反碗で、外面にラマ式の蓮弁文を描いている。
- IX類 有文外反碗（第21図41～43）波状口縁のほか内面口縁直下に四方櫛文（七宝繫文？）を描くものもある。
- X類 雷文帶碗（第21図44～55）口縁直下に雷文帯を巡らす。施文方法により笠削りをa、片押しをbとした。
- XI類 細蓮弁文碗（第22図56～67）外面に線描きによる蓮弁文を描く。弁先や蓮弁の幅に差異が認められる。
- XII類 無文直口碗（第22図68～75）直口タイプの無文碗。口唇が舌状となるものをa、断面方形状をbとした。
- XIII類 有文直口碗（第22図76～77）直口タイプの有文碗。波状沈線等の文様が認められる。
- XIV類 薄手直口碗（第22図78～83）薄手直口タイプで、口縁が逆「ハ」の字状に大きく開く。高台は広く、浅い。

底部資料は、特徴的な資料を図化した。第23図84～91を無文外反、同図92～104を無文直口と想定した。

皿（第24図105～133）

- I類 柳描文皿（第24図105～107）見込みに柳描文を施す、平底の皿。碗II類とセット関係にある。
- II類 口折皿（第24図108～111）口縁部を逆L字状に折り、口折れとする。外面には蓮弁文を施す。
- III類 稲花皿（第24図112～114）口唇部に浅目の抉りを入れて稲花とする。内面にはラマ式蓮弁文を描く。
- IV類 外反皿（第24図115～118）口縁部を緩やかに外反させる皿。線彫りのラマ式蓮弁文も見られる。
- V類 直口皿（第24図119～124）直口タイプの皿。無文のものと外面に片切彫りの蓮弁文を描くとのがある。

VI類 泉州窯系皿（第24図125）素地や施釉状況などから泉州窯系の皿と思われる資料が1点得られている。底部資料は、特徴的な資料のみ図化した（第24図126～133）。

盤（第25図134～143）

- I類 銀線盤（第25図134～136）銀線部をつまみ上げて成形しており、内面には笠描きの蓮弁文を施す。
- II類 口折タイプ（第25図137）口縁部を逆「L」字状に折る。口唇の平坦面には笠描きの文様が認められる。
- III類 直口タイプ（第25図138～139）口縁部を内轉気味に成形するのと逆「ハ」の字状に開くタイプとがある。

底部資料については、図上復元が可能な2点のみを図化した（第25図140～141）。

酒会壺（第25図144～148）酒会壺の蓋と底部が得られている。蓋内面には陽刻文、底部外面には笠削り文。

香炉（第25図149～153）口縁・胴部・底部がそれぞれ得られており、いずれも三足香炉であろう。

馬上杯（第25図154）馬上杯の脚部が1点得られている。外面に螺旋状の調整痕が認められる。

瓶（第25図155～158）双耳瓶の環破片、胴部片が得られている。文様構成等は判然としない。

袋物（第25図159）袋物の底部資料を1点図化した。瓶か小壺等が考慮される。



第12表 青磁觀察一覧1

| 標印番号<br>図版番号 | 器種・分類 | 部位 | 日清<br>切刃部 | 器形・成形・文様等の特徴                           | 素地        | 釉色・施釉状況・貢入等              | 出土地                       |
|--------------|-------|----|-----------|--|-----------|--------------------------|---------------------------|
| I            | 口縁    | 1  | 16.8      | 内面に片切り取りによる2本の縦繩とU字形の縫を描く。             | 灰白色の微粒子。  | 両面に淡緑灰色の釉。               | M14 II b~II b             |
|              |       |    |           | 口唇は平状に成形。内面に片切り取りによる区画縫と墨書き文を描く。       | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑灰色の釉。               | 西側堆土表探                    |
|              |       | 2  | ~         | 外周に縦直下を削り、輪郭は厚さとする。                    | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑灰色の釉。               | 西側堆土表探                    |
|              |       | 3  | ~         | 内面に片切り取りによる区画縫と墨書き文を描く。                | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑灰色の釉。               | 西側堆土表探                    |
|              |       | 4  | ~         | 外周に縦直下を削り、輪郭は厚さとする。                    | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑灰色の釉。               | 出土地不明                     |
|              |       | 5  | ~         | 内面に片切り取りによる区画縫と墨書き文を描く。                | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑灰色の釉。               | L15表探                     |
|              | 胴部    | 6  | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉。               | N15 II b                  |
|              |       | 7  | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 灰白色の微粒子。  | 両面に灰白色の釉。                | 西側堆土表探                    |
|              |       | 8  | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉。               | M15 I a~b                 |
|              |       | 9  | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉。失透気味。          | L15 I b                   |
|              |       | 10 | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉。               | M15表探                     |
| II           | 口縁    | 11 | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 灰白色の微粒子。  | 両面に淡緑黄色の釉。失透気味。          | 西側堆土表探                    |
|              |       | 12 | ~         | 口唇は平状に成形。外周に片切り取りによる蓮弁文を施す。            | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉。               | M15 II a                  |
|              |       | 13 | 16.4      | 口唇は丸みをもつて、外周面縦直下に2本の縦繩と片切り取りによる蓮弁文を施す。 | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉を厚く施す。          | L15 II a~b                |
|              |       | 14 | ~         | 厚手の手彌で、口唇は丸みを持つ。                       | 灰白色の微粒子。  | 両面に淡緑黄色の釉を厚く施す。          | L15 II b                  |
|              |       | 15 | 15.2      | 片切り取りによる蓮弁文が不明確である。                    | 灰白色の微粒子。  | 細かい貢入がある。                | L15 II a                  |
|              | 胴部    | 16 | ~         | 厚手の手彌で、口唇は舌状となる。                       | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に淡緑黄色の釉を厚く施す。          | K16表探                     |
|              |       | 17 | ~         | 外周に片切り取りによる蓮弁文を描く。                     | 灰白色の微粒子。  | 両面に淡緑黄色の釉を施す。            | L15 II b                  |
|              |       | 18 | ~         | 厚手で、片切り取りの蓮弁文を施す。                      | 灰白色の微粒子。  | 両面に緑黄色の釉を施す。             | 西側堆土表探                    |
|              |       | 19 | ~         | 厚手で、片切り取りの蓮弁文を施す。                      | 灰白色の微粒子。  | 淡緑黄色の釉高台内面まで施す。          | M14 II b                  |
|              |       | 20 | 6.2       | 比較的薄手で、高台の成形や内削による蓮弁文。                 | 淡灰白色の微粒子。 | 淡緑黄色の釉高台内面まで施す。          | M15 II b                  |
| III          | 底部    | 21 | ~         | 高台に片切り取りによる蓮弁文。                        | 淡灰白色の微粒子。 | 粗い貢入がある。                 | L15 I b                   |
|              |       | 22 | ~         | 厚手で、手彌や外反き、外周に交叉工具で蓮弁文を施す。             | 灰白色の微粒子。  | 両面に緑黄色の釉を施すが二次的被熱を受けている。 | TPB-2層                    |
|              |       | 23 | ~         | 口唇は手彌や外反き、口唇は丸みを持つ。                    | 灰白色の微粒子。  | 両面に緑黄色の釉を施す。             | L15 I b                   |
|              |       | 24 | ~         | 厚手で、手彌や外反き、外周に蓮弁文が見られる。                | 赤褐色の微粒子。  | 失透気味の緑黄色の釉を施す。           | 西側堆土表探                    |
|              |       | 25 | 14.0      | 口唇は手彌や外反き、口唇は丸みを持つ。                    | 灰白色の微粒子。  | 失透気味の緑黄色の釉を施す。           | N14 I b                   |
|              | 口縁    | 26 | 14.6      | 口唇は手彌や外反き、口唇は舌状。                       | 灰白色の微粒子。  | 失透気味の緑黄色の釉を施す。           | M14 I a~b                 |
|              |       | 27 | ~         | 口唇は手彌や外反き、口唇は丸みを持つ。                    | 灰白色の微粒子。  | 両面に緑黄色の釉を施す。             | L15 I b~II b              |
|              |       | 28 | ~         | 口唇を大きく外反させ、口唇は丸みを持つ。                   | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に粗い貢入がある。              | L15 II b                  |
|              |       | 29 | 15.4      | 口唇を大きく外反させ、口唇は舌状。                      | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を施す。             | M14 I a~b                 |
|              |       | 30 | 18.3      | 口唇を手彌や外反させ、口唇は舌状。                      | 灰白色的微粒子。  | 両面に緑黄色の釉を施す。             | L15IIa b                  |
| IV           | 口縁    | 31 | ~         | 口唇は手彌状で大きめ肥厚する。                        | 白色藍色を含む。  | 両面に粗い貢入がある。              | M15 II a                  |
|              |       | 32 | ~         | 口唇は手彌状で大きめ肥厚する。                        | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に粗い貢入がある。              | L14 I b                   |
|              |       | 33 | ~         | 口唇は手彌状で大きめ肥厚する。                        | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に粗い貢入がある。              | M14 I b                   |
|              |       | 34 | ~         | 口唇は手彌状で厚さとする。                          | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に失透気味の緑黄色の釉を施す。        | L15 II b                  |
|              |       | 35 | ~         | 外周面縫を削り取り、口唇を玉縁状に肥厚させる。                | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に粗い貢入がある。              | 出土地不明<br>(複数入手)           |
|              | 胴部    | 36 | ~         | 厚手の手彌で、外周にラマ式蓮弁文を片切り取りで施す。             | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を厚く施す。           | L15表探                     |
|              |       | 37 | ~         | 厚手で、画面にラマ式蓮弁文を片切り取りで施す。                | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を厚く施す。           | L15 I a~b<br>M15 I b~II a |
|              |       | 38 | ~         | 厚手で、画面にラマ式蓮弁文を片切り取りで施す。                | 淡灰白色の微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を厚く施す。           | L15 II b                  |
|              |       | 39 | ~         | 厚手で、画面にラマ式蓮弁文を片切り取りで施す。                | 淡灰白色的微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を厚く施す。           | 西側堆土表探                    |
|              |       | 40 | ~         | 厚手で、外周にラマ式蓮弁文を片切り取りで施す。                | 淡灰白色的微粒子。 | 両面に緑黄色の釉を厚く施す。           | L15 I b                   |

第12表 青磁観察一覧2

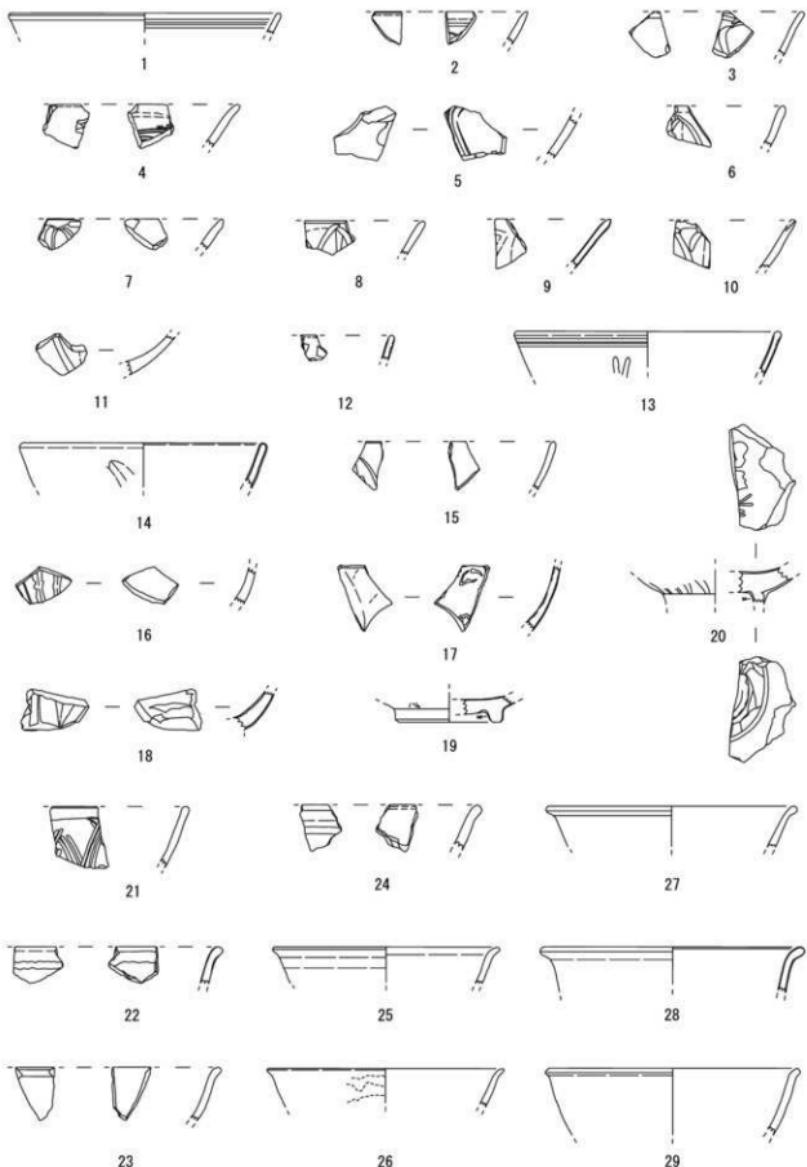
| 備考番号<br>図版番号 | 器種・分類 | 部位 | 口格<br>頭部 | 器形、成形、文様等の特徴                                 | 素地                    | 釉色・施釉状況・質入等                           | 出土地                  |
|--------------|-------|----|----------|--|-----------------------|---------------------------------------|----------------------|
| 第1回<br>図版10  | IV    | 口縁 | -        | 縁を側面に反さる。                                    | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に緑黄色の釉を施す。                          | 西側畠表探                |
|              |       | 口縁 | -        | 内底に直立する2条の櫛脚と四方支脚を施す。                        | 同上                    | 同上                                    | O15層不明               |
|              |       | 口縁 | -        | 丸みを帯びて立ち上がる大腹の外反脚。<br>口縁が波状に成形。外腹表面に蓮文支足を細く。 | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に細かい質入が入る。                          | L14~L15<br>I a~b     |
|              | III   | 口縁 | 17.0     | 丸みを帯びて立ち上がる大腹の外反脚。<br>外腹表面に蓮文支足を細く。          | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に失透気味の淡緑黄色の釉。<br>両面に粗い質入が入る。        | L14~L15<br>I a~b     |
|              |       | 口縁 | 16.4     | 外腹に墨書きで細な書文帯を描く。                             | 淡灰白色の織粒子。<br>微細な気泡。   | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>両面に粗い質入が入る。          | L15 II b             |
|              |       | 口縁 | 16.4     | 外腹に墨書きで細な書文帯を描く。<br>内腹には調整窓が認められる。           | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に淡緑黄色の釉を施す。                         | L15 II a~b           |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きで細な書文帯を描く。<br>内腹には墨型押しによる書文帯を施す。       | 淡灰白色的織粒子。<br>微細な気泡。   | 両面に淡緑黄色の釉を施す。                         | TP7-1層               |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きで細な書文帯を描く。<br>内腹には構成不明な支脚が埋められる。       | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に緑黄色の釉を施す。                          | 西側畠表探                |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きで細な書文帯を描く。<br>内腹には構成不明な支脚が埋められる。       | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に緑黄色の釉を施す。                          | M14 II b             |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨型押しで書文帯を施す。                              | 淡灰白色の織粒子。             | 両面に緑黄色の釉を施す。                          | L15 II b<br>M15 II b |
| 第2回<br>図版11  | Xb    | 口縁 | -        | 外腹に墨型押しで書文帯を施す。<br>内腹には構成不明な支脚が埋められる。        | 淡灰白色の織粒子。             | 両面に黄緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | M15 I a~b            |
|              |       | 脚部 | -        | 外腹に切妻型による墨書き文。                               | 淡灰白色的織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に黄緑灰色の釉を施す。<br>粗い質入が入る。             | M14 I b              |
|              | Xa    | 脚部 | -        | 内腹には片切端面で構成不明な文様を施す。<br>劃文文様の可能性も認めてある。      | 淡灰白色的織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に濃灰白色の釉を施す。                         | M14 I a~b            |
|              |       | 脚部 | -        | 内腹には構成不明な文様が墨型押して施す。                         | 淡灰白色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | M14 I b~II b         |
|              | Xb    | 脚部 | -        | 内腹には構成不明な文様が墨型押して施す。                         | 淡灰白色の織粒子。             | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | TP7-1層               |
|              |       | 脚部 | -        | 外腹に墨型押す。                                     | 淡褐色の織粒子。<br>(焼成不良)    | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | 出土地不明<br>(機内表探)      |
|              |       | 脚部 | -        | 内腹には墨書きで墨型押す。                                | 淡褐色の織粒子。<br>(焼成不良)    | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            |                      |
| 第3回<br>図版12  | XI    | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 橙褐色の織粒子。              | 両面に失透気味の淡緑黄色の釉。                       | L15 I b              |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより幅の狭い細蓮弁を細く。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 両面に淡黄褐色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | L15 I b~II a         |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより幅の狭い細蓮弁を細く。                         | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に黄緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | 西側畠表探                |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡灰白色的釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | L15 II b             |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | TP8-2層               |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に濃緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | L12表探                |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡緑黄色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | TP8-2層               |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡黄褐色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | 西側畠表探                |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | M14 I a~b            |
|              |       | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより先兆と幅の狭い細蓮弁を細く。                      | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | 西側畠表探                |
| XII          | XII a | 口縁 | -        | 外腹に墨書きにより幅の狭い細蓮弁を細く。                         | 淡灰白色的織粒子。             | 両面に失透気味の黄緑灰色釉。                        | M15 II b             |
|              |       | 口縁 | 14.9     | 厚手で口唇は丸みを帯びるが内腹は鋸をなす。                        | 赤褐色の織粒子。<br>(焼成不良)    | 両面に失透気味の黄緑灰色釉。                        | M15 II b             |
|              |       | 口縁 | 15.0     | 厚手で口唇は丸みを帯びるが内腹は鋸をなす。                        | 赤褐色の織粒子。<br>(焼成不良)    | 両面に失透気味の黄緑灰色釉。                        | TP8-1層               |
|              |       | 口縁 | 16.2     | 厚手で口唇は舌状、比較的丁寧な成形。                           | 灰褐色の織粒子。<br>黒色鉛物を含む。  | 両面に緑黄色釉を施す。<br>細かい質入が入る。              | N14 I b              |
|              |       | 口縁 | 18.2     | 厚手で大ぶりの瓶。口唇は丸みを持つ。                           | 淡灰白色的織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に緑黄色釉を厚く施す。<br>粗い質入が入る。             | N14 I b              |
|              |       | 口縁 | -        | 口唇は突り気味、舌状の資料の可能性も考慮する。                      | 淡灰白色的織粒子。<br>微細な気泡。   | 緑黄色釉を厚く施す。<br>粗い質入が入る。                | K12表探                |
|              |       | 口縁 | -        | やや内腹気味で、口唇は丸みを帯びる。                           | 淡灰白色的織粒子。<br>黒色鉛物を含む。 | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | L15 I b~II a         |
|              |       | 口縁 | -        | 逆「ハ」の字状に開き、口縁断面は方形をなす。                       | 灰白色的織粒子。              | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | L15 II a             |
|              |       | 口縁 | -        | 逆「ハ」の字状に開き、口縁断面は方形をなす。                       | 灰白色的織粒子。              | 両面に淡緑灰色の釉を施す。<br>細かい質入が入る。            | 西側畠表探                |
|              |       | 口縁 | 14.2     | 成形等はXII Bと同一である。<br>外腹に淡灰褐色(細蓮弁文)を描いている。     | 淡黄褐色の織粒子。<br>(焼成不良)   | 両面に輪動する、燒成不良か二次的<br>焼成の影響で凹凸した外透光となる。 | M15 II b             |
| XIV          | XII b | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に明瞭な輪縫痕。                      | 淡黄褐色の織粒子。             | 燒成不良のため淡橙褐色となる。                       | M15 I b              |
|              |       | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に輪縫痕。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 燒成不良のため黄緑灰色の釉を施す。                     | L15 I b~II a         |
|              |       | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に輪縫痕。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 白陶した黄緑灰色の釉を施す。                        | L15 II a             |
|              |       | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に輪縫痕。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 白陶した黄緑灰色の釉を施す。                        |                      |
|              |       | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に輪縫痕。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 白陶した黄緑灰色の釉を施す。                        |                      |
|              |       | 口縁 | -        | 薄手で「ハ」の字状に開く、外腹に輪縫痕。                         | 淡黄褐色の織粒子。             | 白陶した黄緑灰色の釉を施す。                        |                      |

第12表 青磁観察一覽3

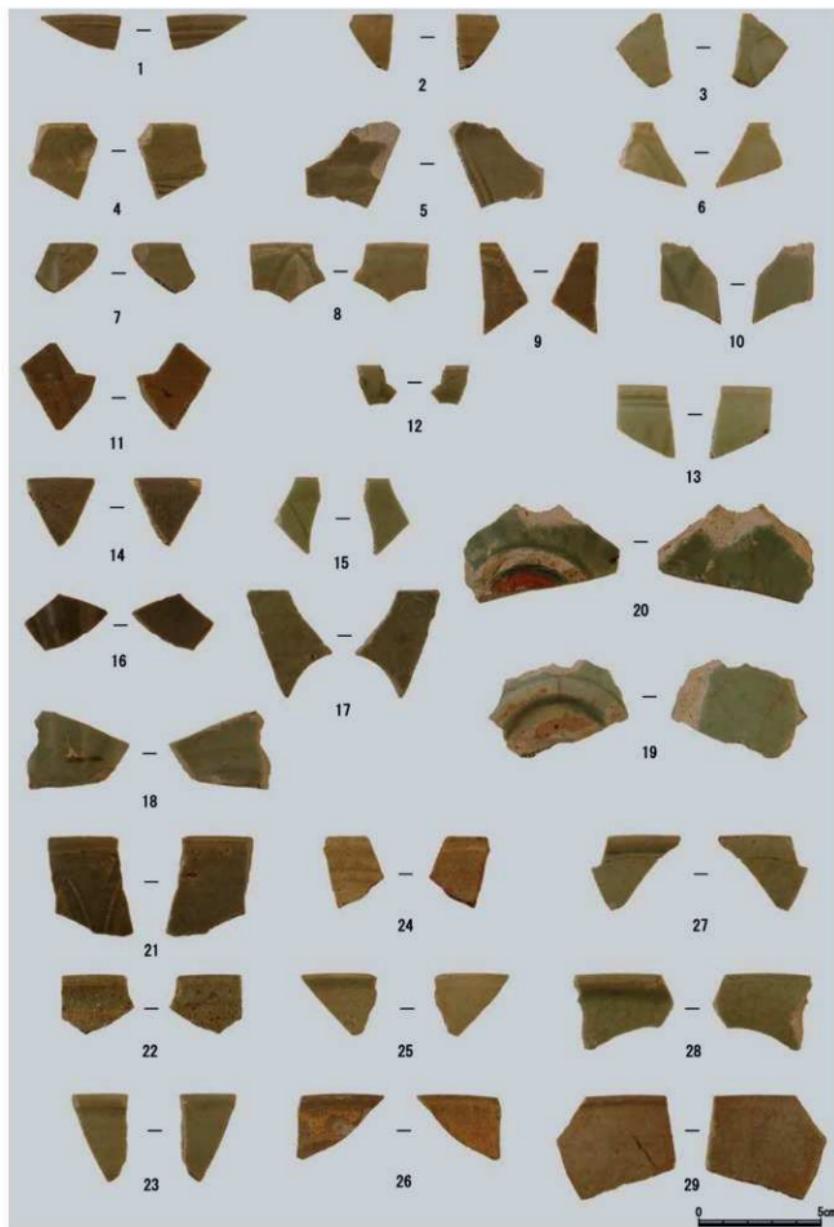
| 地図番号<br>図版番号 | 器種・分類 | 部位 | 口括<br>内括<br>外括 | 器形・成形・文様等の特徴                                  | 素地                    | 釉色・施釉状況・貢入等                             | 出土地                 |
|--------------|-------|----|----------------|---|-----------------------|---|---------------------|
| 第2回<br>図版11  | XIV   | 底部 | -              | 高台(「」の字形で内側は浅い)、<br>高台外縁を斜めに削る。輪なりである。        | 明褐色の繊粒子。<br>(燒成不良)    | 白濁した青磁や白色の釉を高台外面まで<br>施す。見込み縫の目割割ぎ。射土目。 | 出土地不明               |
|              |       | 底部 | 6.3            | 高台(「」の字形で内側は浅い)、<br>高台外縁を斜めに削る。輪なりである。        | 明褐色の繊粒子。<br>(燒成不良)    | 白濁した青磁や白色の釉を高台外面まで<br>施す。見込み縫の目割割ぎ。     | L12表探               |
|              |       | 底部 | 7.4            | 高台(「」の字形で内側は浅い)、<br>高台外縁を斜めに削る。輪なりである。        | 明褐色の繊粒子。<br>(燒成不良)    | 白濁した青磁や白色の釉を高台外面まで<br>施す。見込み縫の目割割ぎ。射土目。 | L14 I b<br>L16 II b |
| VI?          | VI?   | 底部 | 6.4            | 高台(「」の字形で内側は浅い)、<br>高台外縁を斜めに削る。輪なりである。        | 明褐色の繊粒子。<br>(燒成不良)    | 白濁した青磁や白色の釉を高台外面まで<br>施す。見込み縫の目割割ぎ。射土目。 | L14 I b<br>L16 II b |
|              |       | 底部 | 5.5            | 高台(底が斜めに削る)、<br>高台外縁を斜めに削る。                   | 淡灰白色の繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡灰白色の繊粒子。<br>微細な気泡感。                    | K12表探               |
|              |       | 底部 | 6.8            | 高台(底が斜めに削る)、<br>高台外縁を斜めに削る。                   | 淡灰白色の繊粒子。<br>白色鉛物を含む。 | 淡灰白色の繊粒子。<br>白色鉛物を含む。                   | M15 II b            |
|              |       | 底部 | 5.6            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色の繊粒子。<br>黑色鉛物を含む。 | 淡灰白色の繊粒子。<br>黑色鉛物を含む。                   | M14 I a~b           |
|              |       | 底部 | 1.8            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色の繊粒子。<br>黑色鉛物を含む。 | 淡灰白色の繊粒子。<br>黑色鉛物を含む。                   | 西側烟突探               |
|              |       | 底部 | 4.6            | 高台がやや高台(成形)、<br>飛付外縁を斜めに削る。                   | 灰白色の繊粒子。              | 淡灰白色の繊粒子。                               | M15 II b            |
|              |       | 底部 | 5.9            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色の繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡灰白色の繊粒子。                               | K15表探               |
| 第3回<br>図版12  | VIII  | 底部 | 7.4            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色の繊粒子。<br>(燒成不良)   | 淡灰黄色の釉を高台外面まで施す。<br>内底見込みを輪割ぎ。細かい貫入がある。 | L14 I b             |
|              |       | 底部 | 5.3            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。内底見込みを段状。      | 明褐色の繊粒子。<br>(燒成不良)    | 淡灰黄色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。           | M15 I a~b           |
|              |       | 底部 | 4.0            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡灰青色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。           | O15層不明              |
|              |       | 底部 | 5.8            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡灰青色の釉を覆付まで施す。<br>細かい貫入がある。             | TP9-3層              |
|              |       | 底部 | 5.2            | 高台が底が斜めし、内側は斜面に深い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。            | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡灰青色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。           | K15表探               |
|              |       | 底部 | 4.6            | 高台がやや高台(成形)、<br>飛付外縁を斜めに削る。                   | 灰白色的繊粒子。              | 淡灰青色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。           | M15 II b            |
|              |       | 底部 | 3.8            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡青色の釉を高台外面まで施す。                         | L~M15 II a~b        |
| 第4回<br>図版13  | X     | 底部 | 5.6            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡青色の釉を高台外面まで施す。                         | N15 I b             |
|              |       | 底部 | 6.3            | 高台がやや高台(成形)、<br>内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。        | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を覆付まで施す。                         | M14 I b~II b        |
|              |       | 底部 | 5.8            | 高台がやや高台(成形)、<br>内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。        | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を高台外面まで施す。                       | L15 I a~b           |
|              |       | 底部 | 6.2            | 高台が底が斜めし、内側は非常に深い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。萬古台面竹節状に削る。 | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を覆付まで施す。                         | TP9-3層              |
|              |       | 底部 | 3.4            | 高台が底が斜めし、<br>内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。           | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。          | N15 I b             |
|              |       | 底部 | 5.8            | 高台が底が斜めし、内側は浅い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。               | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。          | M~N15 I a~b         |
|              |       | 底部 | 6.0            | 高台が底が斜めし、内側は非常に深い)、<br>飛付外縁を斜めに削る。            | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を高台外面まで施す。<br>細かい貫入がある。          | 西側烟突探               |
| I            | I     | 底部 | 5.3            | やや上部が底が成形、<br>脚下部から角度変えて立ち上がり、内側は斜面。          | 灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。   | 灰白色的釉を外面部腰部まで施す。                        | L14 I b             |
|              |       | 底部 | 5.5            | やや上部が底が成形、<br>内側は斜面。                          | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を高台外面まで施す。                       | L15 I a~b           |
|              |       | 脚部 | -              | 内側に縦推し、脚の脚部を考慮して25°                           | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を外面部腰部まで施す。                      | M14 I a~b           |
| II           | II    | 口縁 | 12.2           | 進口(字形に折り、口折れとする。<br>文様は縦縞模様でない)。              | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | TP6-1層              |
|              |       | 口縁 | 12.4           | 進口(字形に折り、口折れとする。<br>外面部脚部に蓮瓣文?)               | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に厚く施す。                        | L14 II a~b          |
|              |       | 口縁 | 12.8           | 進口(字形に折り、口折れとする。<br>外面部脚部に蓮瓣文と上部に横縞模様)。       | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に厚く施す。<br>内面部縫底上、釉垂れ。         | L15 II b            |
| III          | III   | 口縁 | 13.0           | 進口(字形に折り、口折れとする。<br>外面部脚部に蓮瓣文)。               | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。<br>内面部縫底上、釉垂れ。           | M15 II a            |
|              |       | 口縁 | 12.2           | 口唇に浅めの切り込みを入れて櫻花をすする。<br>内面部に直角的に縫底上によるマツダ連合。 | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。<br>内面部縫底上、釉垂れ。           | L15 II a            |
|              |       | 口縁 | 12.3           | 口唇に浅めの切り込みを入れて櫻花をすする。<br>内面部縫底上によるマツダ連合。      | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。<br>内面部縫底上、釉垂れ。           | N14 I b             |
| IV           | IV    | 口縁 | -              | 口縁部を大きく外反させる、<br>口唇は丸を持つ。                     | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | N15 I a~b           |
|              |       | 口縁 | 12.4           | 口縁部を緩やかに外反させる。<br>口唇は丸を持つ。                    | 白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。    | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | M14 I b             |
|              |       | 口縁 | 12.0           | 口縁部を緩やかに外反させる。<br>口唇は丸を持つ。                    | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | M15 I b~II a        |
| V            | V     | 口縁 | 12.8           | 口縁部を緩やかに外反させる。<br>口唇は丸を持つ。                    | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | 西側烟突探               |
|              |       | 口縁 | -              | 直口(口唇は折り、<br>外面に縫底上を削る)。                      | 淡灰白色的繊粒子。             | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | 西側烟突探               |
|              |       | 口縁 | -              | 内側縫底上に立ち上がる、<br>内側に箇引割による縫底上アラサを削っている。        | 淡灰白色的繊粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡黄緑灰色の釉を両面に施す。                          | M15 II b            |

第12表 青磁觀察一覧4

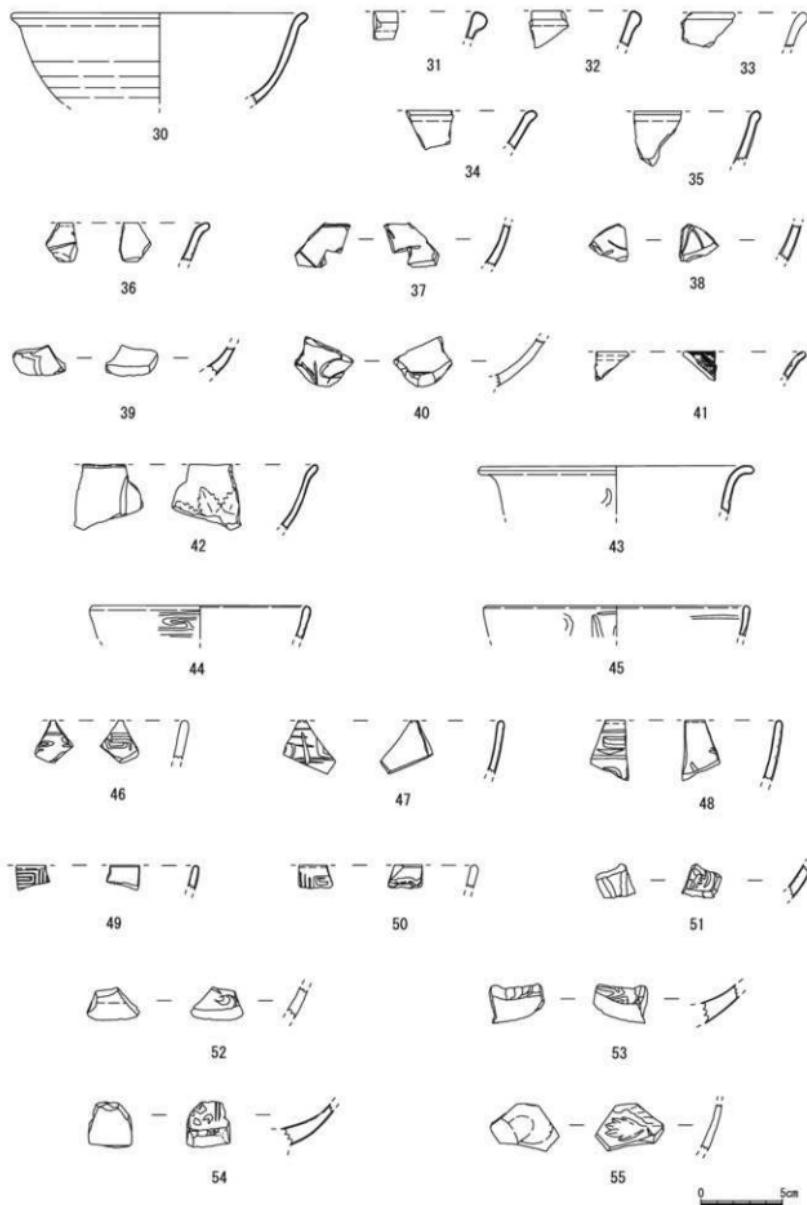
| 牌固番<br>図版番号  | 器種・分類  | 部位 | 口様<br>器高<br>直徑 | 器形・成形・文様等の特徴                                   | 素 地                   | 釉色・施釉状況・貫入等                            | 出土地                       |
|--------------|--------|----|----------------|--|-----------------------|--|---------------------------|
| 第248<br>図版13 | V      | 口縁 | -              | 直口口縁で、口唇は丸みを持つ。<br>内面口縁直下に調整痕。                 | 淡灰白色的微粒子。             | 黄緑灰色の釉を正面に施す。                          | L14 II a~b                |
|              |        | 口縁 | 10.0           | 内側口縁に立ち上がる。<br>口唇は丸みを持つ。                       | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を正面に施す。<br>外面は緑直下、釉垂れ、細かい貫入。     | M14 I a~b                 |
|              |        | 口縁 | 12.5           | 直口口縁で、進「へ」の字状に開く。<br>口唇は丸みを持つ。                 | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | TP6-3層                    |
|              |        | 口縁 | 11.2           | 内側口縁に立ち上がる。<br>外面に片切削の蓮瓣文、内面に圓形の蓮瓣文。           | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎ、粗い貫入。            | M14 I b                   |
|              |        | 胴部 | -              | 魚州窯系と思われる質料、難な成形である。                           | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 内面に黄緑色の釉を施す。                           | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | -              | 底盤非常に小さく、高台付みが低く、内側付みが<br>2.9                  | 淡灰白色的微粒子。             | 高台外側まで淡黄緑色の釉を施す。<br>細かい貫入。             | M15 II a~b                |
| 第249<br>図版13 | Ⅵ      | 底部 | -              | 高台はかなり低く、内側付みは浅い。                              | 灰白色の細粒子。              | 青灰色の釉を發押まで施す。<br>粗い貫入。                 | L15 I b                   |
|              |        | 底部 | 4.8            | 高台はかなり低く、内側付みは浅い。「へ」の字状。                       | 灰白色の細粒子。<br>微細な気泡感。   | 青灰色の釉を高台外面まで施す。<br>粗い貫入。               | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | -              | 高台はかなり低く、内側付みは浅い。<br>糞便外側を斜めに削り取る。             | 淡灰白色的微粒子。             | 黄緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎ、細かい貫入。           | N15 I a~II a              |
|              |        | 底部 | 6.0            | 高台はなく、内側付みは浅い。                                 | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎ、細かい貫入。           | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | 5.6            | 糞便外側を斜めに削り取る。                                  | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎ、粗い貫入。            | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | 6.8            | 高台はかなり低く、内側付みは浅い。「へ」の字状。                       | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎ、粗い貫入。            | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | -              | 糞便外側を斜めに削り取る。                                  | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。<br>糞便外側の縁を横き取る。<br>粗い貫入。 | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | -              | 高台の断面形三角形状。非常に丁寧な成形。                           | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | TP8-1層                                 |                           |
|              |        | 口縁 | 25.2           | 煙管部をつまむ上げて成形。<br>内面に削り削りに上部の鉢の「進」蓮瓣文を残す。       | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 濃緑灰色の釉を正面に施す。<br>全体に細かい貫入。             | L15 I b<br>L15 II b       |
|              |        | 口縁 | 27.4           | 煙管部をつまむ上げて成形。<br>内面に削り削りに上部の鉢の「進」蓮瓣文を残す。       | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を正面に施す。<br>粗い貫入。                 | L15 II b                  |
| 第250<br>図版14 | Ⅲ      | 口縁 | -              | 煙管部をつまむ上げて成形。<br>内面に削り削りに上部の鉢の「進」蓮瓣文を残す。       | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑黄色の釉を正面に施す。<br>全体に細かい貫入。             | N15 I b                   |
|              |        | 口縁 | 23.4           | 柱状部を「進」と字状に折り曲げて口折れとする。<br>口唇の内面に印文字。          | 淡灰白色的微粒子。             | 濃緑黄色の釉を正面に施す。<br>全体に粗い貫入。              | N15表探                     |
|              |        | 口縁 | 25.6           | 簡便もしくは鍍金となる質料を抜った。<br>厚手で、内側付みに立ち上がる。口唇は丸くなる。  | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な黑色颗粒。 | 濃緑黄色の釉を正面に施す。                          | L14 I a~b                 |
|              |        | 口縁 | -              | 逆「へ」字状印字を刻める。<br>内面に削り削りによる蓮瓣文を彫る。             | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | 西側堆积探                     |
|              |        | 底部 | -              | 高台断面三角形状。外縁を斜めに削る。                             | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な黒色颗粒。 | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎする。               | TP7-1層                    |
|              |        | 底部 | 11.2           | 高台断面三角形状。外縁を斜めに削る。                             | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な黒色颗粒。 | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを釉割ぎする。               | L14 I a~b<br>M15 II b     |
|              |        | 底部 | 11.6           | 非常に厚手で、外縁に片切削りによる文様と見込みに蓮瓣。                    | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | L12表探                     |
|              |        | 底部 | -              | 非常に厚手で、内面にも片切削りによる文様と見込みに蓮瓣。                   | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを蛇の目釉割ぎする。            | N13表探                     |
|              |        | 底部 | 8.0            | 高台断面三角形状。外縁を斜めに削る。                             | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を焼成後、外底の見込みを蛇の目釉割ぎ、細かい貫入。        | M14 I a~b                 |
|              |        | 甲  | -              | 直中頭部の彫み直しである。彫みの底蔵が残る。<br>内面には印文字。             | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。                             | L15 I a~b                 |
| 第251<br>図版14 | 酒会壺    | 甲  | -              | 直中頭部の彫み直しである。彫みの底蔵が残る。                         | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。                             | N14 I b                   |
|              |        | 背  | -              | 酒会意象の煙管部分。内面に調整痕が彫る。                           | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を直面に施す。                          | M15 II b                  |
|              |        | 背  | -              | 酒会意象の煙管部分。僅かにつまみ上げ状態と<br>している。内面には跡な調節。        | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を直面に施す。                          | 西側堆积探                     |
|              |        | 身  | -              | 外縁に大切削りの蓮瓣文又は蓮と葉の造りで、<br>なじみがないが、矢張して切り削りなどない。 | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。細かい貫入。                       | M15 II a~b                |
|              |        | 口縁 | 5.5            | 口縁部を強く内側彫りの苦口口縁。<br>外縁に成形不良の文様を描いている。          | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を正面に施す。<br>細かい貫入。                | L14 I a~b<br>M14 I b~II b |
|              |        | 口縁 | -              | 口縁部を強く内側彫りの苦口口縁。<br>外縁に成形不良の文様を描いている。          | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | 西側堆积探                     |
|              |        | 胴部 | -              | 薄手で、外縁に竹筋状の縦をなす。                               | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | 西側堆积探                     |
|              |        | 胴部 | -              | 薄手で、外縁に竹筋状の縦をなす。                               | 淡灰白色的微粒子。             | 淡緑灰色の釉を正面に施す。                          | TP8-3層                    |
|              |        | 底部 | 4.2            | 腰部下方に三角状の足を付す。いわゆる「千鳥足」。<br>外底の外縁を斜めに削り取る。     | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。内面は見込み部分を釉割ぎ。                | N15 I b                   |
| 154          | 馬上杯    | 脚  | -              | 馬上杯の脚部、外縁に綾状の凹凸。                               | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。粗い貫入。                        | L13表探                     |
| 155          | 冠耳     | 縁  | -              | 真耳瓶の環底片。                                       | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を厚く施す。                           | M14 I b                   |
| 156          | 不<br>明 | 胴部 | -              | 厚手で、外縁には構成不明の文様を描く。<br>内面は直面。                  | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を厚く施す。                           | 西側堆积探                     |
| 157          |        | 胴部 | -              | 厚手で、外縁には構成不明の文様を描く。<br>内面は直面。                  | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 淡緑灰色の釉を施す。                             | 出土地不明                     |
| 158          |        | 胴部 | -              | 厚手での脚部片。<br>内面は直面。                             | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な気泡感。  | 失透感度の淡緑灰色釉を外底に施す。内面は露胎。                | TP6-3層                    |
| 159          | 袋物     | 底部 | -              | 高台は高く、内側も浅い。<br>全体的に難な造りである。                   | 淡灰白色的微粒子。<br>微細な气泡感。  | 淡緑灰色の釉を厚く施す。<br>内面は露胎である。              | M15 I b~II a              |



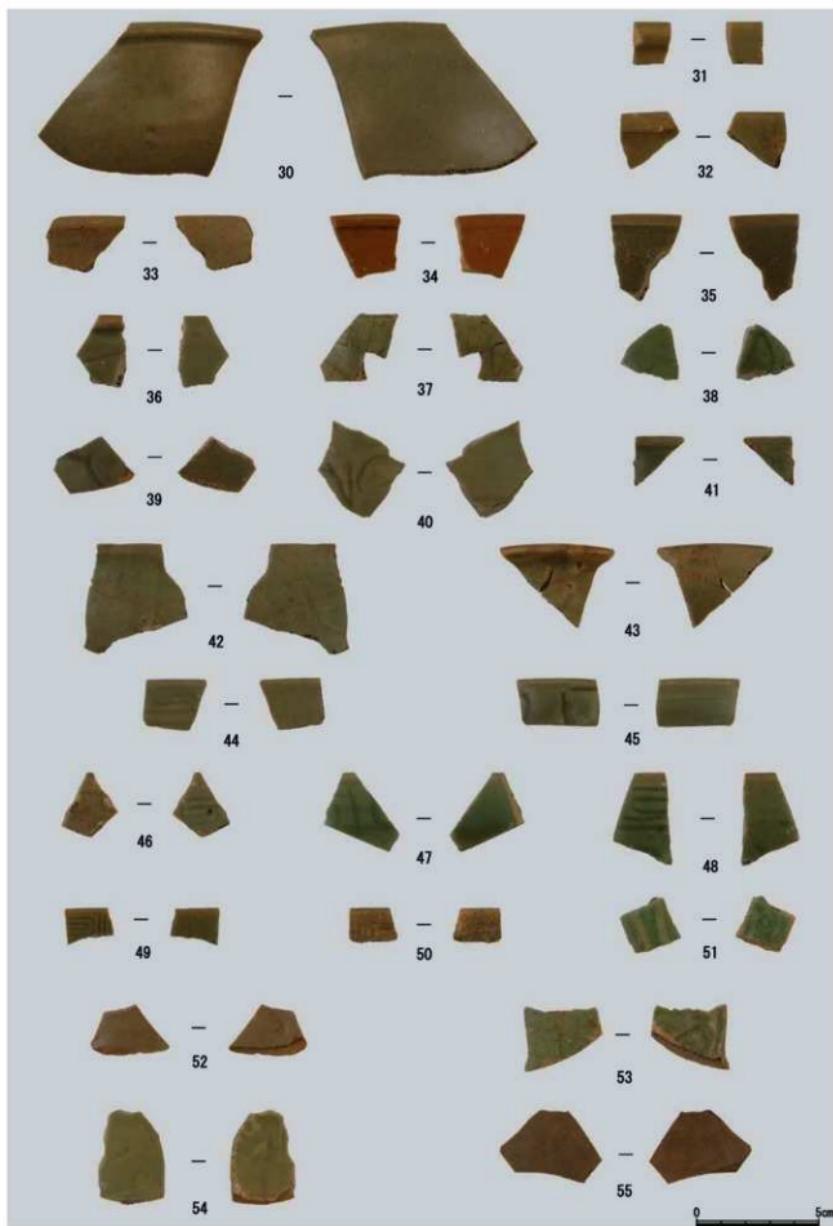
第20図 青磁1 碗①



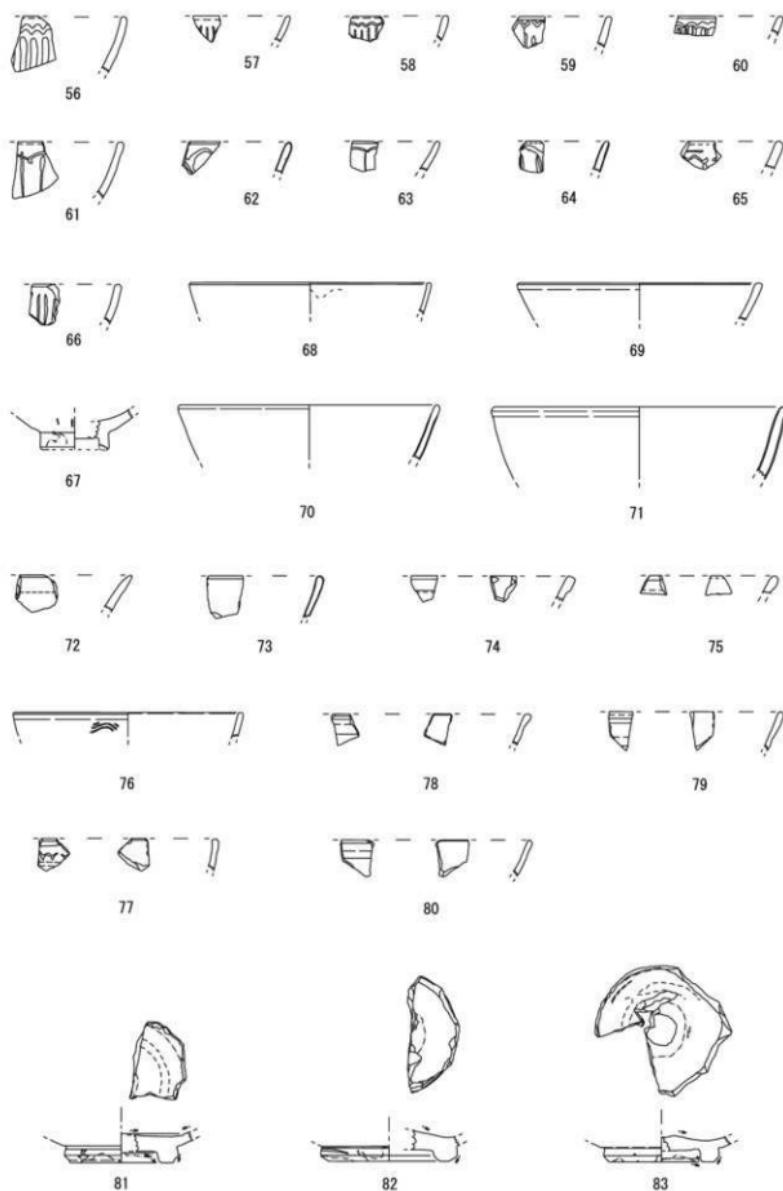
図版9 青磁 1



第21図 青磁2 碗②



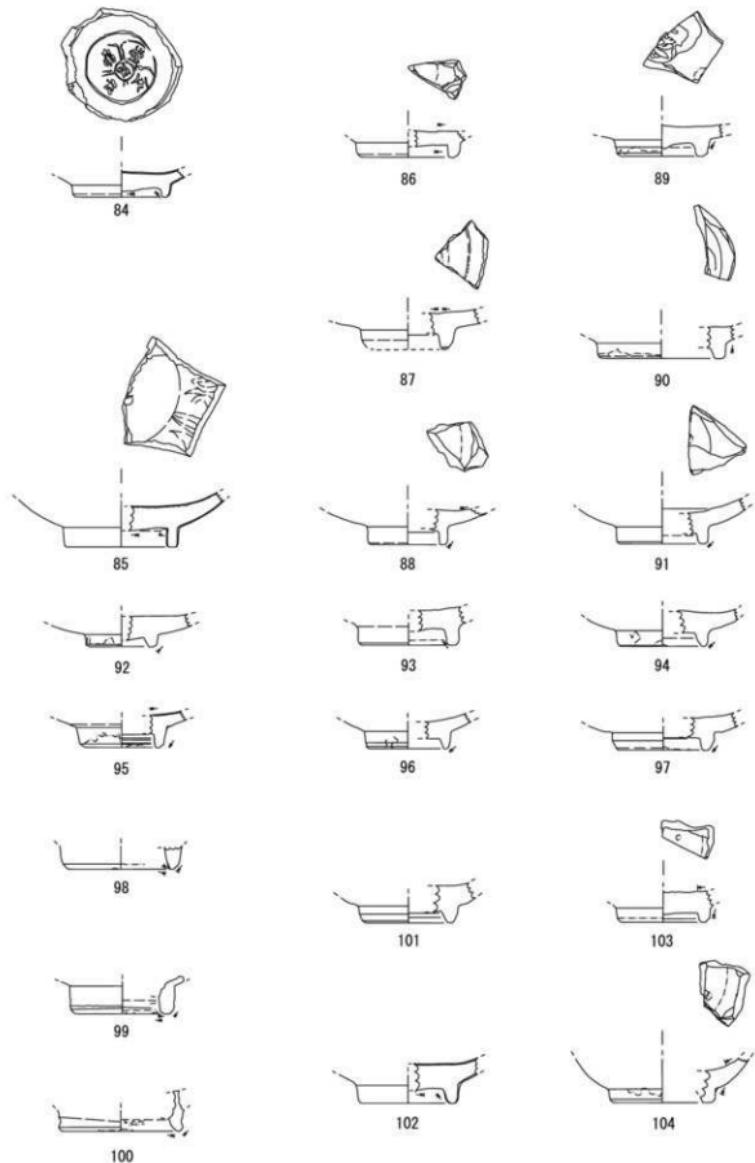
图版 10 青磁 2



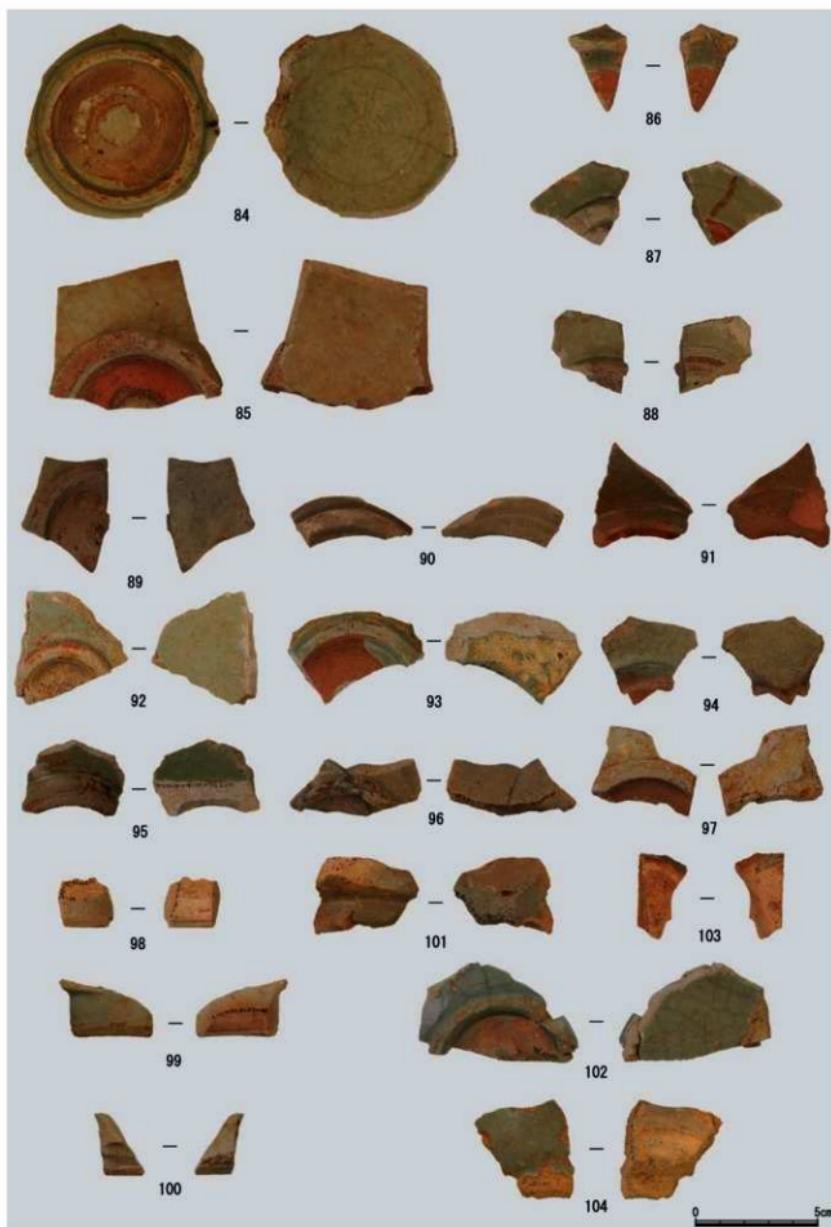
第22図 青磁3 碗③



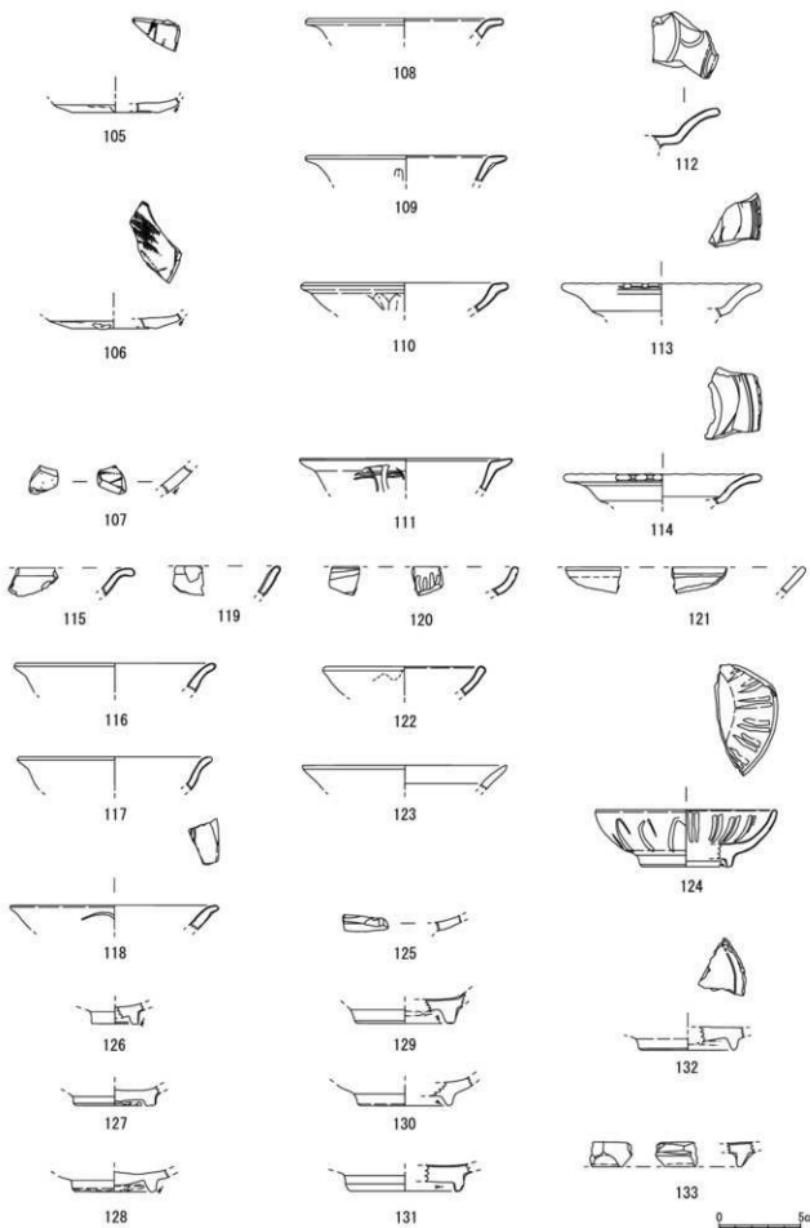
图版 11 青磁 3



第23図 青磁4 碗④



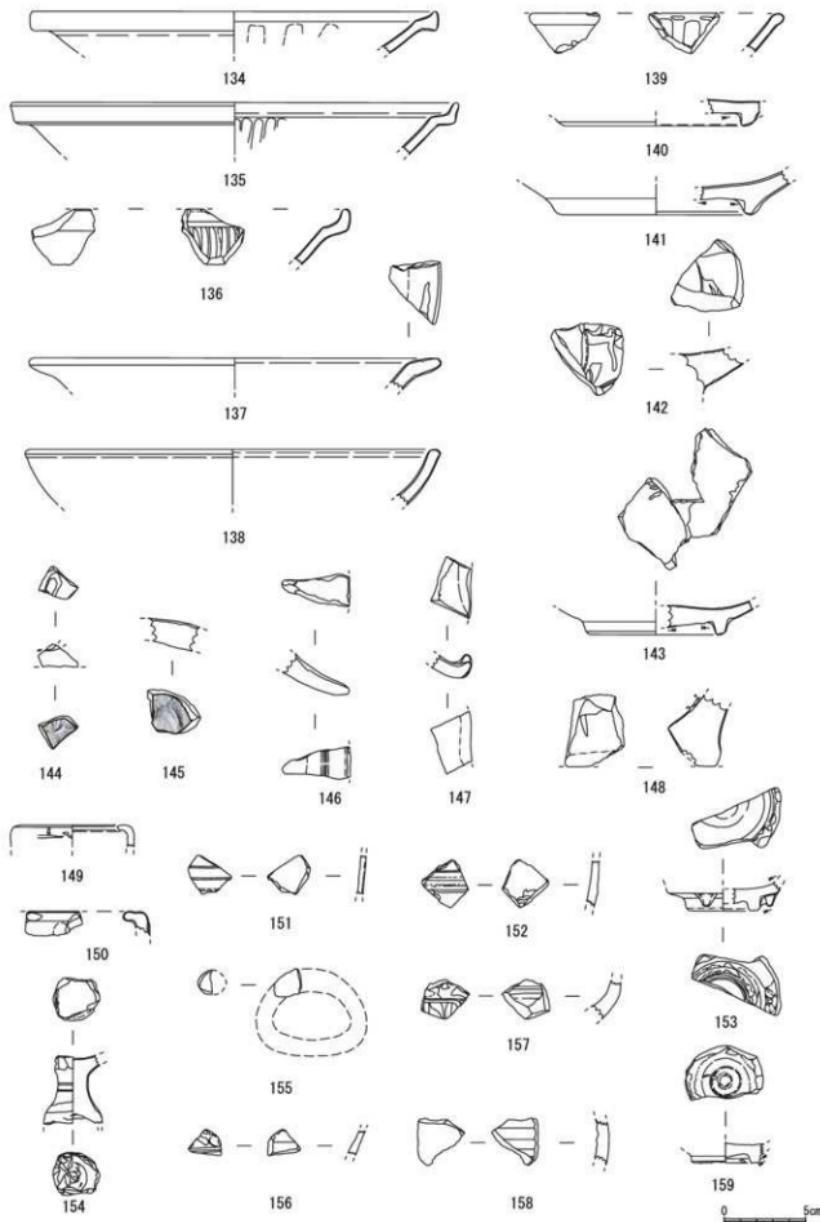
圖版 12 青磁 4



第24図 青磁5 Ⅲ



圖版 13 青磁 5



第25図 青磁6 盤(134~143)、酒会壺(144~148)、香炉(149~153)、馬上杯(154)  
瓶(155~158)、袋物(159)



图版 14 青磁 6

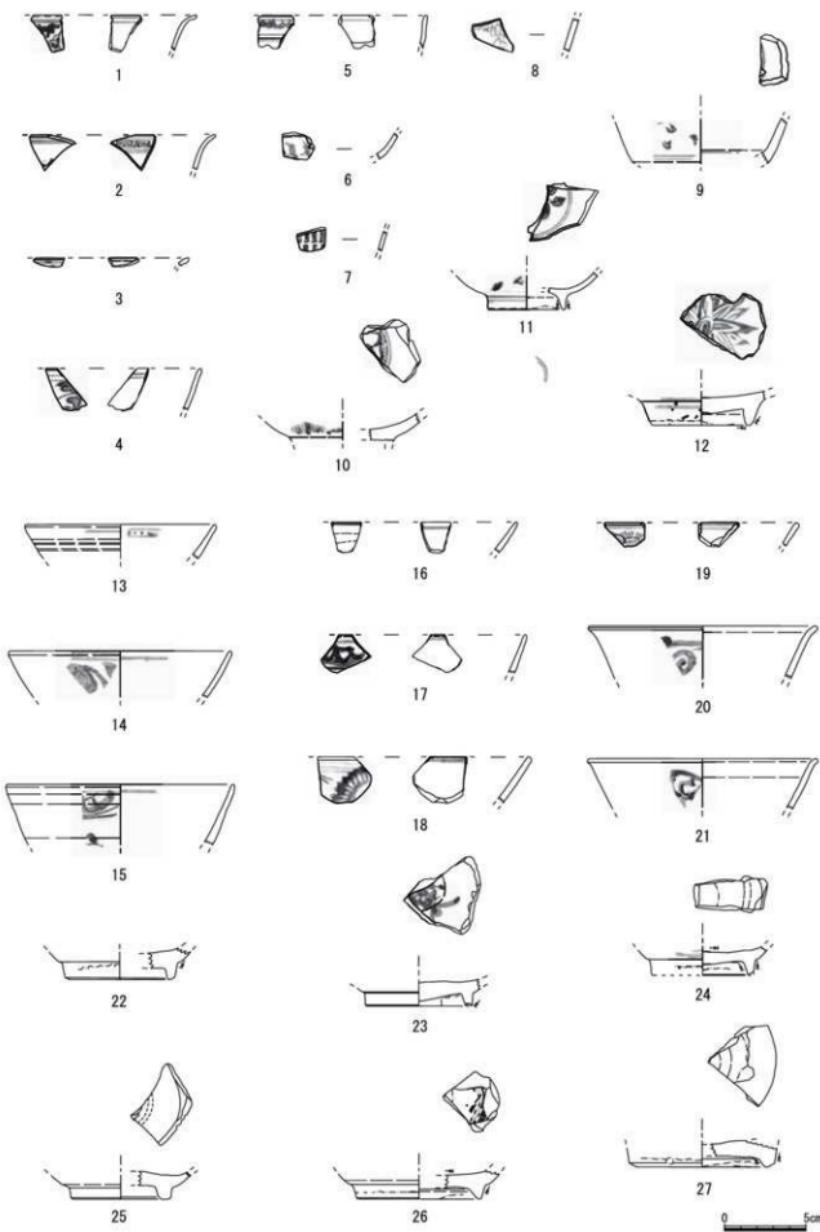


第14表 青花観察一覧1

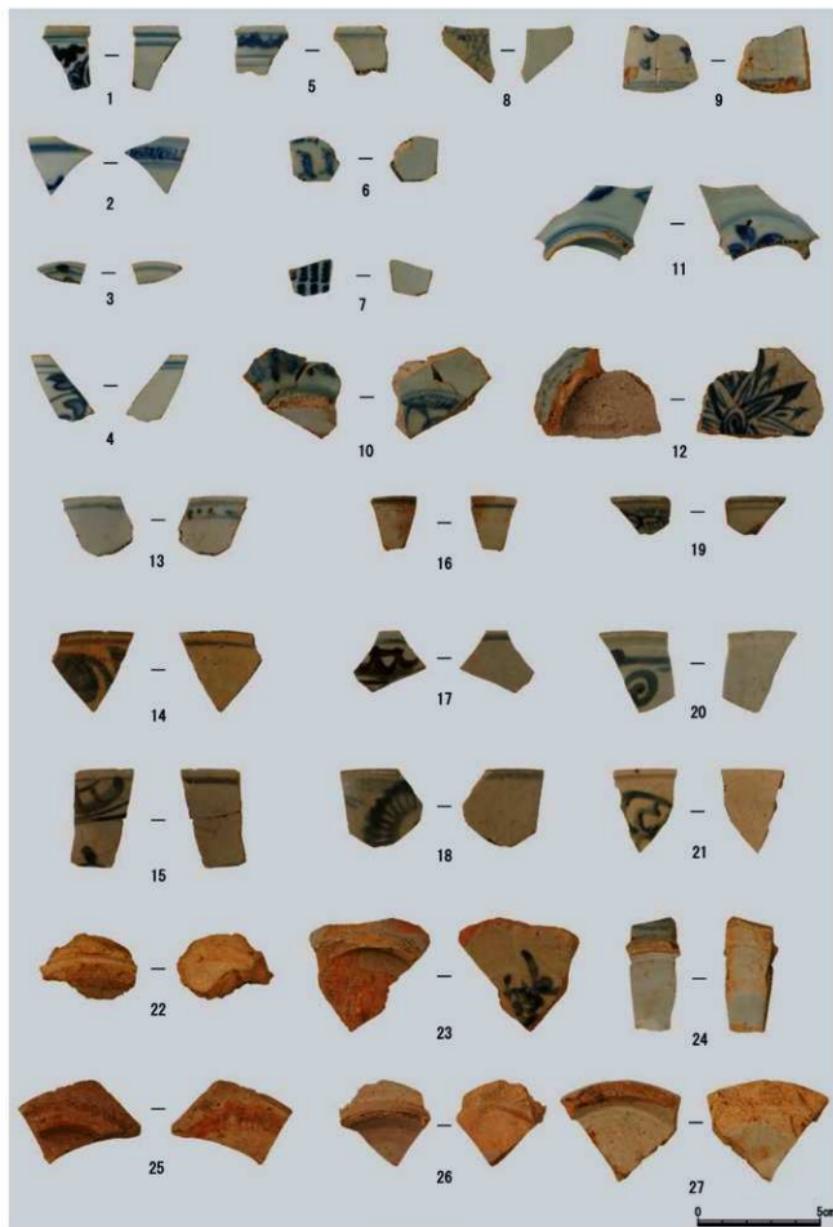
| 博認番号<br>図版番号 | 器種・分類        | 部位           | 口縁<br>周縁<br>裏面<br>裏法 | 器形・成形・文様等の特徴   | 調 地       | 釉色・施釉状況・貢入等                        | 出土地                                 |
|--------------|--------------|--------------|----------------------|--|-----------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1            | 後半<br>代      | I            | 口縁                   | - 手の内反彌。外面に團繩、草花文(牡丹草文)。<br>- 内面は團繩のみ。小瓶の可能性も考慮しておこう。  | 淡灰白色の微粒子。 | 淡青白色を呈す。口唇は口禿。                     | 西側窓表探                               |
| 2            |              |              | 口縁                   | - 手の外反彌。外面に團繩、草花文？<br>- 内面は團繩、草文。                      | 淡灰白色的微粒子。 | 淡青白色を呈す。                           | M15 I b                             |
| 3            |              | II           | 口縁                   | - 手の内反彌。外面に團繩、草花文。<br>- 内面は團繩のみ。                       | 淡灰白色的微粒子。 | 淡青白色を呈す。                           | TP7-1層                              |
| 4            |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌。外面に團繩、草花文。<br>- 内面は團繩のみ。                       | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | L15 I b                             |
| 5            |              | III          | 口縁                   | - 手の内反彌。外面に團繩、簡略化した唐草文。<br>- 内面は團繩のみ。                  | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | L15表探                               |
| 6            |              |              | 胸部                   | - 手の輪郭貼片。外面上梵文字。                                       | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | M14 I b~ II a                       |
| 7            |              | I or II<br>代 | 胸部                   | - 手の輪郭貼片。外面上梵文字。真裏が明瞭。                                 | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | 西側窓表探                               |
| 8            |              |              | 胸部                   | - 手の輪郭貼片。外面上梵文字。<br>- いわゆる「藍堂手」タグ。                     | 白色的微粒子。   | 濃った青白色を呈す。                         | M15 I a~b                           |
| 9            |              |              | 胸部                   | - 傾折彌の胸部。外面上に團繩。簡略化した唐草文。<br>- 内面は團繩のみ。                | 白色的微粒子。   | 濃った青白色を呈す。                         | 西側窓表探                               |
| 10           | I or II<br>代 | 底部           | 手袋                   | - 手の内反彌。外面上に芭蕉文のくずれ<br>- 内底見込みに芭蕉文。                    | 淡灰白色的微粒子。 | 淡青白色を呈す。                           | M14 I a~b<br>M15 I a                |
| 11           |              |              | 底部                   | - 縫頭心タイプの底足資料。外面上に芭蕉文?<br>- 内底見込みに團繩、芭蕉文、外底見込み團繩。      | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。<br>登付のみ施釉とする。             | L15 II b                            |
| 12           |              | III          | 底部                   | - 傾折彌の底足資料。高台外面に團繩。<br>- 内底見込みに千字花。                    | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った淡青白色を呈す。純輪後に<br>登付へ外添のみ施釉とする。   | L15 II b                            |
| 13           | 宋<br>代       | I            | 口縁                   | 11.8 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 外面上に團繩、内面には團繩文のくずれ。      | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った淡灰白色を呈す。                        | TP8-1層                              |
| 14           |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌と草文、内面には團繩のみ。                                   | 淡灰白色的微粒子。 | 失透気味の黄灰色を呈す。                       | M15 I b~ II a                       |
| 15           |              | II           | 口縁                   | 14.1 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 外面上に團繩と草文、内面には團繩のみ。      | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | 西側窓表探                               |
| 16           |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 傾彌性分明、内外面上に團繩。              | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | O14 I b                             |
| 17           |              | III          | 口縁                   | - 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 外面上に團繩と草文、内面には團繩のみ。         | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | L14 I a~b                           |
| 18           |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 外面上に團繩と草文、内面には團繩のみ。         | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | 西側窓表探                               |
| 19           |              | IV           | 口縁                   | - 手の内反彌で、いわゆる傾彌、広東系繩。<br>- 外面上に團繩と草文？内面には團繩のみ。         | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | M14 I a~b                           |
| 20           |              |              | 口縁                   | - やや厚手の外反彌。外面上に草花文？                                    | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | TP8-3層                              |
| 21           |              | 前半<br>代      | 口縁                   | - やや厚手の外反彌。外面上にヨンニキ印押。                                 | 淡黄白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | TP8-3層                              |
| 22           |              |              | 底部                   | - 傾彌、広東系統の底足資料。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付外端を斜位に削る。           | 淡黄白色的微粒子。 | 濃った黄灰白色を呈す。                        | 西側窓表探                               |
| 23           |              |              | 底部                   | - 傾彌、広東系統の底足資料。見込みに芭蕉文。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付外端を斜位に削る。   | 淡黄白色的微粒子。 | 濃った黄灰白色を呈す。一部、高台<br>内底に施釉。細かく貢入。   | M15 I a                             |
| 24           |              | IV           | 底部                   | - 傾彌、広東系統の底足資料。高台外面に團繩。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付外端を斜位に削る。   | 淡黄白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。内底見込み<br>蛇の目施釉跡。盤付両端は施釉。 | 出土地不明                               |
| 25           |              |              | 底部                   | - 傾彌、広東系統として分類。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付両端を斜位に削る。           | 淡橙褐色の細粒子。 | 内底見込みに重ね焼きの施釉跡。                    | L15表探                               |
| 26           |              |              | 底部                   | - 傾彌、広東系統の底足資料。「丁」の字状に異く。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付外端を斜位に削る。 | 淡橙褐色の細粒子。 | 濃った灰白色を呈す。内底見込み<br>蛇の目施釉跡。高台両端は施釉。 | TP8-3層                              |
| 27           |              | V            | 底部                   | - 傾彌、広東系統の底足資料。「丁」の字状に異く。<br>- 高台は低く、内削は浅く、盤付外端を斜位に削る。 | 淡黄白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。内底見込み<br>蛇の目施釉跡。高台両端は施釉。 | O15層不明                              |
| 28           |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌で比較的丁寧な成形。                                      | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | TP7-2層                              |
| 29           |              |              | 口縁                   | 11.8 手の内反彌で複雑な成形。外面上に團繩。簡略化<br>された芭蕉文と芭蕉文？内面に團繩。       | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | L14 I a~b<br>L15 I a~b<br>M15 I a~b |
| 30           |              | VI           | 口縁                   | - 手の内反彌、芭蕉文、内面に團繩。                                     | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | TP8-2層                              |
| 31           |              |              | 口縁                   | - 手の内反彌で複雑な成形。外面上に團繩、簡略化<br>された芭蕉文と芭蕉文？内面に團繩。          | 淡灰白色的微粒子。 | 濃った灰白色を呈す。                         | M15 II b                            |
| 32           |              | VII          | 胸部                   | - 手の内反彌の輪郭貼片。比較的丁寧な成形。<br>- 外面上に芭蕉文、内面に團繩。             | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | M14 I b                             |
| 33           |              |              | 胸部                   | - 手の内反彌や内反外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文。                         | 白色的微粒子。   | 淡青白色を呈す。                           | M14 I a~b<br>M15 II b               |
| 34           | 前半<br>代      | I            | 口縁                   | - 口縁部を模様や内反外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文。                        | 淡灰白色的微粒子。 | 淡灰白色を呈す。                           | 西側窓表探                               |
| 35           |              |              | 口縁                   | - 口縁部を模様や内反外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文、芭花文、内面に團繩。              | 淡灰白色的微粒子。 | 淡白色を呈す。                            | M14 I b~ II b                       |
| 36           |              | II           | 口縁                   | - 口縁部を模様や内反外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文、芭花文、内面に團繩。              | 淡灰白色的微粒子。 | 淡白色を呈す。                            | L14 I b                             |
| 37           |              |              | 口縁                   | 12.6 山根部をややくづく外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文、芭花文、内面に團繩。           | 淡灰白色的微粒子。 | 淡白色を呈す。                            | M15 II b                            |
| 38           |              | III          | 口縁                   | - 口縁部をややくづく外反させる。<br>- 外面上に芭蕉文、芭花文、内面に團繩。              | 淡灰白色的微粒子。 | 淡青白色を呈す。                           | L15 II b                            |
| 39           |              |              | 胸部                   | - 華麗にいたが、見込みを粗めにぎりぎり(露胎)と<br>するため、傾彌、広東系統の制御片となる。      | 淡灰白色的微粒子。 | 淡白色を呈す。                            | 西側窓表探                               |
| 40           | III          | I            | 胸部                   | - 手の内反彌貼片。外面上に團繩。牡丹草花文。<br>- 内面の天球は唐草。                 | 淡灰白色的微粒子。 | 淡青白色を呈す。                           | 西側窓表探                               |

第14表 青花観察一覧2

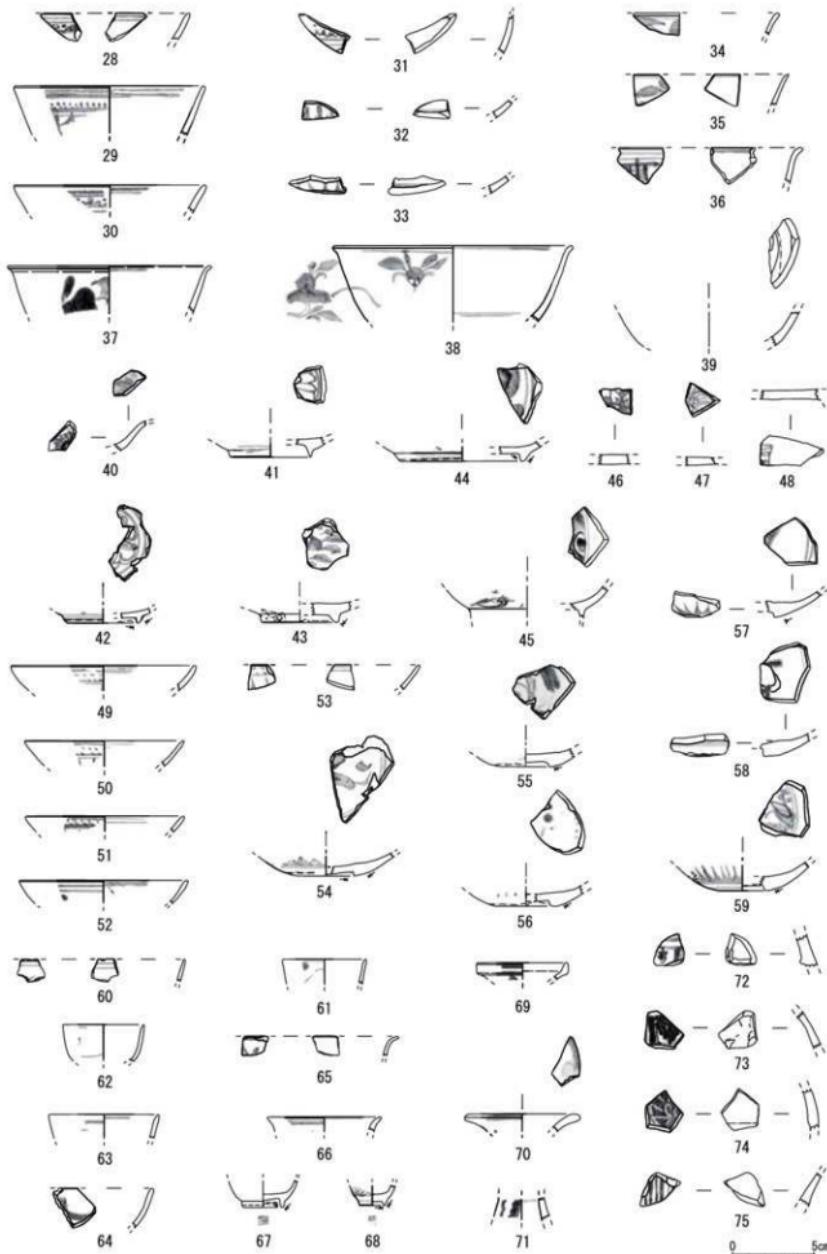
| 標印番号<br>閑版番号   | 器種・分類 | 部位 | 口縁<br>部厚<br>底厚 | 器形・成形・文様等の特徴                                 | 産地        | 釉色・施釉状況・買入等             | 出土地                              |
|--|-------|----|----------------|--|-----------|-------------------------|----------------------------------|
| 41<br>42<br>43<br>44<br>45<br>46<br>47<br>48                   | I     | 底部 | -              | 壺形であると思われる。外縁は掣下部と高台外縁に圓錐、内底見込みに圓錐と菊花文花柱。    | 淡黃白色の織粒子。 | 濃った灰白色を呈す。              | TP6-3層                           |
|  |       | 底部 | -              | 厚手での外反底。内底見込みに斜面。                            | 淡黃白色の織粒子。 | 濃った灰白色を呈す。              | M15 I b~II a<br>M15 II b         |
|  |       | 底部 | 4.4            | 盤底。広葉蓮瓣に成形と思。『うの字』字形に聞く。                     | 淡黃白色の織粒子。 | 濃った灰白色を呈す。              | 廻土内探集                            |
|  |       | 底部 | 4.9            | 裏付外縁を斜めに削る。見込みに構造不明文様。                       | 淡黃白色の織粒子。 | 濃い青白。                   | L15 I b                          |
|  |       | 底部 | 7.6            | 大きめの外反底。裏付外縁を斜めに削る。外縁に圓錐、内底見込みに圓錐と菊花文?       | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。<br>黒い貫入。       | TP4-1層                           |
|  |       | 底部 | -              | 大きめの外反底。外縁に圓錐と菊花文?<br>内底の足込みに圓錐と構造不明文様。      | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | TP6-3層                           |
|  |       | 底部 | -              | 角反底にならぶと思われる底部資料。<br>見込みに菊花文?                | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | N14 I b                          |
|  |       | 底部 | -              | 角反底にならぶと思われる底部資料。<br>見込みに菊花文?                | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | L14 I b                          |
|  |       | 底部 | -              | 外反底にならぶと思われる底部資料。<br>外縁の見込みに。                | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | M14 I b                          |
|  |       | 口縁 | 10.4           | 直口口縁の基部底部。<br>外縁に圓錐、簡略化した菊花文。内底に圓錐。          | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | L14 I a~b<br>M15 II b            |
| 49<br>50<br>51<br>52<br>53<br>54<br>55<br>56<br>57<br>58<br>59 | II    | 口縁 | 11.4           | 直口口縁の基部底部。<br>外縁に圓錐、簡略化した菊花文と芭蕉文。内底に圓錐。      | 淡黃白色の織粒子。 | 濃った灰黃白色を呈す。             | M14 I b<br>M15 II b              |
|  |       | 口縁 | 10.8           | 直口口縁の基部底部。<br>外縁に圓錐、簡略化した菊花文と芭蕉文。内底に圓錐。      | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | L~M14 I b                        |
|  |       | 口縁 | 10.4           | 直口口縁の基部底部。<br>外縁に圓錐、簡略化した菊花文と芭蕉文。内底に圓錐。      | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | L14 I a~b                        |
|  |       | 口縁 | -              | 直口口縁の基部底部。<br>外縁に圓錐、簡略化した菊花文と芭蕉文。内底に圓錐。      | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | M14 I b~II a                     |
|  |       | 底部 | 3.4            | 新苗底盤の底部。内底はなく、棘な成形。<br>外縁に圓錐と芭蕉文。内底に圓錐と草花文?  | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | L13 I a~b<br>L13 I b<br>L13 II b |
|  |       | 底部 | -              | 新苗底盤の底部。<br>内底はなく、棘な成形。<br>外縁に圓錐と芭蕉文。内底に草花文? | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | 西側煙表採                            |
|  |       | 底部 | 3.0            | 新苗底盤の底部。内底はなく、棘な成形。<br>外縁に芭蕉文と草花文。内底に草花文?    | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青白色を呈す。                | M15 II b                         |
|  |       | 底部 | -              | 新苗底盤の底部。内底はなく、砂粒が付着。<br>外縁に圓錐、内底に草花文?        | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | M15 II b                         |
|  |       | 底部 | -              | 新苗底盤の底部。内底はなく、棘な成形。<br>外縁に芭蕉文と草花文?           | 淡黃白色の織粒子。 | 失透気味の濃った灰黃白色を呈す。        | 西側煙表採                            |
|  |       | 底部 | -              | 新苗底盤の底部。内底はなく、砂粒が付着。<br>外縁に圓錐、内底に草花文?        | 淡黃白色の織粒子。 | 失透氣味の濃った灰黃白色を呈す。        | M14 I b~II a                     |
| 60<br>61<br>62<br>63<br>64<br>65<br>66<br>67<br>68             | I     | 口縁 | -              | 直口口縁の杯。<br>外縁に圓錐と明文様。内底に圓錐。                  | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。<br>口脣部を口壳とする。 | L14 I b                          |
|  |       | 口縁 | 5.2            | 直口口縁の杯。型成形と思われる。<br>外縁に圓錐と草花文?               | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | M15 II a                         |
|  |       | 口縁 | 5.0            | 直口口縁の杯。型成形と思われる。<br>外縁に圓錐と草花文?               | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | TP6-1層                           |
|  |       | 口縁 | 6.8            | 直口口縁の杯。型成形と思われる。<br>外縁に圓錐。                   | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | M15 I b                          |
|  |       | 口縁 | -              | 直口口縁の杯。<br>内底に不明文様。                          | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | 廻土内探集                            |
|  |       | 口縁 | -              | 薄手での外反口縁。<br>外縁に圓錐と草花文。内底に圓錐。                | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | 西側煙表採                            |
|  |       | 口縁 | 7.0            | 厚手の外反口縁。<br>内底に圓錐。                           | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | L15 I a~b                        |
|  |       | 底部 | 2.3            | 型成形。杯の可能性も考慮しておくる。<br>外底見込みに鉢。               | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | L15 I b                          |
|  |       | 底部 | 1.6            | 型成形。<br>外縁に圓錐と如意雲文。外底見込みに鉢。                  | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | M15 I a~b                        |
|  |       | 口縁 | 5.4            | 瓶の口縁。底部を上方につまみ上げる。<br>外縁に圓錐と芭蕉文。             | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | 西側煙表採                            |
| 69<br>70<br>71<br>72<br>73<br>74<br>75                         | II    | 口縁 | 7.1            | 外反口縁。内底に圓錐。                                  | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | L15 I b                          |
|  |       | 口縁 | -              | 内底に芭蕉文。内底に黒い変色。                              | 淡黃白色の織粒子。 | 青青白色を呈す。                | M15 I a~b                        |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が明瞭に残る。<br>外縁に圓錐とワタ羅文?                 | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | L14 I b                          |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が明瞭に残る。<br>外縁に下向のワタ羅と芭蕉文。              | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | L15 I a~b                        |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が残る。<br>外縁に宝相草葉文?                      | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | 出土地不明                            |
|  |       | 頸部 | -              | 瓶の胴部。外縁に芭蕉文。                                 | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               | TP6-3層                           |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が残る。                                   | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               |                                  |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が残る。                                   | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               |                                  |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が残る。                                   | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               |                                  |
|  |       | 頸部 | -              | 内底に模み板が残る。                                   | 淡黃白色の織粒子。 | 淡青灰白色を呈す。               |                                  |



第26図 青花1碗



图版 15 青花 1



第27図 青花2 碗(28~39)、皿(40~59)、杯(60~66)、小杯(67~68)、瓶(69~75)



图版 16 青花 2

## 6. 褐釉陶器

ここでは中国産褐釉陶器及びタイ産褐釉陶器について述べる。確認された器種としては、中国産褐釉陶器が壺・擂鉢、タイ産褐釉陶器が壺のみである。出土総数は566点で、層位別出土傾向は、I a～b層中155点、西側畠表採160点で、全体の5割強を占め、產地別だと中国産褐釉陶器が85%を占めている。以下、比較的に形状が窺える資料について図化し、概要を記すこととする。

### 中国産褐釉陶器（第28図1～17）

#### 壺（第28図1～16）

一般的な大型壺をいわゆる中国産褐釉陶器壺（第28図1～10）として扱い、小型の壺や口縁形態の異なる資料等はその他中国産褐釉陶器壺（第28図11～16）とした。いずれも素地は淡灰色で微細な白色鉱物を含み、釉調は黄茶褐色～淡黄茶褐色を呈する。

1～2は口縁部の断面が方形状を呈する有頸壺である（L15 I a～b/L15 II b）。3～4は有頸壺の頸部資料である（L15 I b～II b/L15 II b）。5～6は有頸壺の耳であるが縦耳であると思われ、先述の1～4とは若干異なる上質なタイプの有頸壺であると思われる。首里城京の内出土資料が参考資料となる（M14 I b/N15 I b～II a）。7～8の胴部（M15 I a～b/L15 I b）、9～10の底部資料（N15 I b/L15 I a～b）については1～4と同タイプに分類できる。

11は短頸もしくは無頸壺の口縁で、微弱に外反するタイプである（M15 II b）。12は肩部から角度を変えてそばまるように立ち上がる無頸壺であると思われる（L15 I a～b）。13～15は小型壺の底部であるが、15は薄作りで広底のタイプである（西側畠表採/L14 I b/L15 II b）。16は中国産褐釉陶器でない可能性も考慮されるが本文にて扱った。口縁を外側に折り曲げた後で立ち上がらせており、蓋の受けのように成形されている（西側畠表採）。

#### 擂鉢（第28図17）

擂鉢の口縁が1点得られている。口縁部を折り返して玉縁状に成形している。筋目は確認できない。一般的な中国産褐釉陶器の擂鉢に比して厚手であることから、他产地の可能性も考慮しておく（西側畠表採）。

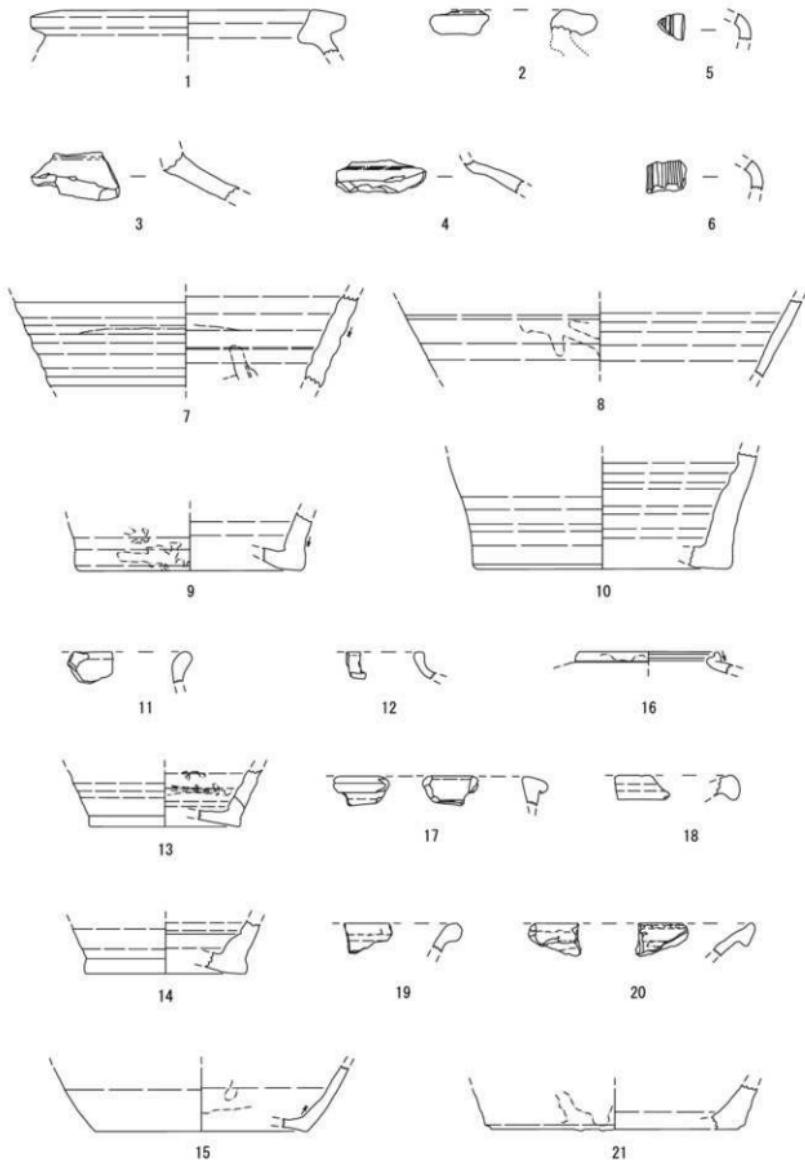
### タイ産褐釉陶器（第28図18～21）

口縁部をきつく外反させて、口唇を上方につまみ上げ突出させるものや緩やかに外反させるものがある。いずれも素地は灰紫色で微細な白色・茶褐色の鉱物を含み、釉調は濃茶褐色～黒茶褐色を呈する。

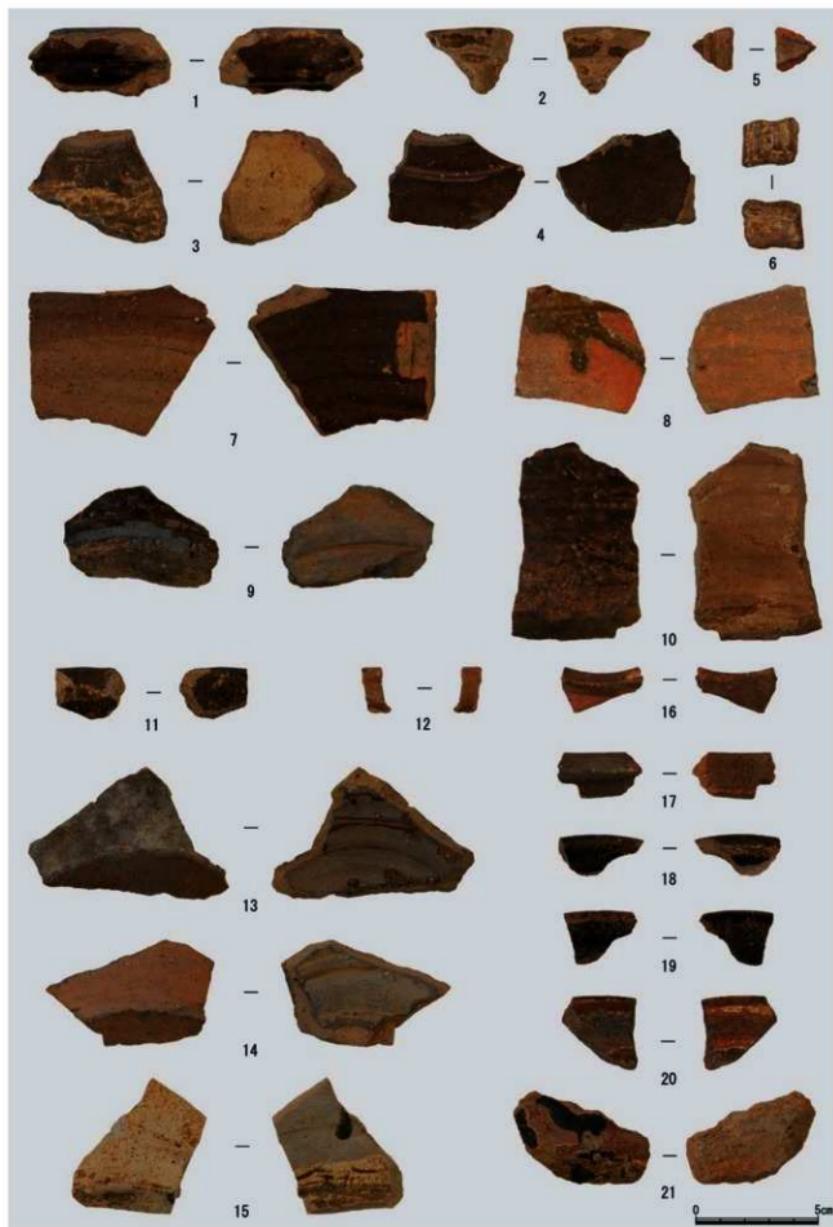
18～20は、頸部で一端締まった後にラッパ状に開く有頸壺の口縁資料である（L15 II b/西側畠表採/西側畠表採）。18は口唇が下方に突出するタイプで、20は上方につまみ上げるように突出するタイプである。21は底部資料で18～20と同タイプに分類できる有頸壺の底部である。

第15表 褐釉陶器出土状況一覧

| 種類・層位・組合                          | 中国産 |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    | タイ産 |    |    |    |     |    | 合計 |
|-----------------------------------|-----|---|---|----|-----|----|---|-----|---|----|----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|
|                                   | 二層  | 三 | 四 | 五  | 六   | 七  | 八 | 九   | 十 | 十一 | 十二 | 十三 | 十四  | 十五 | 十六 | 十七 | 十八  |    |    |
| 有頸・有縫・組合                          |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| I                                 |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| I a～b                             | 1   |   | 1 | 1  | 1   | 21 | 3 | 21  | 2 | 1  |    | 1  |     | 1  | 1  | 1  | 1   | 21 |    |
| II                                |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| II a～b                            |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| III                               |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| III a～b                           |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| IV                                |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| IV a～b                            |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 無頸・無縫                             |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 無縫                                |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 無縫・組合                             |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| M14 I b                           |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| M14 I b～N15 I b                   |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| M14 I b～N15 I b～N15 B             |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| M14 I b～N15 I b～N15 B～N15 C       |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| M14 I b～N15 I b～N15 B～N15 C～N15 D |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| N15 I b                           |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 擂鉢                                |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 擂鉢                                |     |   |   |    |     |    |   |     |   |    |    |    |     |    |    |    |     |    |    |
| 合計                                | 4   | 7 | 2 | 12 | 208 | 6  | 4 | 146 | 4 | 1  | 8  | 1  | 3   | 3  | 64 | 1  | 566 |    |    |



第28図 褐釉陶器 中国産（壺1～17）、タイ産（18～21）



图版 17 褐釉陶器

## 7. 黒釉陶器

いわゆる天目茶碗が得られている。表採や I a～b 層中等から出土しており（総数 47 点）、部位別では口縁 12 点、胴部 34 点、底部 1 点となっている。

1～3 は口縁部片。1 は内傾後に角度を変えて立ち上がる。淡灰色の細粒子で両面に黒色釉を施釉する（M15 I a～b）。2 も 1 と同様で、内傾後に角度を変えて立ち上がる。淡灰色の細粒子で両面に茶褐色釉を施釉する（L15 I b～II a）。3 は 1～2 に比して内傾は弱い。淡黄灰色の粗粒子で両面に黒色釉を施釉する（西側畠表採）。4～7 は胴部片。4 は高台脇を水平に削り、灰黒色の細粒子で両面に茶褐色釉を施す（西側畠表採）。5 も同タイプで、灰黒色の細粒子で両面に黒色釉を施す（西側畠表採）。6 も同タイプで、灰黒色の細粒子で両面に茶褐色釉を施す（M15 I a～b）。7 も同タイプ。灰黒色の細粒子で両面に茶褐色釉を施す（TP3-3 層）。8 は底部資料。高台脇を水平に削り、底径は 2.8 cm で、内削りは浅く雑な成形である。灰黒色の細粒子で両面に茶褐色釉を施す（L13 表採）。

## 8. 三彩・鉄釉染付・瑠璃釉

その他の中国陶器として、三彩・鉄釉染付・瑠璃釉がある。三彩は 6 点得られており、西側畠表採や I a～b 層中、II b 層等より出土している。

9 は鶴型水注の頸部資料である。白化粧後に外面に緑釉と黄釉を施釉している（西側畠表採）。10 は鶴型の水注の胴部片で外面に羽状文が見られ、白化粧後に緑釉と黄釉を施釉する（西側畠表採）。11 は瓜型水注の胴部片で、白化粧後に外面に緑釉と黄釉を施釉する（L14 I b）。いずれの素地も淡橙色で軟質。12 は鉄釉染付小杯の胴部片。内面に具須による文様、外面には茶褐色の鉄釉を施釉。白色微粒子を含む（西側畠表採）。13 は瑠璃釉の袋物底部。型成形で内面に白色、外面に白濁の藍色の釉を施釉。白色微粒子を含む（西側畠表採）。

## 9. タイ鉄絵・タイ半練

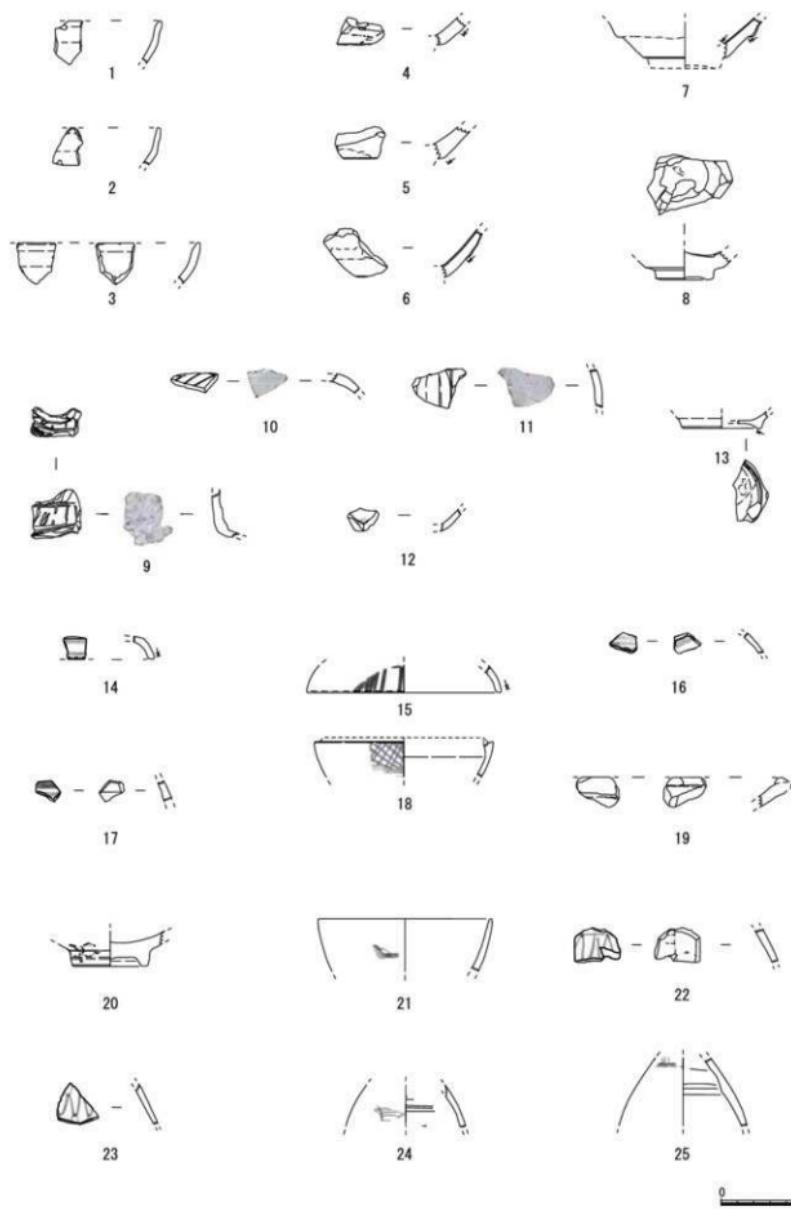
タイ鉄絵合子の蓋 4 点と身 1 点の破片計 5 点、タイ半練は落とし蓋の破片 1 点が得られている。

14 はタイ鉄絵合子の蓋片。外面に灰黒色釉で圈線を描き、灰白色釉を施して縁端部の釉を搔き取る。内面露胎で輪轂成形後にナデ調整をする。素地は淡黄灰色の粗粒子で微細な黒色鉱物を含む（表採）。15 は蓋の図上復元資料で径は 11.8 cm。外面に灰黒色釉で圈線・縦線を描いて灰白色釉を施して端部の釉を搔き取る。器面調整・施釉・素地等は 1 と同様（TP7-1 層）。16・17 とも蓋の破片資料で、外面に灰黒色釉で圈線を描き、灰白色釉を施す。器面調整・施釉・素地等は 1～2 と同様（L15 I a～b / 西側畠表採）。18 は合子の身で見受けの突起は欠損する。外面に灰黒色釉で圈線・格子状線を描き、透明釉を施すも失透気味。器面調整・施釉・素地等は 1～3 と同様（L14 II b）。19 はタイ半練の落とし蓋の端部破片である。折り曲げた先端部をつまみ上げて突起状に成形している。器面にはナデ調整を施す。焼成は比較的良好だが軟質である（M15 I b～II a）。

## 10. 本土産陶磁器

ここでは、肥前を産地とする陶磁器について扱うこととし、産地不明とした資料については、現在整理中の緊急発掘調査より得られた資料とともに産地同定を行った上で再整理する予定である。今回の調査にて確認された肥前産の陶磁器には陶器と磁器がある。確認された器種は、陶器が碗・皿、磁器が碗・瓶・袋物で、出土総数 20 点のうち 8 点が磁器の瓶である。このような出土状況は沖縄の集落遺跡での特徴的な傾向であると言える。

20 は陶器で、内野山産の碗底部。外面鋸歯釉、内面に透明釉を掛け分ける。外底無釉で淡灰白色粗粒子。底径 2.5 cm（L15 I b）。21 は磁器で小振りの丸碗。外面に具須による文様。白色微粒子。口径 10.8 cm（L15 I b）。22～25 は磁器で瓶の胴部片。22 は外面に網目文と圈線を描き、白色の釉を施す。は白色微粒子（出土地不明）。23 も同様に外面に網目文を描き、白色釉を施す。白色微粒子（N15 I a～b）。24 は外面に草花文？を描き、灰白色釉を施す。淡灰白色微粒子（L15 I b）。25 は外面に圈線と縦位の線を描く。外面白色釉で白色微粒子（L15 I b～II a）。



第29図 黒釉陶器（1～8）、三彩（9～11）、鐵釉染付（12）、瑠璃釉（13）  
タイ铁絵（14～18）、タイ半練（19）、本土產陶磁器（20～25）



図版 18 黒釉陶器、三彩、鉄釉染付、瑠璃釉、タイ鉄絵、タイ半練、本土産陶磁器

## 11. 沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器の出土総数は2,047点で、アカムニー、沖縄産無釉陶器に次いで多い。確認された器種としては、碗・小碗・皿・鉢・鍋・壺・瓶・急須・酒器・香炉・火炉・灯明具・袋物がある。層位別出土状況としては、西側畠表採が682点、I a～b層中が519点、II a～b層中が337点となっており、実に全体の75%を占めている。耕作行為に伴う擾乱等に起因すると言え、他の出土遺物と同様な傾向である。器種別出土傾向を見た場合、碗が1,226点と約6割を占めており、次いで急須181点、壺137点となっている（第17表）。基本的に、分類に際しては器種ごとに、主として施釉方法に注目して、下記のようにI～III類に大別しており、形態的特徴や蛇の目釉刺ぎの有無等から細分を行っている。以下、分類概念について述べることとし、詳細については観察表に記載する。

I類 灰釉（イ）・鉄釉（ロ）・黒釉（ハ）を単掛けするタイプである。

II類 内外面に釉薬を掛け区別するタイプで、外面に鉄釉（ロ）・黒釉（ハ）等を施釉し、内面には透明釉のみ（①白化粧無）か白化粧後に透明釉を施釉（②白化粧有）する。

III類 内外面の両面に白化粧を施した後、透明釉（灰釉）を施釉するタイプである。

碗（第30図1～28・第31図29）

I類（第30図1～12）

口縁形態からA直口、B外反とし、a腰が張らない、b腰が張るとした。また、内底の施釉状況から(1)フィガキー、(2)錆釉による同心円、(3)蛇の目状釉刺ぎに細分した。

II類（第30図13～24）

内面の白化粧の有無から、①白化粧無か②白化粧有に大別し、口縁形態からA直口、B外反、C玉縁とした。

III類（第30図25～28）

口縁形態からA直口かB外反に大別した。

筒碗（第31図29） 筒状の碗（小碗？）で、内外面に透明釉を施釉する。

小碗（第31図30～40）

I類 口縁形態が直口となるタイプが得られているが、小破片であるため割愛した。

II類（第31図30～33）

内面の①白化粧無か②白化粧有とし、口縁形態からA直口、B外反、C玉縁（小破片のため割愛）に細分した。

III類（第31図34～40）

口縁形態からA直口、B外反とし、外面の面取りの有無で、a面取り無し、b面取り有りに細分した。

皿（第31図41～45）

I類のみが得られており、大・中・小に分類した。口縁形態は直口のみが確認されている。

鉢（第31図46～57）

I類（第31図46～47）

浅鉢になると思われるタイプの口縁資料と深鉢の底部とがある。

II類（第31図48～57）

白化粧の有無から、①白化粧無か②白化粧有にとし、口縁形態からA逆L字、B外反、C波状に細分した。

鍋（第31図58～64）

I類のみが得られており、胴部がa張る、b張らないに細分した。

壺（第32図65～75）

蓋と身が得られており、大きさから大と中に大別した。I類のみで、身は胴部がa張る、b張らないに細分した。

### 瓶 (第32図76~80)

円筒形の瓶(76)や瓶子(77~80)の破片資料が得られている。I類とIII類のみである。

### 急須 (第32図81~94)

蓋と身が得られており、大きさから大と中に大別した。I類とIII類のみである。

### 酒器 (第32図95~96)

いわゆるカラカラと称されるタイプ。I類とIII類が得られているが、小破片のため、IV類の特徴的なものだけ図化した。

### 香炉 (第32図97)

一類の底部資料が得られている。1点のみ図化した。

### 火炉 (第32図98~101)

III類のみが得られており、口縁形態からa直口、b微弱に内彎するタイプに細分した。

### 灯明具 (第32図102)

特徴的な口縁資料について図化した。秉燭や燭台と思われる資料である。

### 袋物 (第32図103)

全て小破片であるため、全体の状況は把握できない。薄手のI類の胴部片のみ図化した。

第16表 沖縄施釉陶器観察一覧1

| 神奈番号<br>図版番号 | 器種・分類   | 部位      | 口縁<br>器高<br>底径     | 器形・成形・文様等の特徴            | 書地        | 釉色・施釉状況・質入等               | 出土地          |
|--------------|---------|---------|--------------------|-------------------------|-----------|---------------------------|--------------|
| I            | A-(I)-イ | 口縁      | -                  | 直口縁。いわゆる灰釉綱。外面に鉛粒。      | 淡灰白色の細粒子。 | 両面に施釉。                    | 西側畠表探        |
|              | A-(I)-イ | 胴部      | -                  | 直口縁。いわゆる灰釉綱。外面に鉛粒。      | 淡灰白色の細粒子。 | 両面に施釉。                    | TP6-2層       |
|              | A-(I)-イ | 胴部      | -                  | 两侧に大きく直口。いわゆる灰釉綱。外面に鉛粒。 | 淡灰白色の細粒子。 | 内底は露胎とする。                 | 出土地不明        |
|              | A-イ     | 口縁      | -                  | 小破片のため、詳細な施釉状況は不明。      | 淡褐色の細粒子。  |                           | M15 I a~b    |
|              | A-(I)-イ | 口縁      | -                  | 直口縁。いわゆる灰釉綱。            | 淡灰白色的細粒子。 | 内面部中央から見込みは露胎。            | TP3-3層       |
|              | I       | A-(I)-イ | 13.6<br>6.3<br>6.2 | 直口縁。いわゆる灰釉綱。            | 灰白色の細粒子。  | 脚中央から底部にかけて露胎。<br>細かい質入。  | L15 II b     |
|              |         | 完全      | -                  | 單な成形。内面台盤を水平に切る。        | 灰白色の細粒子。  | 脚中央から底部にかけて露胎。<br>細かい質入。  | M15 I b      |
|              |         | 底部      | -                  | いわゆる灰釉綱。単な成形。           | 灰白色の細粒子。  | 脚中央から底部にかけて露胎。<br>細かい質入。  | K15表探        |
|              |         | 底部      | -                  | いわゆる灰釉綱。脚なし成形。          | 灰白色の細粒子。  | 脚中央から底部にかけて露胎。<br>粗い質入。   | L15 II b     |
|              |         | 底部      | -                  | いわゆる灰釉綱。脚なし成形。          | 灰白色の細粒子。  | 内底見込みの先文以外が露胎。            | TP6-1層       |
|              | A-(I)-イ | 底部      | -                  | いわゆる灰釉綱。脚なし成形。          | 灰白色の細粒子。  | 脚中央から底部にかけて露胎。<br>粗い質入。   | N15 I b      |
|              | -       | 底部      | -                  | いわゆる灰釉綱。内底見込みに丸文。       | 淡褐色の細粒子。  | 内底見込みの先文以外が露胎。            | L15 II b     |
|              | B-(D)-ロ | 口縁      | -                  | 口縁が微弱に外反気味。             | 淡褐色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | 西側畠表探        |
|              | B-(D)-ロ | 口縁      | 12.0               | 直口縁やかに外反させる。            | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | M15 I b      |
|              | B-(D)-イ | 口縁      | 13.4               | 口縁継やかに外反させる。            | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | N15 I b      |
| II           | ①-A-ロ   | 口縁      | -                  | 直口縁。外面口縁底下を鉛割りする。       | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | 西側畠表探        |
|              | ①-A-ロ   | 口縁      | -                  | 直口縁。外面口縁底下を鉛割りする。       | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | L14 II b     |
|              | ①-B-ロ   | 口縁      | -                  | 脚間に外反させる。               | 淡褐色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | L15 II a~b   |
|              | ②-B-ロ   | 口縁      | -                  | 脚間に外反させる。               | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。外面口縁底下まで白化粧・透明釉を施す。 | M15 I a~b    |
|              | ②-C-ロ   | 口縁      | -                  | 外面口縁底下箇所に加えて、玉縁状とする。    | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | M15 I b~II a |
|              | ②-C-ロ   | 口縁      | -                  | 外面口縁底下箇所に加えて、玉縁状とする。    | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | 西側畠表探        |
|              | ①-A     | 底部      | -                  | 口縁形態不明。                 | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | TP2-1層       |
|              | ①-A     | 底部      | -                  | 口縁形態不明。                 | 灰白色の細粒子。  | 両面に施釉。                    | 西側畠表探        |
|              | ①-B     | 底部      | -                  | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 脚部に露胎剥ぎ。脚付に化粧土。           | M15 II b     |
|              | ①-B     | 底部      | 6.2                | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 脚部に露胎剥ぎ。脚付に化粧土。           | 西側畠表探        |
|              | ①-B     | 底部      | 5.8                | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 脚部に露胎剥ぎ。脚付に化粧土。           | 西側畠表探        |
|              | ②-B     | 底部      | -                  | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 重ね焼き時の脚土より張付け化粧土。         | M15 II b     |
|              | ②-B     | 底部      | 6.5                | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 重ね焼き時の脚土より張付け化粧土。         | 西側畠表探        |
|              | ②-B     | 底部      | 6.0                | 直口縁ハの字状。比較的丁寧な成形。       | 淡褐色の細粒子。  | 内面見込みを蛇の目状施釉。             | L15 II b     |

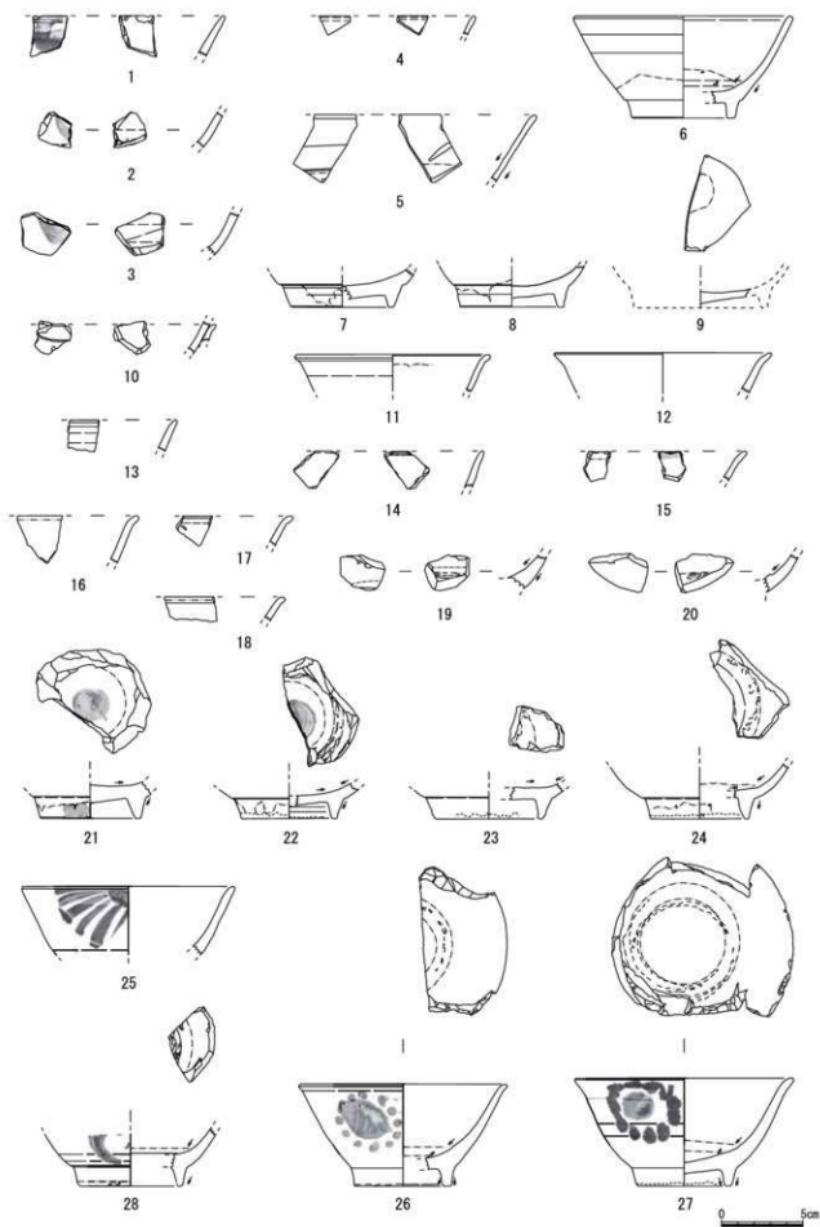


第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧2

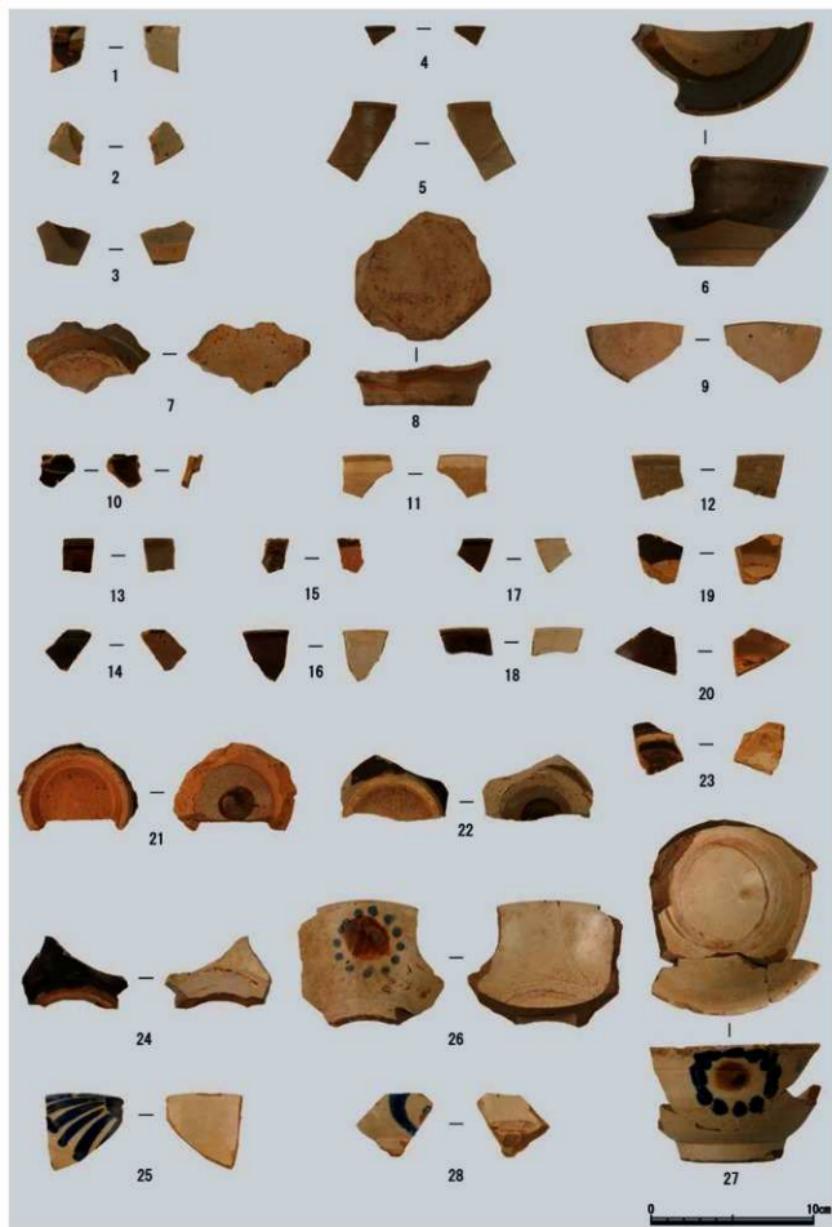
| 登録番号<br>国版番号 | 器種・分類 | 部位      | 口径<br>深さ<br>厚さ     | 器形・成形・文様等の特徴   | 素地                     | 釉色・施釉状況・貫入等                        | 出土地          |
|--------------|-------|---------|--------------------|--|------------------------|------------------------------------|--------------|
| 第30回<br>国版19 | 瓶     | A       | 13.2<br>一          | 腹からえみを持つ直口縁。<br>裏面に長周の草花彫。                                 | 淡黄褐色の粗粒子。              | 両面に施釉。一部失透気味。<br>粗い質。              | 西側畠表探        |
|              |       | B       | 12.8<br>6.3<br>5.8 | 腹からえみを持つ外反口縁。<br>外面に丸足。                                    | 灰白色の細粒子。               | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付の釉を焼き取る。粗い質。   | K14~15表探     |
|              |       | B       | 11.0<br>6.6<br>5.7 | 腹からえみを持つ外反口縁。<br>外面に丸足。                                    | 灰白色の細粒子。               | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付の釉を焼き取る。粗かく質。  | K~L15表探      |
|              |       | B?      | 6.2                | 腹部<br>一<br>腹からえみを持つて立ち上がる。<br>背面に丸足。                       | 淡灰白色の細粒子。              | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付の釉を焼き取る。       | 西側畠表探        |
| 第31回<br>国版20 | 瓶     | I       | 7.2                | 扇子の模様(小紋)?。正面とも輪縁有り。<br>本土産の可能性も考慮してください。                  | 淡灰白色的微粒子。              | 両面に施釉。                             | L15 I a      |
|              |       | ①-A-ロ   | 口縁<br>一            | 直口縁。   | 淡橙褐色の細粒子。              | 両面に施釉。<br>前面口縁直下まで黒釉を施す。           | 西側畠表探        |
|              |       | ②-B-ロ   | 口縁<br>一            | 腹側に外反させる。  | 淡橙褐色の細粒子。              | 両面に施釉。<br>前面口縁直下まで黒釉を施す。           | 西側畠表探        |
|              |       | ①-1-ロ   | 底部<br>4.3          | 高台辺(ハ)の字状。比較的丁寧な成形。<br>高台をやや水平に切る。                         | 淡灰白色的細粒子。              | 前面見込みを蛇の目状剥ぎ。<br>盤付に化粧土。           | 西側畠表探        |
|              |       | ②-1-ロ   | 底部<br>4.0          | 高台辺(ハ)の字状。比較的雑な成形。<br>高台をやや水平に切る。                          | 淡灰白色的細粒子。              | 前面見込みを蛇の目状剥ぎ。<br>重ね施釉有り。盤付白色化粧土。   | M15 I a~b    |
|              |       | A-a     | 口縁<br>一            | 直口縁。面取りなし。   | 灰白色的細粒子。               | 両面に施釉。                             | L15 I a~b    |
|              |       | A-b     | 口縁<br>一            | 直口縁。面取りあり。   | 淡橙褐色の細粒子。              | 両面に施釉。細かい質。                        | M15 I a~b    |
|              |       | B-a?    | 口縁<br>一            | 腹側に外反させる。面取りなし?  | 淡橙褐色の細粒子。              | 両面に施釉。粗い質。                         | TP1-2層       |
| 第31回<br>国版20 | 瓶     | B-b     | 口縁<br>一            | 腹側に外反させる。面取りあり。  | 淡灰白色的微粒子。              | 両面に施釉。細かい質。                        | TP6-3層       |
|              |       | B-b     | 口縁<br>一            | 腹側に外反させる。面取りあり。  | 淡橙褐色の細粒子。              | 両面に施釉。細かい質。                        | 西側畠表探        |
|              |       | B-b     | 口縁<br>一            | 腹からえみを持つて立ち上がる。  | 淡橙褐色の細粒子。              | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付の釉を焼き取る。       | M15表探        |
|              |       | -b      | 底部<br>3.0          | 高台をやや水平に切る。能取あり。   | 淡橙褐色の細粒子。              | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付化粧土。重ね施釉有り。    | M15 II b     |
|              |       | -b      | 底部<br>3.4          | 腹からえみを持つて立ち上がる。<br>高台をやや水平に切る。能取あり。                        | 淡橙褐色の細粒子。              | 施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎと<br>盤付化粧土。重ね施釉有り。    | M15 II b     |
|              |       | 小一イ     | 口縁<br>一            | やや内輪気味の直口縁。  | 淡灰白色的粗粒子。              | 両面に施釉。細かい質。                        | 西側畠表探        |
|              |       | 中-ロ     | 口縁<br>一            | やや内輪気味の直口縁。  | 淡橙灰色的細粒子。              | 両面に施釉。                             | 西側畠表探        |
|              |       | 大-イ     | 口縁<br>一            | やや内輪気味の直口縁。  | 淡橙灰色的細粒子。              | 内面に施釉後、両面に施釉。                      | TP8-1        |
| 第32回<br>国版21 | 瓶     | 小-ロ     | 底部<br>3.0          | 腹手で高台は低く、内割りは深い。<br>比較的な造形。                                | 淡橙灰色的細粒子。              | 両面に施釉。                             | M15 I b~II a |
|              |       | 中-ロ     | 底部<br>3.0          | 腹手で高台は低く、内割りは深い。<br>比較的な丁寧な成形。                             | 淡灰白色的細粒子。              | 両面施釉後、見込み蛇の目釉剥ぎ。<br>盤付化粧土。重ね施釉有り。  | 西側畠表探        |
|              |       | 淡-ロ     | 口縁<br>一            | 表面に大きな窪み。口縁内側をつまみ上げる。<br>裏面に輪縁有り。                          | 淡橙灰色的細粒子。              | 内面口縁直下まで施釉。                        | 西側畠表探        |
|              |       | 深-ロ     | 底部<br>9.8          | 高台断面三角形状。盤的な成形。<br>口縁の階級性も考慮してください。                        | 赤紫色の細粒子。<br>白色化粧土を含む。  | 外底施釉。高台外面まで施釉。<br>盤付に白色化粧土。        | 出土地不明        |
|              |       | ④-B-A-ロ | 口縁<br>一            | 口縁断面凹字状。   | 淡灰白色的微粒子。              | 両面に施釉。                             | O15表探        |
|              |       | ⑤-B-A-ロ | 口縁<br>一            | 口縁断面逆L字状。  | 淡橙灰色的細粒子。              | 口縁外端まで白化粧。口縁外端まで<br>黒釉。口縁上端の釉剥ぎ有り。 | L~M15 II b   |
|              |       | ⑥-B-A-ロ | 口縁<br>一            | 口縁断面逆L字状。  | 灰白色的細粒子。               | 口縁上端まで白化粧。口縁外端まで<br>黒釉。内面に細かい質。    | M15 I a~b    |
|              |       | ⑦-B-A-ロ | 口縁<br>一            | 口縁断面逆L字状。前面とも輪縁有り。   | 淡褐色的細粒子。               | 口縁外端まで白化粧。口縁外端まで<br>黒釉。内面に細かい質。    | O15 I b      |
| 第33回<br>国版22 | 瓶     | 53      | 口縁<br>一            | 口縁部をやや内に外反させる。   | 淡橙灰色的細粒子。              | 口縁部で白化粧。口縁外端まで<br>黒釉。内面に細かい質。      | M15 I a      |
|              |       | 54      | 口縁<br>一            | 口縁部が微弱に外反させる。  | 淡橙灰色的細粒子。              | 内面口縁下部まで白化粧。内面の<br>口縁下部に黒釉の釉垂れ。    | 西側畠表探        |
|              |       | 55      | 口縁<br>一            | 口縁部をやや内に外反させる。   | 淡橙灰色的細粒子。              | 両面に施釉。内面に細かい質。                     | M14 I a~b    |
|              |       | 56      | 底部<br>8.6          | 高台は高く、打ち削りも深い。<br>比較的な成形。                                  | 淡橙灰色的細粒子。              | 外底施釉。高台外面まで施釉。<br>盤付に白色化粧土。        | L13表探        |
|              |       | 57      | 底部<br>7.8          | 高台は高く、打ち削りも深い。<br>比較的な丁寧な成形。                               | 灰白色的細粒子。               | 盤付に白色化粧土。<br>内底部の目釉剥ぎ。             | N15 I b      |
|              |       | a-13    | 口縁<br>一            | 口縁部をぐくの字状に削り、やや内輪気味に<br>蓋受け部を形成。脚部は強張。                     | 淡橙白色的細粒子。              | 蓋受け部のみ露胎。                          | 西側畠表探        |
|              |       | a-13    | 口縁<br>一            | 口縁部をぐくの字状に削り、蓋受け部を形成。<br>口縁は丸く盛る。脚部は盛る。                    | 淡灰白色的細粒子。              | 蓋受け部のみ露胎。                          | 西側畠表探        |
|              |       | a-13    | 口縁<br>一            | 18.0<br>口縁部をぐくの字状に削り、やや内輪気味に蓋受け<br>部を形成。脚部は盛る。下向きの耳を斜めに設付。 | 灰白色的細粒子。               | 蓋受け部のみ露胎。                          | M14~15 I a~b |
| 第34回<br>国版23 | 瓶     | b-14    | 口縁<br>一            | 口縁部をぐくの字状に削り、蓋受け部を形成。                                      | 淡橙褐色的粗粒子。              | 両面に施釉。失透気味。                        | 西側畠表探        |
|              |       | 60      | 底部<br>7.0          | 平底タイプ。<br>三足とと思われる脚部のナデ調壁底。                                | 淡灰白色的細粒子。              | 外側脚下部まで施釉。                         | 西側畠表探        |
|              |       | 63      | 底部<br>6.4          | 平底タイプ。<br>三足と思われる脚部欠落した瓶。                                  | 淡灰白色的細粒子。              | 外側脚下部まで施釉。                         | 西側畠表探        |
|              |       | 64      | 底部<br>一            | 平底タイプ。<br>三足と思われる脚部欠落した瓶。                                  | 淡灰白色的細粒子。<br>白色化粧土を含む。 | 両面に施釉。                             | L15 I a~b    |

第16表 沖縄産施釉陶器観察一覧3

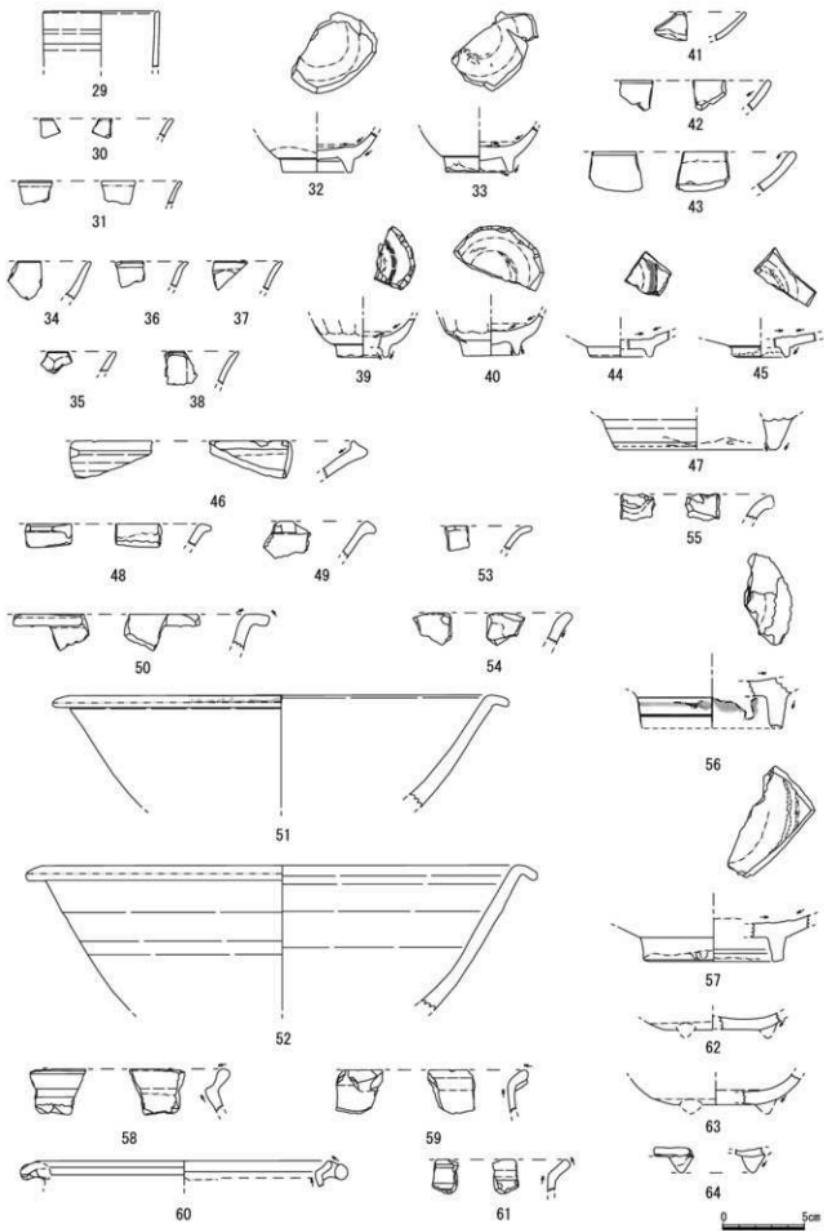
| 博団番号<br>国版番号 | 器種・分類 | 部位    | 口唇<br>縁部の性状 | 器形・文様等の特徴                                  | 素地  | 釉色・施釉状況・買入等                         | 出土地            |          |
|--------------|-------|-------|-------------|--|---|-------------------------------------|----------------|----------|
| 65           | 蓋     | 中-ロ   | 縁           | アンダガーミの縁。身掛けの突起は欠落。<br>印12.2、蓋甲部に3枚の凹縫。    | 淡褐色の細粒子。                                    | 蓋平面から跨縫部まで施釉。                       | 出土地不明          |          |
| 66           |       | 中-ロ   | 縁           | アンダガーミの縁。身掛けの突起は欠落。<br>印12.6、蓋甲部に2枚の凹縫。    | 淡褐色の細粒子。                                    | 蓋平面のみ施釉。                            | 西側窯場探          |          |
| 67           |       | 中-ロ   | 縁           | アンダガーミの縁。身掛けの突起は欠落。<br>印11.8、蓋甲部に3枚の凹縫。    | 淡灰白色の細粒子。                                   | 蓋平面から跨縫部まで施釉。                       | L14 I a~b      |          |
| 68           |       | 中-ロ   | 縁           | アンダガーミの縁。<br>印9.9、身掛けの突起は内傾する。             | 淡灰白色の細粒子。                                   | 蓋平面から跨縫部まで施釉。                       | M14 I b        |          |
| 69           | 身     | 中- ロ  | 口縁          | アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。                 | 淡褐色の細粒子。                                    | 口唇上端以外に施釉。                          | L15 I b        |          |
| 70           |       | 中- ハロ | 口縁          | アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。                 | 淡褐色の細粒子。                                    | 口唇上端以外に施釉。<br>口唇上端に白化粧土。            | 西側窯場探          |          |
| 71           |       | 中- ハロ | 口縁          | アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。                 | 淡灰白色の細粒子。                                   | 口唇上端以外に施釉。<br>口唇上端に白化粧土。            | M15 II a       |          |
| 72           |       | 中- ハロ | 口縁          | アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。                 | 淡褐色の細粒子。                                    | 口唇上端以外に施釉。                          | L15 II b       |          |
| 73           | 瓶     | 中- ロ  | 口縁          | 8.8<br>アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。          | 淡灰白色の細粒子。                                   | 外面上及内面口縁直下のみ施釉。<br>内面口縁直下に砂目と施釉。    | M15 I b~ II b  |          |
| 74           |       | 中- ロ  | 口縁          | 7.9<br>アンダガーミの口縁。<br>口縁部を削り字型に成形。          | 淡褐色の細粒子。                                    | 外面上及内面口縁直下のみ施釉。<br>口縁上端に白化粧土。内面軸垂れ。 | M15 II b       |          |
| 75           |       | 大-ロ   | 底部          | アンダガーミの底部分。<br>比較的丁寧に成形。                   | 淡灰白色の細粒子。                                   | 發付を鑿跡とする。                           | M15 II b       |          |
| 76           |       | 瓶?    | 肩部?         | 円筒形の底割部。外面上に2条の縫隙。<br>底上端の可塑性も考慮しておけ。      | 淡灰白色の細粒子。                                   | 両面に灰釉を施す。                           | TP8-2層         |          |
| 77           | 瓶子    | 底部    |             | 瓶の底割片。                                     | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面に黒釉を施す。内面に鉄釉。                     | 西側窯場探          |          |
| 78           |       | 底部    |             | 瓶の底割片。外には切欠の底輪を2枚。                         | 淡灰白色の細粒子。                                   | 両面に灰釉を施す。                           | 西側窯場探          |          |
| 79           |       | 瓶子    | 底部          | 瓶の底割片。両面断面二角形。                             | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ施釉。                            | 西側窯場探          |          |
| 80           |       | 瓶子    | 底部          | 瓶の底割片。両面断面二角形。<br>底面と内壁間に底輪。               | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ施釉。                            | 西側窯場探          |          |
| 81           | 大     | 把手(柱) |             | 瓶の把手。把手=柱と思われる。<br>圓柱状である。                 | 灰黑色の粗粒子。                                    | 両面に黒釉を施す。                           | 西側窯場探          |          |
| 82           |       | 注口    |             | 旋轉の注口と思われる。<br>比較的丁寧に成形である。                | 灰黑色の粗粒子。                                    | 両面に灰釉を施す。                           | M15 I a~ b     |          |
| 83           |       | 底部    |             | 瓶の底割片と思われる。<br>圓柱状である。                     | 灰白色的細粒子。                                    | 両面に灰釉を施す。鉄釉の有無か?                    | 西側窯場探          |          |
| 84           |       | 蓋     |             | 瓶8.2、吹抜痕の可能性も考慮しておく。<br>両面とも調製痕が明瞭である。     | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ鉄釉を施す。                         | 西側窯場探          |          |
| 85           | 急須    | 口縁    |             | 扇手。口縁部で角度を変えて立ち上がる。                        | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ黒釉を施す。                         | TP6-1層         |          |
| 86           |       | 耳     |             | 胴上部に貼付。外面に日本式の底輪。                          | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面に黒釉を施す。                           | M15 II b       |          |
| 87           |       | 注口    |             | 胴上部に穴を2つ穿った後、注口を貼付。                        | 淡褐色の細粒子。                                    | 黄緑気味を呈した鉄釉を施す。                      | M15 II a       |          |
| 88           |       | 蓋     |             | 7.5<br>瓶5.8、白化粧後、十字状の三角文を縛締き。              | 灰白色の細粒子。                                    | 蓋平面のみ施釉。                            | 西側窯場探          |          |
| 89           | 中     | 蓋     |             | 7.5<br>白化粧後、縛締りによる縛縫とトビカンナ。                | 灰白色の細粒子。                                    | 蓋平面のみ施釉。                            | TP7-1層         |          |
| 90           |       | 口縁    | 5.0         | 胴下部から角度を変えて立ち上げたせ<br>り。底盤=椅子状一枚脚と底輪と長足=底輪。 | 淡黄色の細粒子。                                    | 両面に施釉。                              | M14 I b~ II b  |          |
| 91           |       | 注口    |             | 胴上部に穴を2つ穿った後、注口を貼付。                        | 淡黄色の細粒子。                                    | 両面に施釉。                              | LM15 I b~ II b |          |
| 92           |       | 胴部    |             | 円筒形状に成形。外表面に斜面の底輪と底盤の線。                    | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ施釉。                            | K15表探          |          |
| 93           | 急須    | 底部    |             | 円筒形状に成形。                                   | 淡灰白色の細粒子。                                   | 両面に施釉。                              | M14~15 I a~b   |          |
| 94           |       | 胴部    |             | 円筒形状に成形。白化粧後、縛締の縛縫とトビカンナ。                  | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ施釉。                            | TP6-2層         |          |
| 95           | 酒器    | -     | 口縁          | 5.0<br>ワカラの口縁部。<br>開口状に異常。底部を上方につまみ上げる。    | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面に施釉。                              | 西側窯場探          |          |
| 96           |       | -     | 口縁          | 5.5<br>ワカラの口縁部。<br>開口状に異常。底部を上方につまみ上げる。    | 淡灰白色の細粒子。                                   | 両面に施釉。                              | 西側窯場探          |          |
| 97           |       | 香炉?   | I           | -<br>底部                                    | 香炉の底盤とと思われる。2脚もなす脚部を貼付。<br>小底座を有する。比較的整な成形。 | 灰白色の細粒子。                            | 外面上のみ施釉。       | L15 II b |
| 98           |       | a     | 口縁          | 11.2<br>口縁部を圓状に成形。                         | 灰白色的細粒子。                                    | 外面上部まで施釉。口唇部は<br>接着取る。口唇部にアルマナ?     | L15表探          |          |
| 99           | 火炉    | b     | 口縁          | 8.7<br>口縁部を内嚙気様に成形。                        | 灰白色的細粒子。                                    | 外面上部まで施釉。                           | K15表探          |          |
| 100          |       | 不明    | 底部          | 7.6<br>胴下部から腰折れし。角度を変えて立ち上がる。              | 灰白色的細粒子。                                    | 外面上部まで施釉。<br>内面・外底は透明釉なし。           | K15表探          |          |
| 101          |       | 不明    | 底部          | 6.6<br>胴下部から腰折れし。角度を変えて立ち上がる。              | 灰白色的細粒子。                                    | 外面上部まで施釉。<br>内面・外底は透明釉なし。           | M14 I a~ b     |          |
| 102          |       | 不明    | -           | 更堀の腰折れの口縁部。                                | 淡褐色の細粒子。                                    | 両面に施釉。                              | 西側窯場探          |          |
| 103          | 荷物    | I     | 脚部          | -<br>内面調整痕が明瞭。                             | 黃褐色の細粒子。                                    | 両面にのみ施釉。                            | M15 II a       |          |



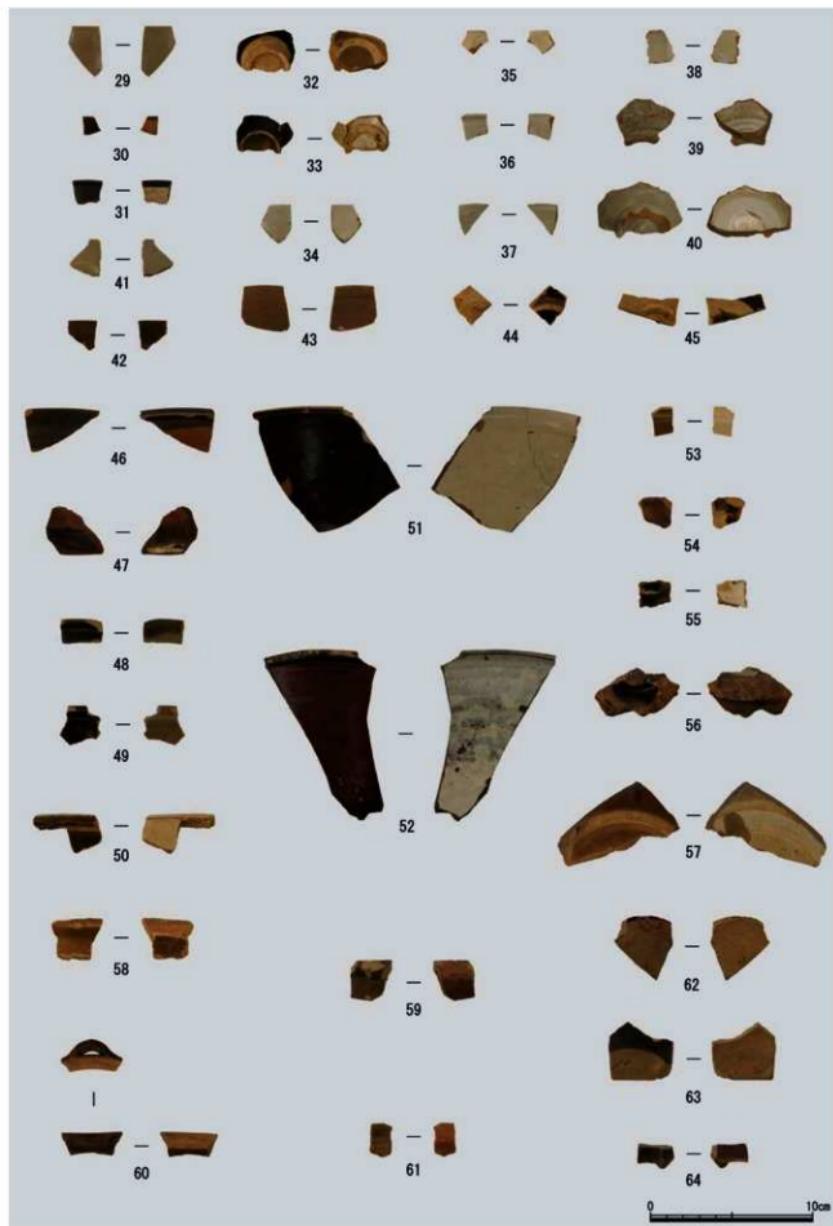
第30図 沖縄産施釉陶器 1 碗



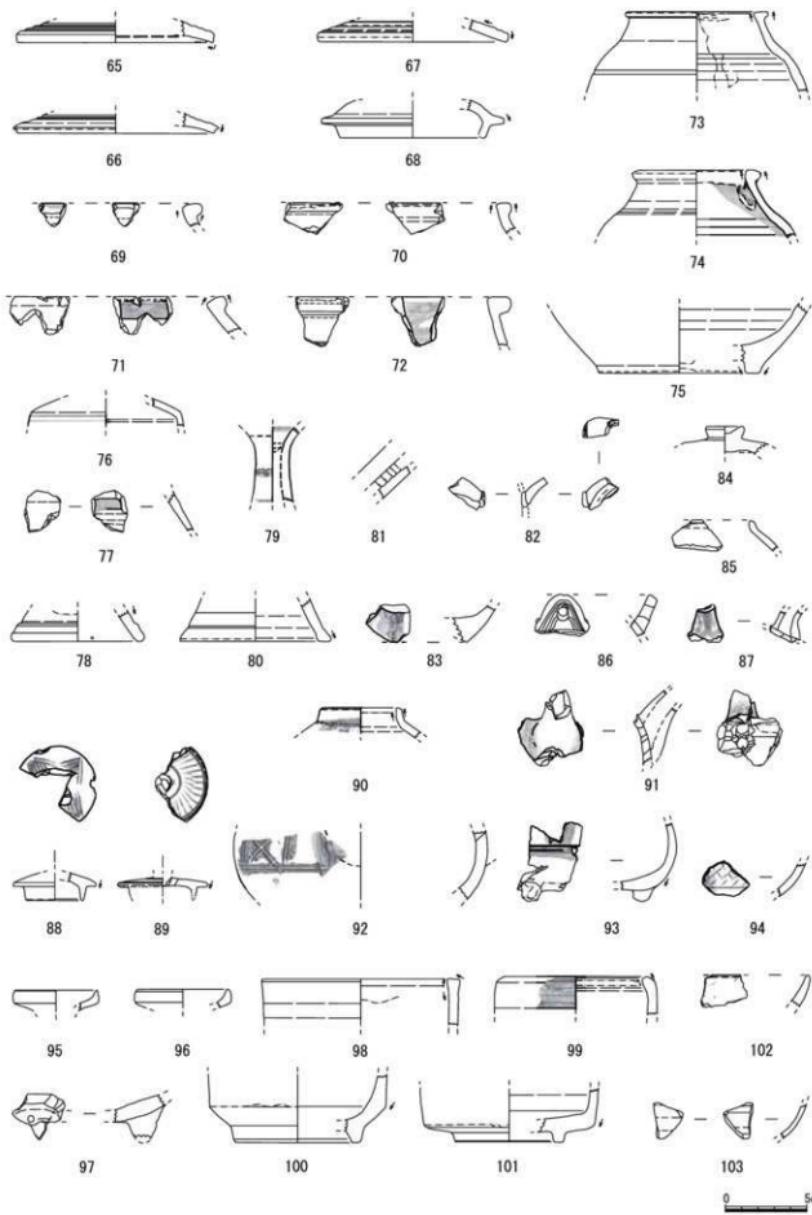
図版 19 沖縄産施釉陶器 1



第31図 沖縄産施釉陶器2 簡碗(29)、小碗(30~40)、皿(41~45)、鉢(46~57)、鍋(58~64)



図版 20 沖縄産施釉陶器 2



第32図 沖縄産施釉陶器3 壺(65~75)、瓶(76~80)、急須(81~94)、酒器(95~96)  
香炉(97)、火炉(98~101)、灯明具(102)、袋物(103)



図版 21 沖縄産施釉陶器 3

## 12. 沖縄産無釉陶器

沖縄産無釉陶器の出土総数は2,276点で、アカムヌーに次いで多い。確認された器種としては碗・壺・甕・厨子甕・鉢・擂鉢・急須・瓶・香炉・袋物・窓道具?が得られている。層位別出土状況としては、西側畠表採が674点、I a ~ b 層中が583点と全体の半数以上を占めている。器種別の出土傾向は壺153点、甕117点で壺・甕不明の破片資料を含めると777点にも及び、鉢・擂鉢計の246点を圧倒しており、両者だけで全体の4割強を占める(第18表)。以下、分類概念について述べることとし、詳細については割離表に記す。なお、碗・瓶・香炉・袋物については小破片のため割離することとし、窓道具については現在整理中の緊急調査報告書にて報告することと了された。

### 壺(第33図1~13)

I類(第33図1~3) 口縁断面が逆L字状を呈する長頸タイプで、概ね小型・中型となる。

II類(第33図4~9) 口縁断面が玉縁状を呈するタイプで、有頸甕である。概ね中型・大型となる。

III類(第33図10~13) 口縁断面が逆L字状を呈するタイプで、短頸あるいは無頸甕である。概ね大型となる。

### 甕(第33図14~19、第34図20~23)

I類(第33図14) 口縁断面が三角形形状を呈し、口縁部からすぐに胴部へと移行する。

II類(第33図15~19) 口縁断面が逆L字状で、口縁上面の幅が広い。頸部から胴部へ緩やかに膨らむ器形。

III類(第33図16、第34図20) 口縁断面が逆L字状で方形形状に肥厚。口縁から大きく曲がり、胴部へと移行する。

IV類(第33図17~18・第34図21~23) 口唇部を平坦に成形し、口縁両端が張り出す。胴部からやや開き気味に立ち上がるほぼ直口の甕。

### 擂鉢(第34図24~28・35~38)

I類(第34図24~25) 口縁断面がぐの字状で、口縁直下には稜が施される。

II類(第34図26~28) I類に比して、口縁断面がゆるやかにぐの字状をなし、口縁直下には稜が施される。

III類(第34図35~36) 口縁断面が逆L字状で口唇部の幅が広い。I~II類に比して深い。

底部資料については、特徴的なものだけを図化した(第34図37~38)

### 鉢(第34図29~34)

I類(第34図29~31) 口縁部が内轉し、断面形が舌状・平坦を呈する。一般にミジクブサーと称される。

II類(第34図32~33) 口縁部が内轉し、断面形が玉縁状を呈する。I類と同様にミジクブサーと称される。

III類(第34図35) 口縁断面が逆L字状をなし、口唇部の幅は広い。

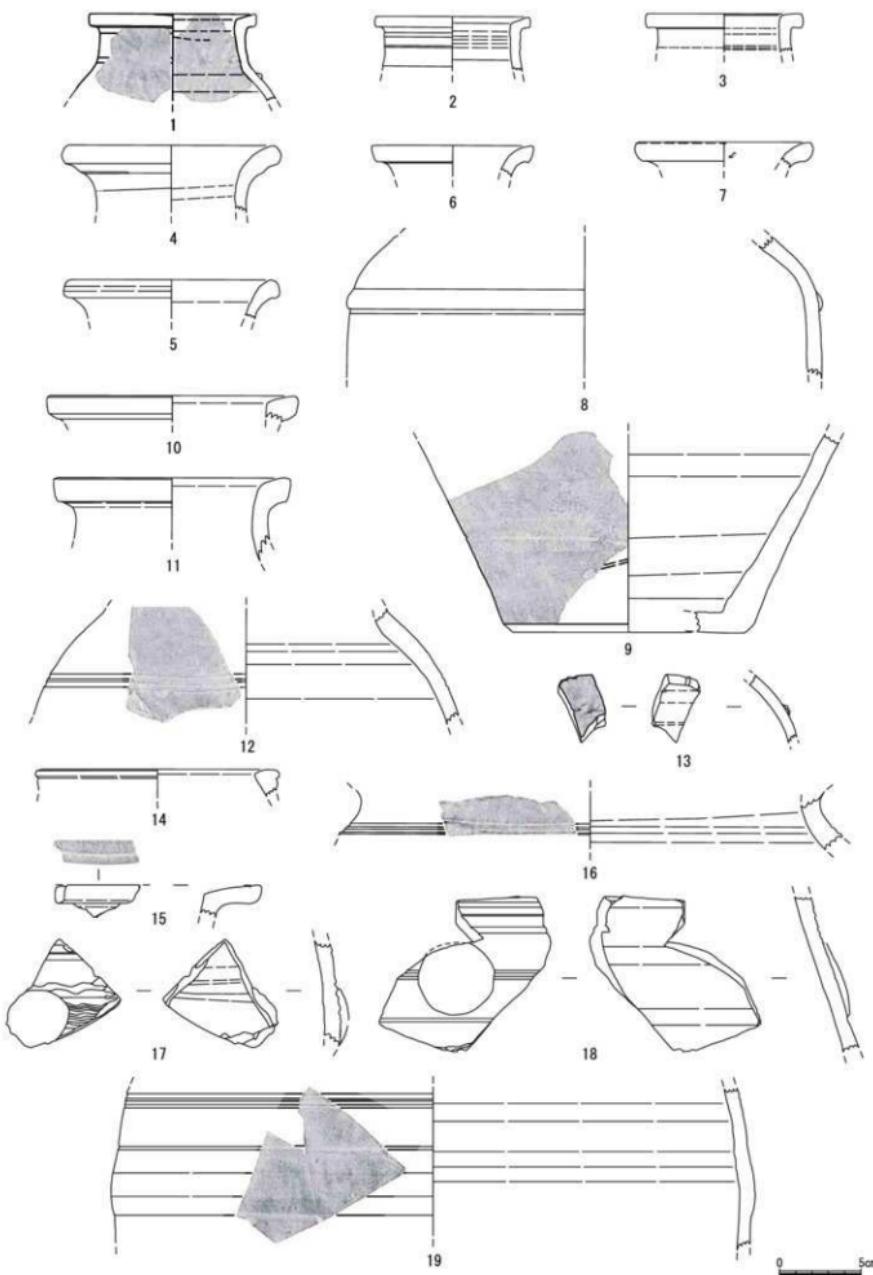
蓋(第34図39~40) 厩子甕(39)と急須(40)の蓋が得られている。

第18表 沖縄産無釉陶器出土状況一覧

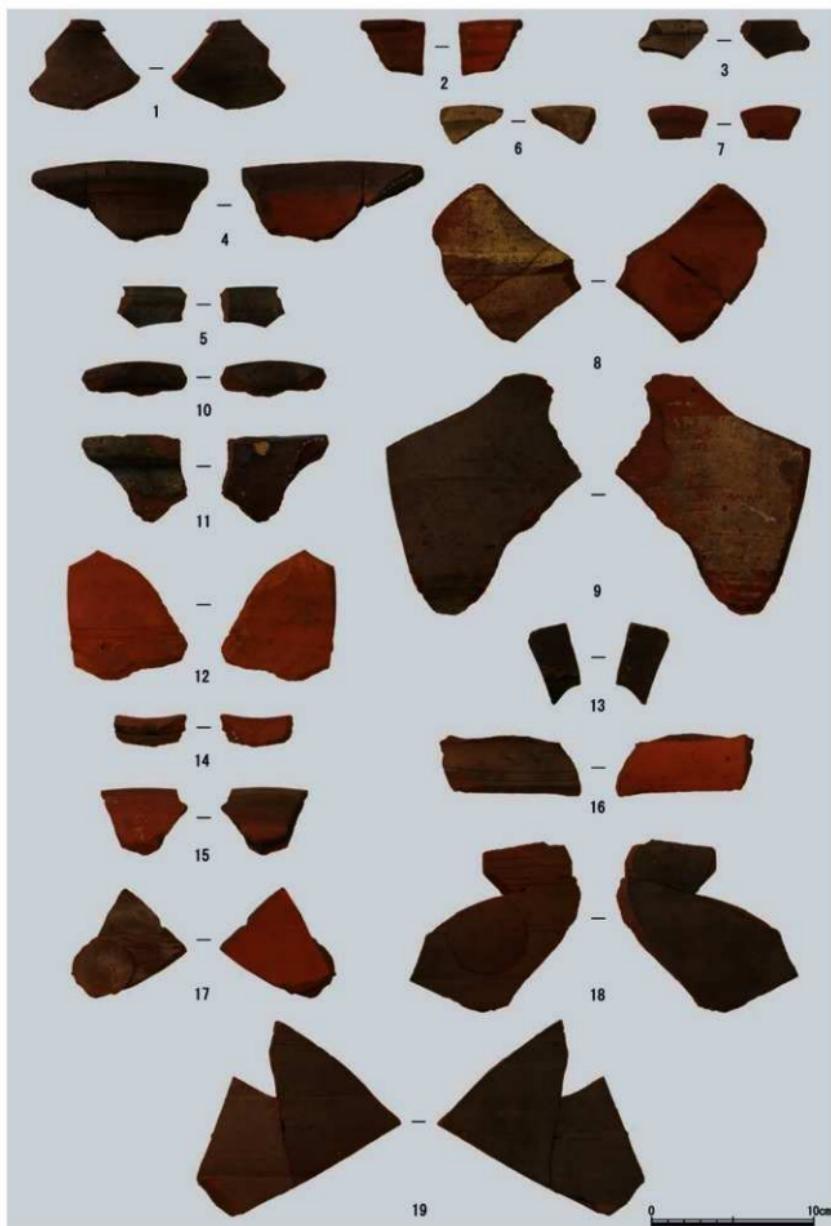
| 分類   | I  |    |   | II |   |   | III |   |   | IV |    |    | V  |    |    | VI |    |    | VII |    |    | VIII |    |    | IX |    |    | X  |    |    |
|------|----|----|---|----|---|---|-----|---|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|
|      | Ⅰa | Ⅰb | Ⅱ | Ⅲ  | Ⅳ | Ⅴ | Ⅵ   | Ⅶ | Ⅷ | Ⅸ  | Ⅹ  | Ⅺ  | Ⅻ  | Ⅼ  | Ⅽ  | Ⅾ  | Ⅿ  | ⅰ  | ⅱ   | ⅲ  | ⅳ  | ⅵ    | ⅶ  | ⅷ  | ⅸ  | ⅹ  | ⅻ  | ⅽ  | ⅽ  | ⅽ  |
| 無釉陶器 | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 急須   | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 甕    | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 壺    | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 碗    | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 袋物   | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 炉    | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 擂鉢   | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 其他   | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 合計   | 1  | 2  | 3 | 4  | 5 | 6 | 7   | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19  | 20 | 21 | 22   | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

第19表 沖縄産無釉陶器観察一覧

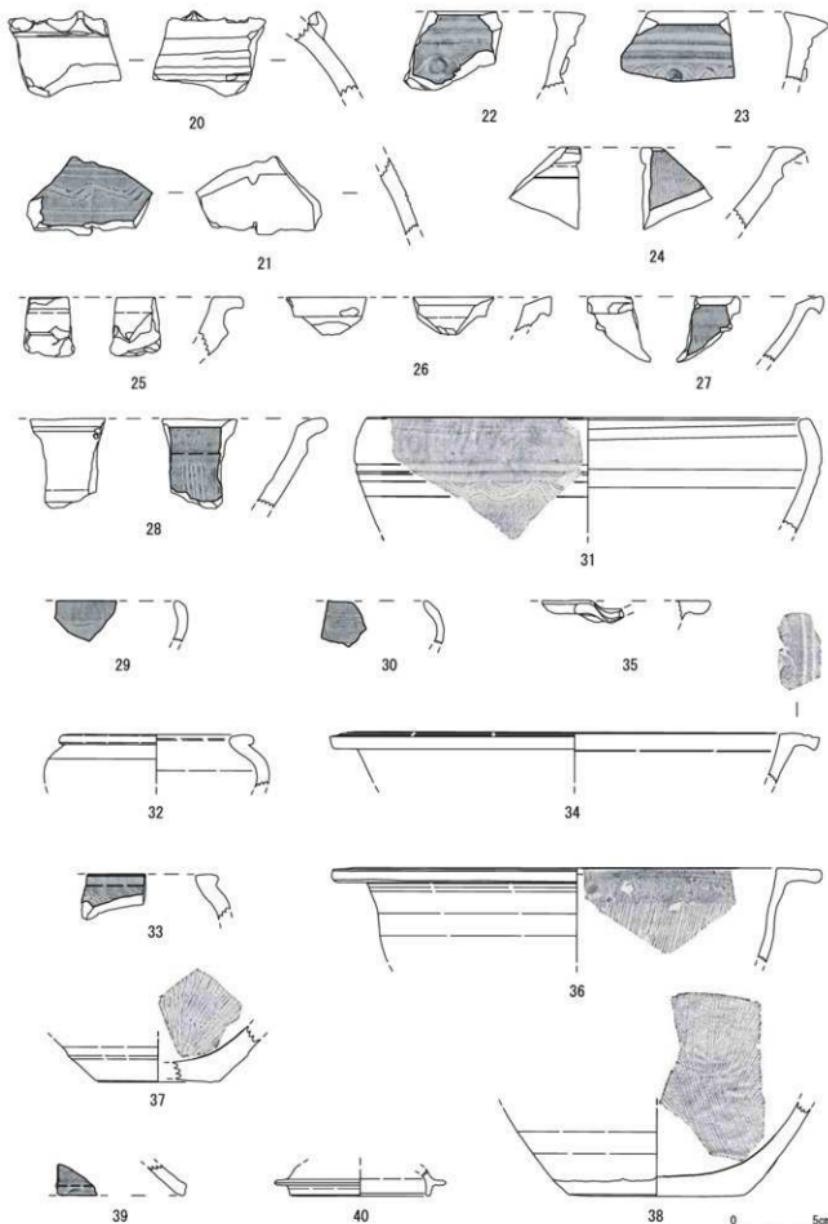
| 標因番号<br>国際版番号  | 器種・分類 | 部位 | 口絞<br>直筒<br>丸筒<br>方筒<br>高筒<br>低筒<br>丸底<br>方底<br>直底<br>圓底<br>脚子<br>脚部 | 器色                      | 素地               | 觀察事項                          | 出土地          |
|----------------|-------|----|--|-------------------------|------------------|-------------------------------|--------------|
| 第3358<br>第3222 | 甕     | 口縁 | -  | 暗赤茶褐色。<br>白色鉛物を含む。      | 脚部に斜位の沈線。輪轂痕明瞭。  | N15 I a~b                     |              |
|                |       | 口縁 | 9.6  | 暗赤茶褐色。<br>白色鉛物を含む。      | 両面ともに茶褐色。        | 西側畠表探                         |              |
|                |       | 口縁 | 9.8  | 暗赤茶褐色。<br>内面は白潤した暗赤褐色。  | 白色鉛物を含む。         | M15 B b                       |              |
|                |       | 口縁 | 15.0   | 外面は暗赤褐色。<br>内面は茶褐色。     | 白色鉛物を含む。         | L15 I a~b                     |              |
|                |       | 口縁 | 13.4   | 両面とも白潤した暗赤褐色。           | 白色鉛物を含む。         | O15 I b                       |              |
|                |       | 口縁 | 10.0   | 両面とも潤った黄赤褐色。            | 白色鉛物を含む。         | 西側畠表探                         |              |
|                |       | 口縁 | 11.0   | 両面とも水茶褐色。               | 白色鉛物を含む。         | L15 II a                      |              |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は濃った黄赤褐色。<br>内面は茶褐色。 | 白色鉛物を含む。         | N15 I a~II a                  |              |
|                |       | 底部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 白色鉛物を含む。         | N12表探                         |              |
|                |       | 口縁 | 14.4   | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 白色鉛物を含む。         | L14 I b                       |              |
| 第3358<br>第3222 | 甕     | 口縁 | 15.6   | 両面とも暗赤褐色。               | 暗赤褐色。            | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕が明瞭である。     | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 白色鉛物を含む。         | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕が明瞭である。     | L15表探        |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 白色鉛物を含む。         | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕・調整痕が明瞭である。 | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | 14.6   | 両面とも暗赤褐色。               | 白色鉛物を含む。         | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕が明瞭である。     | L15表探        |
|                |       | 脇部 | -  | 両面とも明茶褐色。               | 明茶褐色。            | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕が明瞭である。     | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 両面とも暗赤褐色。               | 白色鉛物を含む。         | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕が明瞭である。     | M15 I b~II b |
|                |       | 口縁 | 15.4   | 両面とも茶褐色。                | 白褐色。<br>白色鉛物を含む。 | 外面部記載。<br>両面ともに輪轂痕・調整痕が明瞭である。 | K12表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 茶褐色。             | 口唇部に1本の沈線。                    | O15 I b      |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に2本の沈線。                    | 出土地不明        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・貼付の丸文。             | M15 I b~II a |
| 第3358<br>第3222 | 甕     | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・貼付の丸文。                 | K15表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・調整痕が明瞭である。         | L14 I a~b    |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・貼付の丸文。             | M15 I b~II a |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・調整痕が明瞭である。         | L14 I a~b    |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・貼付の丸文。             | L15 II b     |
|                |       | 口縁 | -  | 両面とも暗赤褐色。               | 暗赤褐色。            | 外面部に沈痕・波状線・調整痕が明瞭である。         | K16表探        |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・貼付の丸文。             | M15 I b~II b |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・調整痕が明瞭である。         | L14 I a~b    |
|                |       | 脇部 | -  | 外表面は茶褐色。<br>内面は茶褐色。     | 茶褐色。             | 外面部に沈痕・波状線・貼付の丸文。             | L15 II b     |
|                |       | 口縁 | -  | 両面とも暗赤褐色。               | 暗赤褐色。            | 外面部に沈痕・波状線・調整痕が明瞭である。         | K16表探        |
| 第3408<br>第3223 | 甕     | 口縁 | -  | 両面とも暗赤褐色。               | 赤茶褐色。            | 外面部に凸凹の継線。                    | L15 I b~II a |
|                |       | 口縁 | -  | 両面ともにぶい黒褐色。             | 赤茶褐色。            | 外面部に間隔の狭い縦目を施す。               | L15 I b~II a |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 外面部に凸凹の継線。                    | 西側畠表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は濃った黄赤褐色。            | 赤茶褐色。            | 外面部に間隔の広い縦目を施す。               | 西側畠表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。                        | N15 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 両面とも黄色く潤った茶褐色。          | 暗赤茶褐色。           | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | M15 I b~II b |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は濃った黄赤褐色。            | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。外面部に凸凹の継線。              | M15 I a~b    |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | M15 I a~b    |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 外面部に波状線。                      | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | O15 I b      |
| 第3408<br>第3223 | 甕     | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。                        | M15 I b~II a |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | 27.0   | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。内面に横筋。                  | K14表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | M15 I b~II b |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。外面部に凸凹の継線。              | M15 I a~b    |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | M15 I a~b    |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 外面部に波状線。                      | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | O15 I b      |
|                |       | 口縁 | 30.2   | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。全体的に雑な成形である。            | 西側畠表探        |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | 西側畠表探        |
| 第3408<br>第3223 | 甕     | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面に瘤目。                        | L14 I b      |
|                |       | 口縁 | -  | 外表面は茶褐色。                | 赤茶褐色。            | 内面ともに調整痕が明瞭である。               | O15 I b      |
|                |       | 流部 | 7.6  | 外表面は茶褐色。                | 茶褐色と黒色のサンタウッド状。  | 内面に瘤目。                        | M15 I b~II a |
|                |       | 底部 | 10.8   | 外表面は茶褐色。                | 茶褐色。             | 内面に調整痕。                       | L15表探        |
|                |       | 脚子 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | 内面に調整痕。                       | TPM-1層       |
|                |       | 急須 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | ボージャー脚子の壺蓋片と思われる。             | MI4 I b~II b |
|                |       | 急須 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | 内面に明瞭な調整痕。                    | MI4 I b~II b |
|                |       | 急須 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | 内面に明瞭な調整痕。                    | MI4 I b~II b |
|                |       | 急須 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | 内面に明瞭な調整痕。                    | MI4 I b~II b |
|                |       | 急須 | -  | 外表面は茶褐色。                | 明茶褐色。            | 内面に明瞭な調整痕。                    | MI4 I b~II b |



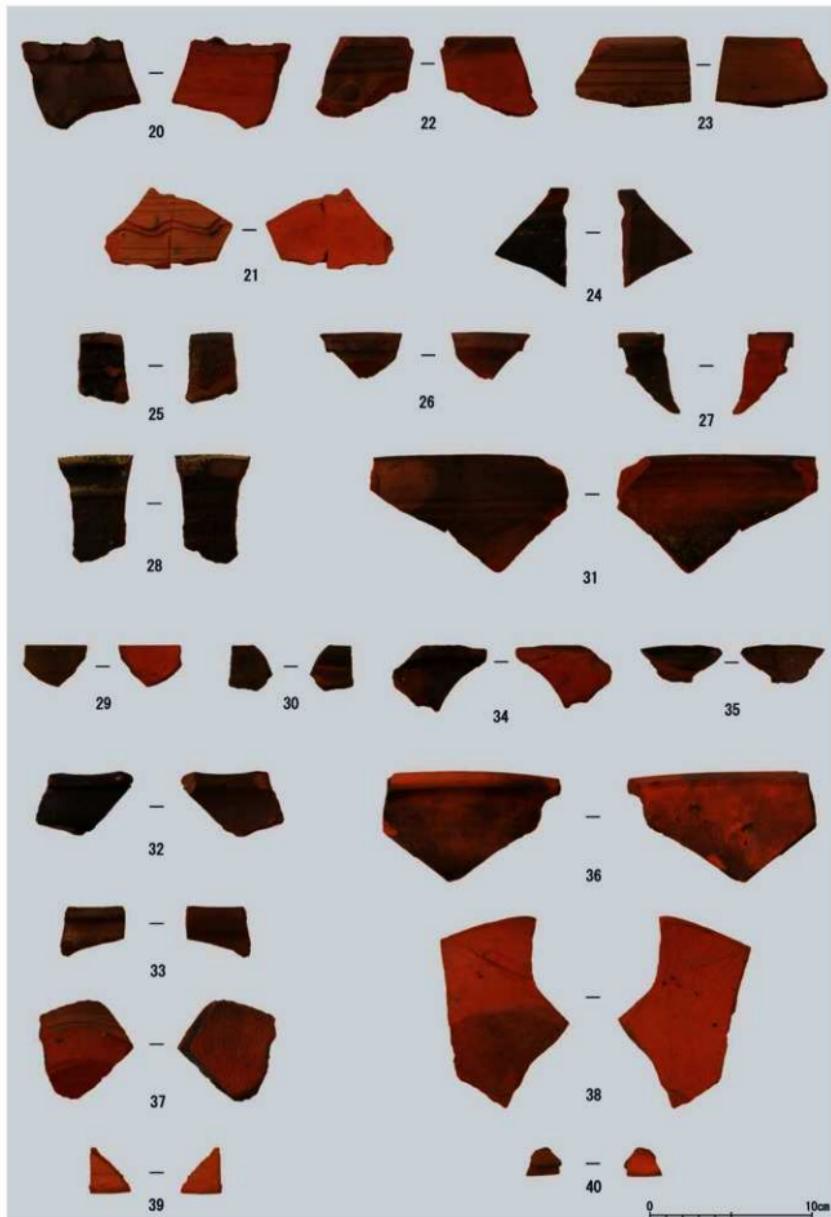
第33図 沖縄産無軸陶器 1 壺（1～13）、甕（14～19）



図版 22 沖縄産無釉陶器 1



第34図 沖縄産無釉陶器2 瓢(20~23)、捕鉢(24~28・35~38)、鉢(29~34)、蓋(39~40)



図版 23 沖縄産無釉陶器 2

### 13. アカムヌー

本文でアカムヌーとしたものは、一般に壺屋焼の中でも小型の登り窯で焼成された雑器を言い、「アカムヌー」・「アカモノ」と称されているものを指す。従来は陶質土器として整理されており、焼成温度の影響から軟質なタイプと瓦質土器様に焼き締まる硬質なタイプとがあるが、中世の「いわゆる瓦質土器」とは似て非なるものとして扱った。

アカムヌーの出土総数は3,056点で、今次調査における出土点数としては最も多くなっているが、大部分が小破片となっている。確認された器種としては鉢・擂鉢・鍋・急須・火炉・皿・壺がある。出土層位別の出土傾向は、西側畳表採が2,252点と全体の74%を占めており、次いでI a～b層が789点となっている。他の出土遺物と同様な傾向として、耕作土における撲乱に伴い、巻き上げや碎片化しているものと思われる。器種別出土傾向としては、鍋が467点、急須223点となっており興味深い(第20表)。以下、分類概念について整理し、詳細は観察表に記す。

**鉢**(第20表1～11)

蓋(第35図1～4) 皿に類似するが、外面を丁寧に成形し、やや外傾した高台状の撮みを有する。

身(第35図5～9) サークと称されるもので、口縁部をくの字状に折って見受けを造り、紐状の耳を貼り付ける。

**鉢**(第35図10～13)

I類(第35図10～12) 口縁部が内轉し、外面に櫛描きの波状凹線を描く。一般にミジクブサーと称されるもの。

II類(第35図13) 内轉口縁で、断面が玉線状を呈す。I類と同様にミジクブサーと称され、文様構成も同様。

III類 口縁断面が逆L字状を呈し、沖縄産無釉陶器の鉢・擂鉢と類似する。小破片のため割愛した。

底部資料については、形状が窺える資料について図化した(第36図29～30)。

擂鉢 横目を有する脚部資料が得られているが、小破片のため割愛した。

急須(第35図14～21)

蓋(第35図14～18) 摂みを有するタイプで、身受けの突起が小さいと大きく直立するタイプがある。

注口(第35図19～21) 特徴的な注口を図化した(19～21)。

火炉(第36図22～27)

I類(第36図22～25) 脚部中央から口縁部へと大きく内傾させるタイプで、身受けの突起を下方に張り付ける。

II類(第36図26～27) 脚部からくの字状に折れて内傾するタイプである。

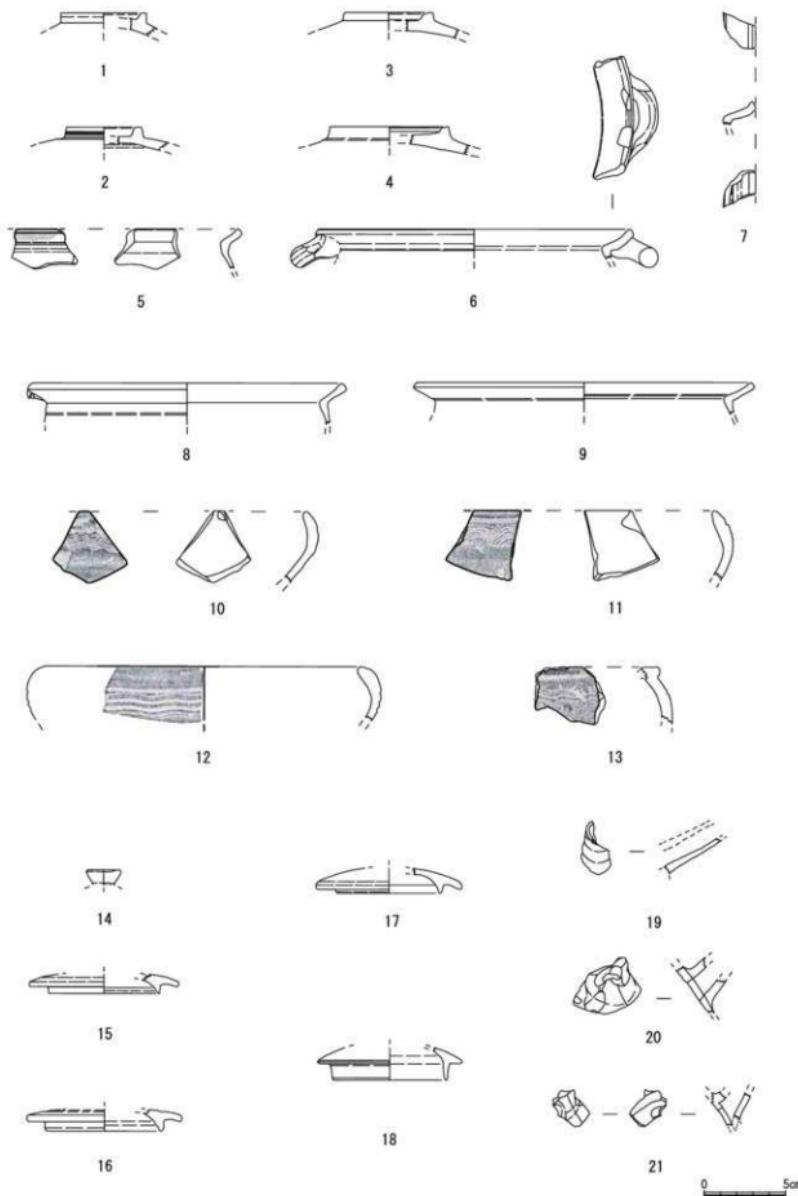
壺(第36図28) 口縁資料が僅かに得られているが、特徴的な資料を図化した。

第20表 アカムヌー出土状況一覧

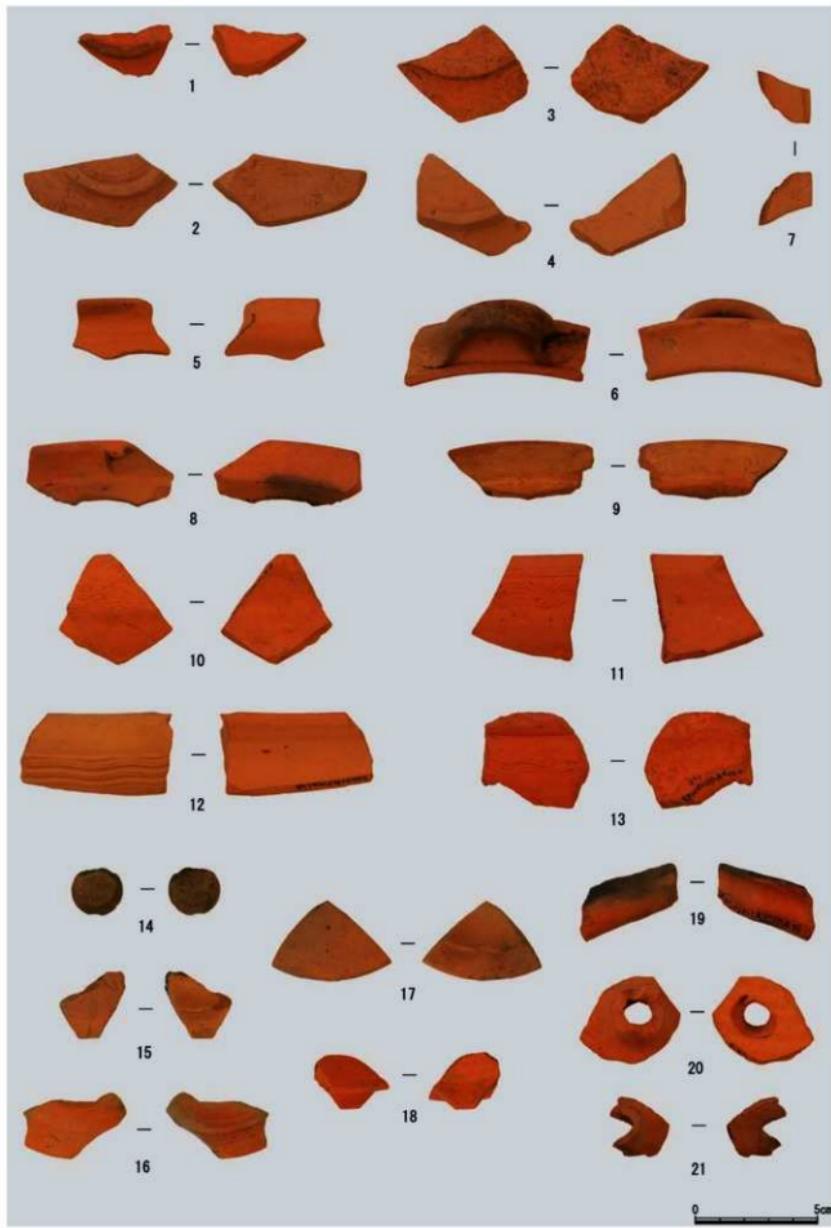
| 分類 | 層位 | 地質   | 遺物 | 全層 |    |    | 各層 |    |    | 火炉 |    |    | 急須 |    |    | 擂鉢 |    |    | 蓋  |    |    | 身  |    |    | 計  |    |    |   |
|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|
|    |    |      |    | 上層 | 中層 | 下層 |   |
| 火炉 | 上層 | 砂質粘土 | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 火炉 | 中層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 火炉 | 下層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 急須 | 上層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 急須 | 中層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 急須 | 下層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 擂鉢 | 上層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 擂鉢 | 中層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 擂鉢 | 下層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 蓋  | 上層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 蓋  | 中層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 蓋  | 下層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 身  | 上層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 身  | 中層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 身  | 下層 | 砂質粘土 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |
| 計  |    |      | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 |

第21表 アカムヌー観察一覧

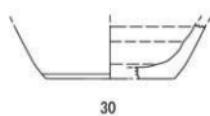
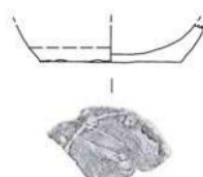
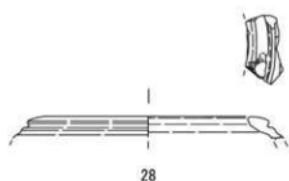
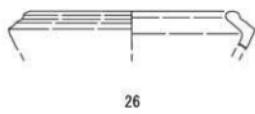
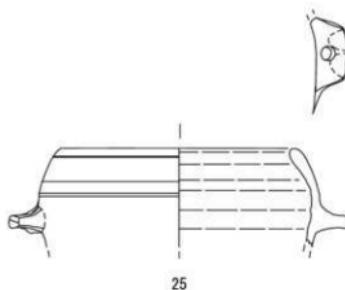
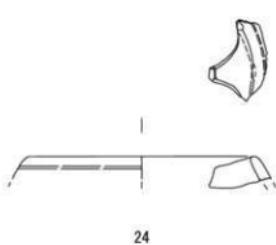
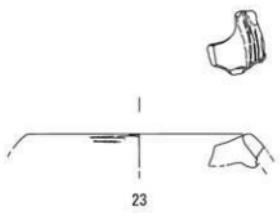
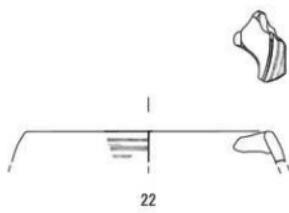
| 排団番号<br>段版番号 | 器種・分類 | 部位 | 口縁<br>器底<br>通透 | 器色           | 素地                         | 觀察事項  | 出土地          |
|--------------|-------|----|----------------|--------------|----------------------------|---|--------------|
| 2355<br>段版24 | 蓋     | 縫み | (5.3)<br>-     | 明褐色。<br>赤色粒。 | やや硬質。明茶褐色。<br>赤色粒。         | 外傾する高台状の縫み。<br>回転ヘラ成形。焼成良好。                   | O15 I b      |
|              |       | 縫み | (4.6)<br>-     | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>ニーピ様の黒色砂粒。      | 外傾する高台状の縫み。<br>回転ヘラ成形。焼成良好。                   | L14 I b      |
|              |       | 縫み | (5.4)<br>-     | 明褐色。         | やや硬質。明茶褐色。<br>赤色粒。         | 外傾する高台状の縫み。全体に磨耗気味。<br>回転ヘラ成形。焼成やや良好。         | L12表探        |
|              |       | 縫み | (7.2)<br>-     | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 外傾する高台状の縫み。全体に磨耗気味。<br>回転ヘラ成形。焼成やや良好。         | L15 I b      |
| 2356<br>段版25 | 身     | 口縁 | -<br>-         | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 口折れ後、口縁はやや内傾。端部に煤。<br>回転ヘラ成形とナデ調整。焼成やや良好。     | L15表探        |
|              |       | 口縁 | 19.6           | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 口折れ後、口縁はやや内傾。端部に粗粒耳。<br>外面に煤。ヘラ成形とナデ調整。焼成良好。  | L15 I b      |
|              |       | 口縁 | -              | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。雲母。<br>白色粒、黒色砂粒。    | 口折れ後、口縁はやや内傾。ヘラ成形とナデ調整。<br>焼成良好。              | L15 I b~II a |
|              |       | 口縁 | 19.6           | 明褐色。         | 軟質。明褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 口折れ後、口縁はやや内傾。端部に粗粒耳片。<br>回転ヘラ成形とナデ調整。焼成やや良好。  | M15 II b     |
|              |       | 口縁 | 21.0           | 明褐色。         | 軟質。明褐色。<br>赤色粒、黒色砂粒。       | 口折れ後、口縁はやや内傾。<br>回転ヘラ成形とナデ調整。焼成やや良好。          | L17表探        |
|              |       | 口縁 | -              | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 内傾後、口唇は舌状。回転ヘラ成形とナデ調整。<br>外面に波状沈殿。焼成やや良好。     | 西側烟表探        |
|              |       | 口縁 | -              | 明褐色。         | 軟質。明褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 内傾後、口唇は舌状。回転ヘラ成形とナデ調整。<br>外面に波状沈殿。焼成やや良好。     | 西側烟表探        |
|              |       | 口縁 | 19.0           | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>白色粒、黒色砂粒。       | 内傾後、口唇は舌状。回転ヘラ成形とナデ調整。<br>外面に波状沈殿。焼成やや良好。     | M14 I b      |
|              |       | 口縁 | -              | 明褐色。         | やや硬質。明褐色。<br>赤色粒、黒色砂粒。     | 内傾後、口唇は舌状。回転ヘラ成形とナデ調整。<br>外面に波状沈殿。焼成やや良好。     | M15 I b      |
| 2357<br>段版26 | 鉢     | 口縁 | (2.2)<br>-     | 淡褐色。         | やや硬質。淡褐色。<br>白色砂粒。         | 台形状。ナデ調整。難な成形。焼成不良。                           | 西側烟表探        |
|              |       | 蓋縫 | (9.2)<br>(6.8) | 褐色。          | 軟質。褐色。<br>黑色砂粒。            | 蓋縫部を下方へ丸みを持たず。見受けの突起は<br>粗く尖る。ナデ調整。           | 西側烟表探        |
|              |       | 蓋縫 | (6.6)          | 淡褐色。         | 軟質。褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。       | 蓋縫部を下方へ丸みを持たず。見受けの突起は<br>粗く尖る。ナデ調整。全体に磨耗気味。   | 西側烟表探        |
|              |       | 蓋縫 | (9.0)<br>(6.4) | 褐色。          | 軟質。褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。       | 蓋縫部を下方へ丸みを持たず。見受けの突起は<br>粗く尖る。ナデ調整。           | 西側烟表探        |
|              |       | 蓋縫 | (9.0)<br>(7.0) | 明褐色。         | 軟質。褐色。<br>赤色粒、黑色砂粒。        | 蓋縫部を下方へ丸みを持たず。見受けの突起は<br>粗く尖る。ナデ調整。全体に磨耗気味。   | 出土地不明        |
|              |       | 口縫 | -              | に長い明褐色。      | やや硬質。褐色。赤色<br>粒、黑色砂粒、白色砂粒。 | 手捻り成形で押圧圧、ナデ調整。<br>外面下部は黒色に変色。                | 西側烟表探        |
|              |       | 口縫 | -              | に長い明褐色。      | やや硬質。褐色。赤色<br>粒、黑色砂粒、白色砂粒。 | 手捻り成形で押圧圧、胴部に貼付。ナデ調整。<br>全体的に磨耗気味。            | 西側烟表探        |
|              |       | 口縫 | -              | に長い褐色。       | やや硬質。褐色。黑色<br>砂粒、白色砂粒。     | 手捻り成形で押圧圧、胴部に貼付。ナデ調整。<br>全体的に磨耗気味。            | L16表探        |
|              |       | 口縫 | 15.0           | に長い褐色。       | やや硬質。褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。     | 内傾後、口唇部を舌状。ヘラ成形後にナデ調整。<br>口縫内面に下方突起を貼付。       | 西側烟表探        |
|              |       | 口縫 | 13.7           | 明褐色。         | やや硬質。明褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。    | 内傾後、口唇部を舌状。ヘラ成形後にナデ調整。<br>口縫内面に下方突起を貼付。       | 西側烟表探        |
| 2358<br>段版27 | 火炉    | 口縫 | 15.8           | 明褐色。         | やや硬質。明褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。    | 内傾後、口唇部を舌状。ヘラ成形後にナデ調整。<br>口縫内面に下方突起を貼付。       | M15 I a~b    |
|              |       | 口縫 | 14.0           | 明褐色。         | 軟質。淡褐色。赤色粒。<br>黑色砂粒、白色砂粒。  | 内傾後、口唇部を舌状。ヘラ成形後にナデ調整。<br>外面胴部に横耳を貼付、穴を空つ。    | L15 II b     |
|              |       | 口縫 | 12.8           | 淡褐色。         | 軟質。淡褐色。<br>黑色砂粒、白色砂粒。      | くの字状に折り内傾させる。口縫外縫を段状に成形。<br>全体的に磨耗気味。         | O14 I b      |
|              |       | 口縫 | 14.6           | 褐色。          | やや硬質。褐色。赤色<br>粒、黑色砂粒、白色砂粒。 | くの字状に折り内傾させる。口縫外縫を段状に成形。<br>口縫上部は平坦。全体的に磨耗気味。 | O14表探        |
|              |       | 口縫 | 13.0           | 明褐色。         | 軟質。明褐色。赤色粒。<br>黑色砂粒、白色砂粒。  | 口縫部は内窪。口縫外縫を段状に成形。<br>口縫上部は平坦。全体的に磨耗気味。       | 西側烟表探        |
|              |       | 底部 | -              | 褐色。          | 軟質。褐色。<br>白色砂粒、黑色固体。       | 底部はくの字状。底部が明瞭。<br>胴部は丸みを持って立ち上がる。全体に磨耗気味。     | 出土地不明        |
|              |       | 底部 | 8.8            | 褐色。          | やや硬質。灰色、褐色。<br>白色砂粒、黑色固体。  | 底部はくの字状。底部が丸みを持って立ち上がる。                       | K~L15表探      |



第35図 アカムヌー1



図版 24 アカムヌー 1



0 5cm

第36図 アカムヌー2



22



23



24



25



26



28



27



29



30

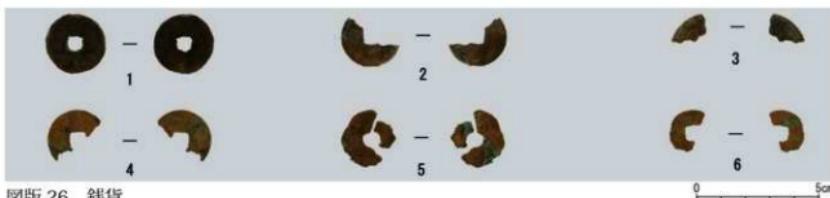


図版 25 アカムヌー 2

#### 14. 錢貨

今回の範囲確認調査においては、錢貨が計6点得られており、有文錢が5点、無文錢が1点となっている。現在整理中の緊急調査報告書において詳細は記すことを了されたい（図版26）。

1～5は有文錢。1は完形だが、「□□通寶」で判読不能。外径5.0cm・孔径1.2cm（M14 I b）。2・3・4も劣化が著しく判読不能（M14 I b / L15 I a～b / L15 I b / L15 II b）。6は無文錢（L15 II b）。



図版26 錢貨

#### 15. ジーファー（簪）

竿部分のみ1点が得られている（第37図1）。ムディーから上位は欠落しており、全形は窺えない。断面は六角形を呈す（L15 溝状環散遺構②）。

#### 16. 玉

玉は5点得られている。いずれもガラス製である。5は白色で外径0.8cm、孔径0.4cm（O15 No.2）。6は青色で外径0.75cm、孔径0.25cm（O15 II a）。7は淡青白色で外径0.6cm、孔径0.15cm（L15 II b）。8は淡黄色で外径0.9cm、孔径0.3cm（L15 II b）。9は白色で外径0.6cm、孔径0.25cm（M14 I b）。

#### 17. 煙管

煙管は9点得られている。7点が沖縄産陶製で、2点は青銅製となっている（第22表）。特徴的なものを図化した（第37図7～12）。詳細は次回報告に委ねる。

10は沖縄産施釉陶器製の吸口で、線軸を施す。長さは3.7cm、接続部径が3.0cm、吸口が0.9cm（TP8-1層）。11も沖縄産施釉陶器製の吸口で、線軸を施す。残存部の長さは2.7cm、接続部径が約1.3cm、吸口が0.9cm（西側畠表探）。12は焼き締め陶器に鉄軸を施した雁首破片。断面八角形を呈す。火皿径は2.6cm、接続部径は約1.2cm（西側畠表探）。13も同様で、焼き締め陶器に鉄軸を施した雁首破片。断面八角形を呈す。接続部径は1.6cm（M14 I a～b）。14は青銅製の雁首で完形。長さは4.5cm、火皿は0.7cm、接続部は1.0cm（M15 I b～II b）。15は青銅製の吸口で完形。長さは2.2cm、接続部はつぶれて1.3cm、吸口は0.5cm（N15 I a～II a）。

#### 18. 高麗系瓦

高麗系瓦の平瓦片が1点得られている。外面に凸面に羽状押捺文を施し、凹面には布目痕が認められる。焼成は還元焼成により、灰色を帶びており、器壁は1.6cmとなっている。小破片であることから、「大天」等の刻路部位は確認できていない。

第22表 煙管出土状況

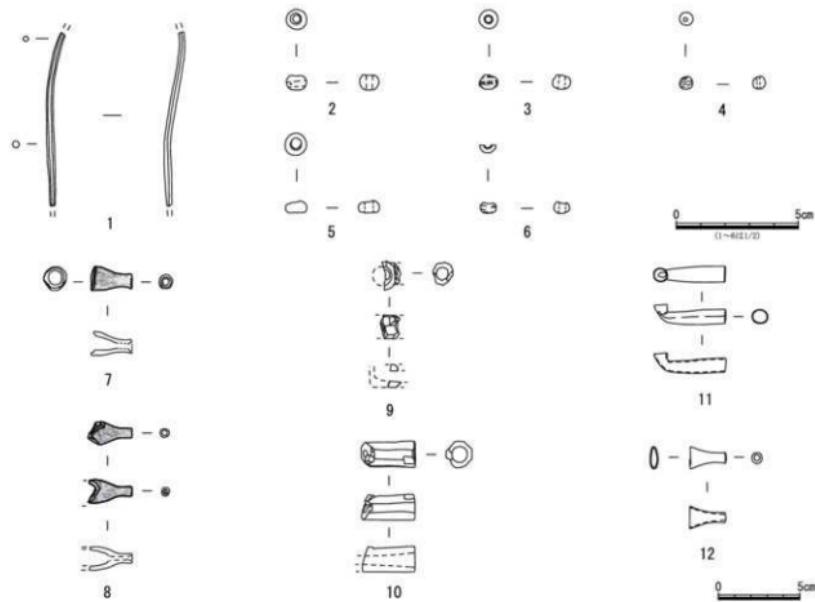
| 出土地點・層別  | 沖縄産施釉陶器 |    | 沖縄産無釉陶器 |    | 金銅製 |    | 合計 |
|----------|---------|----|---------|----|-----|----|----|
|          | 吸口      | 雁首 | 吸口      | 雁首 | 吸口  | 雁首 |    |
| I a～b    | 1       | 2  |         |    | 1   |    | 3  |
| I a～II a |         |    |         |    |     | 1  | 1  |
| I b～II b |         |    |         |    | 1   |    | 1  |
| II       |         |    | 1       |    |     |    | 1  |
| 西側畠表探    | 2       |    |         |    |     |    | 2  |
| TP II    |         |    |         |    |     |    | 1  |
| 合計       | 3       | 3  | 1       | 1  | 1   | 1  | 9  |



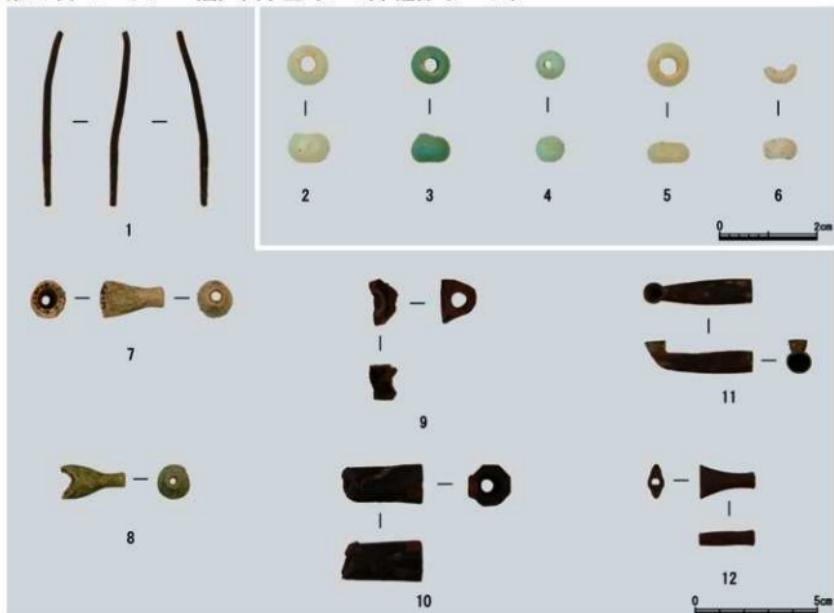
図版28 高麗系瓦



第38図 高麗系瓦



第37図 ジーファー(簪)(1)、玉(2~6)、煙管(7~12)



図版27 ジーファー(簪)、玉、煙管

## 第IV章 自然科学分析調査の成果

### 第1節 ゲスク土器胎土分析

#### 分析目的と試料の選択

前章までに述べたように、N-15グリッドNo.4土坑よりゲスク土器が一括して検出されており、廃棄土坑が想定されている。一般にゲスク土器は、胎土の様相の差異が地域間において顕著であり、同地域の遺跡間や遺跡内の差異が顕著である場合も少なくない。当該期におけるゲスク土器製作事情を考える上で、胎土分類は重要な要素である。本報告においても胎土分類における観察項目として質感・色調・焼成状況とともに、特徴的な混和材や緻密度等を属性とした初期の胎土分類を下記のように行っている。本節では、初期分類について精査することを主たる目的として剥片観察を行い、混和材の鉱物・岩石組成・碎屑物の量比・粒径組成を把握することで肉眼観察との比較・整合性を図り、客観的な検証や新たな観察視点・分類基準の提示を試みた。

試料は、N-15グリッドNo.4土坑より出土したゲスク土器片10点である。土器片には分析番号として、1～10までの番号を付しており、試料の選択に際しては、下記にもとづく選択を行った。

- I類 軟質泥胎であばた状を呈する多孔質の土器で焼成も比較的良好。胎土中には石英のみ、もしくは石英と長石が認められ、僅かではあるが鉱物片あるいは岩石片等の有色鉱物を含み、調整痕も顕著である。真志喜森川原遺跡A口類に相当するものと思われる。外側に土付着が著しいタイプをa、やや硬質なタイプをb、いわゆる軟質泥胎をc、やや砂質なタイプをdとして細分した。
- II類 軟質泥胎であばた状の多孔質土器で調整痕も認められ、焼成も良好である。肉眼観察的な情報はI類に類似するが、胎土中には混和材としての石灰質砂粒が顕著に認められる。真志喜森川原遺跡a類に相当するものと思われる。
- III類 比較的硬質で胎土は砂質である。器體は鉱物片あるいは岩石片と思われる有色鉱物の混和材の露出によりザラツキ感がある。真志喜森川原遺跡b口類に相当するものと思われる。
- IV類 硬質で胎土は泥質砂質を呈しており、III類に類似する。滑石粒の混和が認められ、細粒と粗粒があり、量により青灰色を呈するものもある。III類に比して少量ではあるが、鉱物片あるいは岩石片と思われる有色鉱物の混和材が認められる。

今回の分析では、I類とされた試料から4点(分析番号1～4)、II類及びIII類とされた試料からそれぞれ3点ずつ(分析番号5～7、分析番号8～10)、計10点の試料を選択した。IV類とされた試料は、今回の分析対象とはしなかった。各試料の肉眼観察結果を第23表に示す。いずれの試料も器種は鍋として想定している。

各試料の試料番号は、観察結果を示した第23表に併記する。

第23表 分析試料一覧及び胎土分類結果

| 分析番号 | 試料番号 | 種類 | 部位           | 胎土肉眼観察結果  |            |           | 備考                  | 分類番号 | 胎土薄片観察結果 |   |   |   |   |   |   |   |   |
|------|------|----|--------------|-----------|------------|-----------|---------------------|------|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|
|      |      |    |              | 混入物       | 外観面<br>内観面 | 断面        |                     |      | ①        | ② | ③ | a | b | c | d | e | f |
| 1    | 514  | 鍋  | 頭部 石>長       | 石>長>赤     | 石>長>赤      | 石>長>赤     | I                   | I    | ■        | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 2    | 507  | 鍋  | 頭部 石>長       | 石>長       | 石>長        | 石>長       | 細長                  | I    |          |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 3    | 501  | 鍋  | 頭部 石>長>赤     | 石>長>赤     | 石>長>赤      | 石>長>赤     | 大                   | I    |          |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 4    | 510  | 鍋  | 頭部 石>長>角     | 石>長>赤     | 石>長>赤      | 石>長>赤     | 内外面丁寧な調整            | I    |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 5    | 172  | 鍋  | 頭部 石>長>石灰質>赤 | 石>長>石灰質>赤 | 石>長>石灰質>赤  | 石>長>石灰質>赤 | 小、断面に石灰質<br>鉄粒多い。   | II   |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 6    | 172  | 鍋  | 頭部 石>長>赤     | 石>長>石灰質>赤 | 石>長>石灰質>赤  | 石>長>石灰質>赤 | 中1、内面に石灰質<br>鉄粒が多い。 | II   |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 7    | 172  | 鍋  | 頭部 石>長>石灰質   | 石>長>石灰質   | 石>長>石灰質    | 石>長>石灰質   | 中2。                 | II   |          |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 8    | 490  | 鍋  | 頭部 石>長>角     | 石>長>角>輝   | 石>長>角>輝    | 石>長>角>輝   | III                 |      |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 9    | 500  | 鍋  | 頭部 石>長>角>輝   | 石>長>角>輝   | 石>長>角>輝    | 石>長>角>輝   | 大・内面丁寧な調整           | III  |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |
| 10   | 502  | 鍋  | 頭部 石>長       | 石>長>輝     | 石>長        | 石>長       | 赤色・内面は比較的<br>の工夫な調整 | III  |          | ■ | ■ |   |   |   |   |   |   |

#### ＜胎土薄片観察分類＞

I類 肉眼観察で石英のみもしくは石英+長石のみが確認される混入物の少ない試料と黒色鉱物を少量含む試料とがあるが、前述と後述の試料に接合試料があるため、II類 石灰質砂粒の混入が顕著なものである。I質感は類似する。

III類 黒色鉱物の量が多く、4の質感に類似する。

IV類 砂粒が混入されたものであり、分類3と質感は類似する。今回の薄片観察試料にはない。

#### ＜胎土薄片観察分類＞

##### 1)胎土・岩石組成

A類 砂粒の主は微量の石英と斜長石の鉱物であり、これに微量の石炭質化石片を含むものをA2類とした。

B類 砂粒の鉱物片を比較多く含み、これに少量の斜長石の鉱物片と少量または微量のチャートの岩石片を含む。さらに石灰質化石片および安山岩の岩石片を含むものをB2類とした。

2)碎屑物の量比

①類 碎屑物・基質：孔隙の割合において碎屑物の量比が5%未満。

②類 碎屑物・基質：孔隙の割合において碎屑物の量比が5～15%。

③類 碎屑物・基質：孔隙の割合において碎屑物の量比が20%を超える。

##### 3)粒度の粒径分布

a類 粒度砂にモードがある。

b類 中粒砂にモードがある。

c類 細粒砂にモードがあるが、極細粒砂および粗粒シルトの割合も比較的高い。

d類 粗粒シルト～ヘビシルトにモードがある。

e類 粗粒シルトおよび中粒砂が突出して多い。

f類 粗粒シルトが突出して多い。

## 分析方法

胎土分析には、大きく分けて鉱物組成や岩石組成を求める方法と化学組成を求める方法がある。前者は重鉱物分析や薄片作製などが主に用いられ、後者では蛍光X線分析が用いられている。比較的粗粒の砂粒を含み、低温焼成と考えられるグスク土器の分析では、前者の方が、胎土の特徴が捉えやすい、地質との関連性を考えやすいなどの利点がある。さらに前者の方法の中でも薄片観察は、胎土中における砂粒の量、粒径組成や砂を構成する鉱物、岩石片及び微化石の種類等も捉えることが可能となる。客観的方法で表現した例として、松田ほか(1999)の方法がある。これは、胎土中の砂粒について、中粒シルトから細礫までを対象とし、各粒度階ごとに砂粒を構成する鉱物片及び岩石片の種類構成を調べたもので、この方法では、胎土中における砂の含量や粒径組成により、土器製作技法の違いを見出せるため、同一の地質分布範囲内にある近接した遺跡間での土器製作事情の解析も可能となるため、ここでは薄片観察法による胎土分析を行う。以下に手順を述べる。

薄片は、試料の一部を切断し、0.03mmの厚さに研磨して作製した。観察は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用い、胎土中の鉱物片、岩石片及び微化石の種類構成を明らかにした。砂粒の計数は、ポイント法により行った。なお、径0.5mm以上の粗粒砂以上の粒子については粒数を計数し、同時に孔隙・基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の3次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを示す。

## 結果

薄片観察結果を第24表、第39図に示す。計数された鉱物片及び岩石片の種類構成をみると、互いに類似した種類構成を示す試料がある一方、異なる組成を示す試料も認められる。また、碎屑物・基質・孔隙の割合では、碎屑物の割合が5%未満のものから20%を超えるものまである。さらに、各試料の粒径組成をみると、モードを示す粒径が試料によって異なり、粗粒砂から粗粒シルトまでの各粒径にばらついた。以上に述べた鉱物・岩石組成と碎屑物の量比及び粒径組成の状況を整理して、以下に分類した。

### ①鉱物・岩石組成

- A類：砂粒の主体は微量の石英と斜長石の鉱物片であり、これに微量の石灰質化石片を含むものをA2類とした。
- B類：石英の鉱物片を比較的多く含み、少量の斜長石の鉱物片と少量または微量のチャートの岩石片を含む。  
さらに石灰質化石を含むものをB2類とした。
- C類：斜長石の鉱物片を主体とし、少量の輝石類の鉱物片及び安山岩の岩石片、微量の不透明鉱物や流紋岩・デイサイト、火山ガラスなどを含む。

### ②碎屑物の量比

- ①類：5%未満
- ②類：5～15%
- ③類：20%以上

### ③粒径組成

- a類：粗粒砂にモードがある。
- b類：中粒砂にモードがある。
- c類：細粒砂にモードがあるが、  
極細粒砂及び粗粒シルトの割合も比較的高い。
- d類：粗粒シルト～中粒シルトにモードがある。
- e類：粗粒シルト及び中粒砂が突出して多い。
- f類：粗粒シルトが突出して多い。

各試料の胎土分類結果を第23表に併記する。鉱物片・岩石片の種類構成では、肉眼観察によるI類の試料4点はA1類及びA2にそれぞれ2点ずつ分類され、II類の試料はB1類に2点、B2類に1点が分類された。III類の試料3点のうち、2点はB1類に分類されたが、1点はC類であった。

碎屑物の量比では、I類の試料4点は①類、II類の試料3点及びB1類に分類されたIII類の試料2点は②類、C類に分類されたIII類の試料1点が③類に分類された。

粒径組成では、A1類のI類試料2点がf類、A2類のI類試料2点がe類に分類され、II類の試料では、B1類の試料はc類とd類に分かれ、B2類の試料はa類に分類された。III類の試料では、B1類の試料はともにc類に分類され、C類の試料はb類に分類された。



## 考察

### (1) 胎土肉眼観察と薄片観察との対応関係について

第24表からは、肉眼観察分類と薄片観察分類とがよく対応していることがわかる。肉眼観察のI類は、薄片観察のA類・①類・e/f類に対応する。特にI類の「混入物の少ない」という特徴は薄片観察の①類として数値化されている。ただし、I類には特徴として記載されていない石灰質化石が、薄片では認められるなど、肉眼観察では捉え切れない特性の存在も明らかとなった。また、I類の試料で黒色鉱物とした粒子は、薄片観察からみると緑色岩の岩石片であると判断される。薄片観察結果も合わせて考えるならば、I類は、石灰質化石を含まないI類-1とそれを含むI類-2とに細分されると言える。

II類は、その特徴が「石灰質砂粒の混入が顕著なもの」とされた。しかし、薄片観察結果では、その特徴を示す試料は、分析番号6のみであり、他の2点には石灰質砂粒を認めるることはできなかった。薄片観察結果に従えば、分析番号5と7で石灰質砂粒とした粒子は、多量に含まれる石英粒子のうち、白濁した石英粒子であったと判断される。したがって、II類については、薄片観察により、石灰質砂粒を確認することが必要である。今回、II類とされた試料のうち、石灰質砂粒を認めることが出来なかった試料は、薄片観察も合わせた分類を設定するならば、「V類」とする方が適当であると考えられる。

III類の特徴は、「黒色鉱物の量比が多い」ことである。この場合の黒色鉱物とは、輝石や角閃石などのいわゆる有色鉱物を想定していた。今回の薄片観察では、III類とされた試料のうち、分析番号9において、斜方輝石と単斜輝石の有色鉱物が比較的多く含まれることが確認された。一方、III類とされた試料のうち、分析番号8と10については、輝石や角閃石などを確認することができなかった。これらの鉱物・岩石組成は、結果でも述べたようにII類の分析番号5や7と同様のB1類に分類され、碎屑物の量比も分析番号5や7と同様であり、粒径組成は分析番号5と同様であった。これらのことから、III類とされた試料のうち、薄片観察結果も合わせたIII類に相当するのは、分析番号9のみであり、分析番号8及び10は、上述した「V類」に相当するとした方がよい。なお、肉眼観察で黒色鉱物とした粒子は、おそらく分析番号9では暗灰色を呈するチャートの岩石片であったと考えられ、分析番号10では不透明鉱物の鉱物片であったと考えられる。

### (2) 胎土の地質学的背景と地域性について

土器胎土中の碎屑物における鉱物片及び岩石片の種類構成は、胎土の材料となった砂や粘土などの堆積物が採取された場所の地質学的背景を示唆している。したがって、鉱物片や岩石片の中に特定の地域に分布する種類が認められた場合、砂や粘土の採取地は、その分布域内あるいは、その分布を流域にもつ河川の下流域に所在する可能性がある。今回の胎土薄片観察では、鉱物・岩石組成はA、B、Cの3種類を認めることができた。

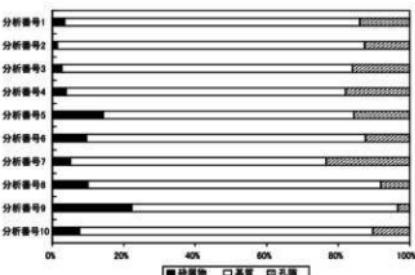
A類の主体をなす石英と斜長石の鉱物片は、様々な岩石に比較的多く含まれる鉱物であることから、その地質学的背景を推定することはできない。ただし、分析番号4において、極めて微量認められた黒雲母の鉱物片と緑色岩の岩石片は、A類の地質学的背景を示唆している可能性がある。沖縄本島の地質を想定した場合、黒雲母が比較的多量に含まれる地質としては、中生代白亜紀の地層とされている名護層の千枚岩や名護層に貫入する石英斑岩の岩体などがあげられる。また、緑色岩は名護層を構成する主要な岩石の一つである。木崎編(1985)などによれば、名護層の分布は、沖縄本島でも北部から中部(恩納村付近)までの西岸沿いであることから、A類の胎土が名護層に由来するとした場合、A類の土器は、名護層の分布する地域からの搬入品となる可能性がある。

B類の特徴は、多量の石英粒と少量または微量のチャートである。石英は、主要な造岩鉱物の中では、最も風化に対する抵抗性が強いため、砂岩や泥岩などの堆積岩では、石英のみが卓越するような鉱物組成となることが多い。また、チャートの岩石片は、微細な石英の集合体であるから、これも堆積岩である礫岩や砂

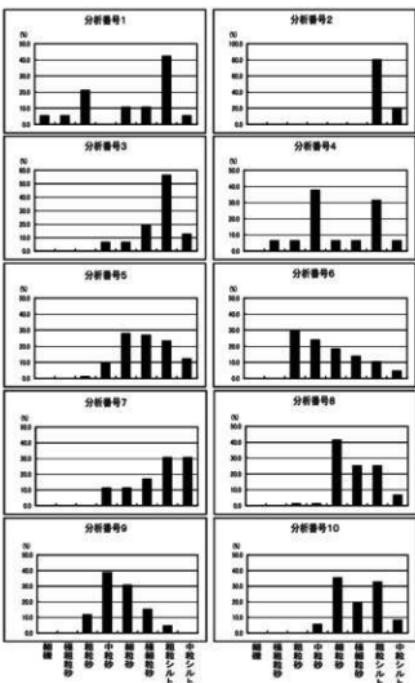
岩を構成する碎屑物としてよく認められる。したがって、B類の由来する地質としては、砂岩や礫岩からなる堆積岩の分布域が想定される。氏家・兼子(2006)による地質図では、宜野湾市及びその周辺域には、新第三紀の島尻層群下部を構成する豊見城層が分布し、豊見城層中には、小禄砂岩部層や中城砂岩部層などの砂岩も広く分布している。すなわち、B類から推定される地域性としては、嘉数トゥンヤマ遺跡の所在する宜野湾市及びその周辺域を想定することができる。

C類は、A類及びB類とは異なり、斜長石の鉱物片が圧倒的に多く、石英は極めて微量しか含まれない。C類には、輝石類の鉱物片と安山岩の岩石片が少量含まれ、他に凝灰岩や流紋岩・デイサイトなどの岩石片も微量認められている。このことから、C類の斜長石は、主に安山岩に由来し、凝灰岩や流紋岩・デイサイトにも由来するものが混在していると考えられる。したがって、C類から推定される地質学的背景は、安山岩の広く分布する地域を考えることができる。チャートや頁岩などの堆積岩類も極めて微量認められているが、石英も極めて微量であることから、堆積岩類の分布は伴われないか極めて限定的であると考えられる。上述した木崎編(1985)による沖縄本島の地質記載では、安山岩類の分布として、北部西海岸に岩脈として点在している。しかし、岩脈の周囲は名護層や砂岩を主体とする嘉陽層に取り囲まれていることから、その周辺の砂あるいは粘土中の碎屑物の鉱物組成を考えた場合に、C類のような斜長石が卓越する組成は考え難い。したがって、C類から推定される地域性は、沖縄本島外の地域である可能性が高い。琉球列島の中で、安山岩類の比較的広い分布を有する島としては、トカラ列島を構成する火山島の島々や久米島、石垣島及び西表島などであり、それほど多くはない。現時点では、これらの島々に限定するものではないが、想定され得る地域としてあげておきたい。

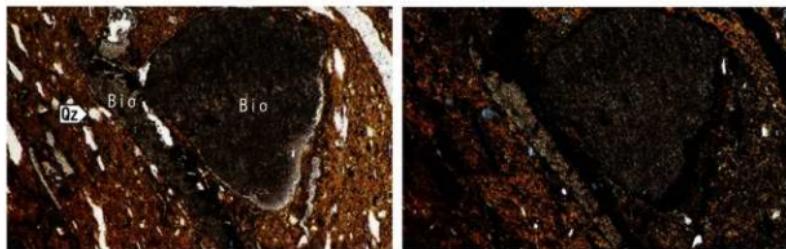
以上述べたA、B、C各類の地域性は、現時点では可能性があるという段階であり、可能性が高いとするまでは、今後も、各地のグスク土器の分析例を蓄積する必要がある。また、今回の分析では、胎土の肉眼観察の有効性も確認されたことから、分析例の蓄積に当たっては、肉眼観察による分類を広く進めた上で、薄片観察による確認を行うという方法により、効率的な展開が可能であると考える。



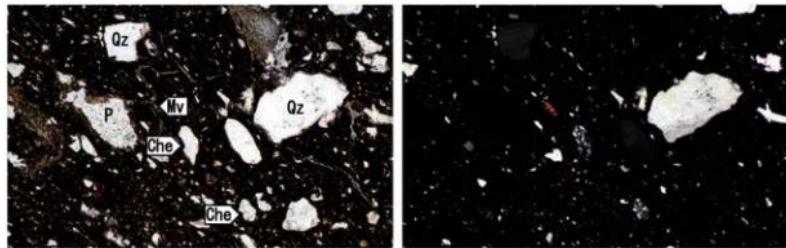
第40図 碎屑物・基質・孔隙の割合



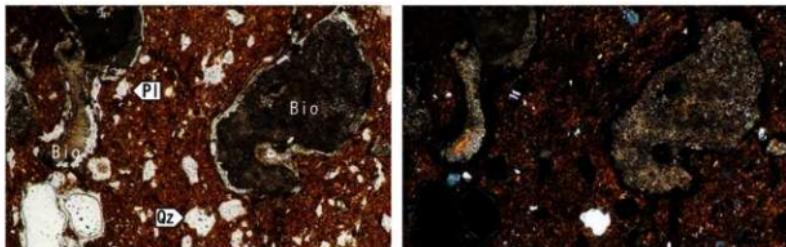
第41図 胎土中の砂の粒径組成



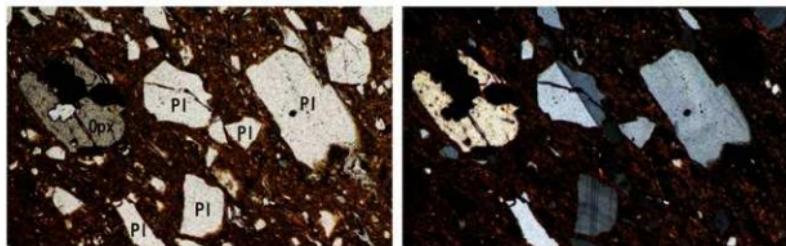
1. 分析番号1 (試料番号514 鍋 脳部)



2. 分析番号5 (試料番号172 鍋 脳部)



3. 分析番号6 (試料番号172 鍋 脳部)



4. 分析番号9 (試料番号500 鍋 脳部)

Qz:石英, Pl:斜長石, Opx:斜方輝石, Mv:白雲母, Che:チャート.

Bio:石灰質化石, P:孔隙.

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

## 第2節 鋼冶関連遺物分析

### 調査方法

本遺跡からは、鋳治関連遺構は確認されていないが、鉄滓が複数出土している。当遺跡での鉄器生産の実態を検討する目的として金属学的調査を行う。

金属分析については、株式会社九州テクノ

リサーチ・TACセンターの協力を得て、第26～

27表に示す出土鉄滓3点の調査を実施した。

### 調査項目

#### (1) 肉眼観察

遺物の外観上の所見を記載した。これをもとに試料採取位置を決定している。

#### (2) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成、金属部の組織観察や非金属介在物の調査などを目的とする。試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3μと1μで鏡面研磨した。また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して、写真撮影を行った。

#### (3) ピッカース断面硬度

ピッカース断面硬さ計（Vickers Hardness Tester）を用いて、滓中の晶出物および金属鉄部の硬さ測定を実施した。

試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50～200gfで測定した。

#### (4) 化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO)：容量法。

炭素(C)、硫黄(S)：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化硅素(SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、

酸化カリウム(K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)。

酸化クロム(Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化磷(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)

: ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

### 調査結果

#### <№1：鋳治滓>

##### (1) 肉眼観察

17.4gの不定形小型の鋳治滓破片である。色調は黒灰色を呈する。また下面のみ資料本来の細かい凹凸を持つ表面で、他は全面鋭利な破面である。破面の気孔はごく僅かで、非常に緻密な滓である。

##### (2) 顕微鏡組織

図版30①に示す。白色粒状結晶ウスタイト(Wustite:FeO)が、素地の暗黒色ガラス質滓中に晶出する。ファイライド(2FeO·SiO<sub>2</sub>)は高温により結晶として存在しない。高温操業が想定される。

##### (3) ピッカース断面硬度

図版30①の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は462Hvであった。ウスタイトの文献硬度値450～500Hvの範囲内であり（日刊工業新聞社,1968）、ウスタイトに同定される（磁鐵鉱（鉄鉱）は530～600Hv、ウスタイトは450～500Hv、マグнетライトは500～600Hv、ファイライドは600～700Hvの範囲が提示されている）。

#### (4) 化学組成分析

第27表に示す。全鉄分 (Total Fe) は 57.33% と高値であった。このうち金属鉄 (Metallic Fe) は <0.01%、酸化第1鉄 (FeO) 63.37%、酸化第2鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 11.54% の割合であった。造済成分 (SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O) は 24.09% で、塩基性成分 (CaO + MgO) が 7.28% と高値傾向を示す。また通常砂鉄 (含チタン鉄鉱) に含まれる二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) は 0.19%、バナジウム (V) が 0.03% と低値であった。酸化マンガン (MnO) も 0.06%、銅 (Cu) < 0.01% と低値である。当資料は鉄酸化物 (FeO) と、炉材 (羽口・炉壁) ないしは鍛接剤 (薬灰・粘土汁) の溶融物である造済成分 (SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O) が主成分であった。このため、純度の高い (製鍊率→精鍊鍛冶津) を含まない鉄材を、加熱したときの吹き減り (酸化による損失) で生じた済と判断される。

#### <No. 2 : 鍛冶津>

##### (1) 肉眼観察

11.7g とごく小型の鍛冶津破片である。楕円形鍛冶津の側面端部の可能性が考えられる。済の地の色調は黒灰色で、表面には茶褐色の鉄鉱化物や土砂が薄く付着する。上下面と側面 1 面が資料本来の表面で、残る側面 3 面は直線状の破面である。また上面は比較的平坦で、下面は細かい凹凸が著しい。破面の気孔は僅かで、非常に緻密な済である。

##### (2) 顕微鏡組織

図版 30 ②～④に示す。淡灰色柱状結晶ファイヤライト (Fayalite : 2FeO · SiO<sub>2</sub>) が主体鉱物相で、白色粒状結晶ウスタイトは局的な凝集と微細結晶の晶出である。

##### (3) ピッカース断面硬度

図版 30 ③の白色粒状結晶の硬度を測定した。硬度値は 542Hv であった。ウスタイトの文献硬度値の上限を越え、マグネタイト (Magnetite : Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) の文献硬度値の範囲内であった。ただし結晶がごく微細なため、周囲の影響を受けて硬質の値を示した可能性も考えられる。ウスタイトとマグネタイト、双方の可能性を提示しておきたい。

また④の淡灰色柱状結晶の硬度を測定した。硬度値は 637Hv であった。ファイヤライトの文献硬度値 600 ～ 700Hv の範囲内であり、ファイヤライトに同定される。以上の鉱物組成から、当資料も鉄酸化物と、炉材 (羽口・炉壁) ないしは鍛接剤 (薬灰・粘土汁) の溶融物が主成分と判断される。純度の高い鉄素材を低温側で素延べや火造りなど、熱間で鍛打加工した時に生じた済と推定される。

#### <No. 3 : 鍛冶津>

##### (1) 肉眼観察

20.3g と小型の楕円形鍛冶津片と推測される。済の色調は暗灰色で、下面を中心に茶褐色の小さな鉄鉱化鉄部が点々と付着する。いずれも特殊金属探知機での反応はないが、一部磁力の強いものがみられる。また上面は中央が窪んでおり、下面の中央には稜が見られるため、楕円済というより、樋状の済の端部破片の可能性も考えられる。破面には若干気孔が点在するが、やはり緻密な済である。

##### (2) 顕微鏡組織

図版 30 ⑤～⑦に示す。⑤は済中の鉄鉱化鉄部である。素地の灰色部はフェライト (Ferrite :  $\alpha$ 鉄)、層状黒色部はパーライト (Pearlite) 組織の痕跡である。以上の組織痕跡から、この鉄鉱化鉄部は炭素含有量 0.2% 前後の軟鉄と推定される。

⑥⑦は済部である。⑥は白色粒状結晶ウスタイト、茶褐色多角形結晶マグネタイト、淡灰色柱状結晶ファイヤライトが晶出する。また⑦は発達した淡灰色柱状結晶ファイヤライトのみが晶出する個所である。

#### (4) ピッカース断面硬度

図版 30 (6) の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は 553Hv であった。マグネタイトと推定される。  
 ⑦の淡灰色柱状結晶の硬度値は 621Hv で、ファイアライトと推定される。

#### (5) 化学組成分析

第 27 表に示す。全鉄分 (Total Fe) 43.25% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) 0.09%、酸化第 1 鉄 (FeO) 42.46%、酸化第 2 鉄 (Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) 14.52% の割合であった。造鉄成分 (SiO<sub>2</sub> + Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> + CaO + MgO + K<sub>2</sub>O + Na<sub>2</sub>O) 41.54% と高値で、このうち塩基性成分 (CaO + MgO) は 4.07% であった。また通常砂鉄 (含チタン鉄鉱) に含まれる二酸化チタン (TiO<sub>2</sub>) は 0.26%、パナジウム (V) が < 0.01% と低値であった。酸化マンガン (MnO) も 0.09%、銅 (Cu) 0.01% と低値である。当資料も鉄酸化物と、炉材 (羽口・炉壁) ないしは鍛接材 (薬灰・粘土汁) の溶融物 (造鉄成分) が主成分であった。やはり純度の高い鉄素材を、熱間で鍛打加工した時に生じた滓と推定される。ただし鍛冶滓 (No. 1) と比較すると、造鉄成分の割合が高く、No. 2 に近似した作業履歴であろう。

#### まとめ

14 ~ 15 世紀代と推定される、嘉数トウンヤマ遺跡から出土した鉄滓 3 点を調査した結果、当遺跡では、純度の高い (製錬滓や精錬鍛冶滓の固着のない)、鉄素材を鍛冶原料として、主に熱間で鍛造鉄器加工を行っていたと判断される。分析調査を実施した鉄滓 3 点は、鉄酸化物主体の滓 (高 FeO 漈: No. 1) と、酸化鉄に加えて、炉材 (羽口・炉壁) 粘土の溶融物や鍛接材 (薬灰・粘土汁) 起源の造鉄成分 (SiO<sub>2</sub>, Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) の割合が高い滓 (No. 2, 3) が確認された。これらの特徴から、当遺跡では純度の高い鉄素材を、熱間加工して鍛造鉄器を製作したと推定される。また鉄素材は一定の形状に加工された新鉄に限らず、古鉄 (鋳造・鍛造品) であった可能性も高いと考えられる。

鈴木ほか (2004) によると、こうした鉄器生産の様相は、沖縄・先島諸島全域で広く確認されており、先島諸島に残る『鍛冶例帳』の記載ともよく符合する (沖縄県教育委員会, 1991)。また鍛冶滓 (No. 3) 中の、鋳成鉄部は炭素含有量が 0.2% 前後の軟鉄であった。これを即、搬入された鉄素材の性状と結びつけることはできない (熱影響を受けて、炭素含有量が変化した可能性がある) が、軟鉄材を加工していた可能性は考えられる。

**第26表 供試材の履歴と調査項目**

| 番号      | 遺跡名                 | 出土位置 | 遺物名称   | 推定年代     | 計測値     |       | 測定項目 |       |       |               |      |      |      |          |      |
|---------|---------------------|------|--------|----------|---------|-------|------|-------|-------|---------------|------|------|------|----------|------|
|         |                     |      |        |          | 大きさ(mm) | 重量(g) | メタル度 | マクロ組織 | 顯微鏡組織 | ピッカース<br>断面硬度 | X線回折 | EPMA | 化学分析 | 耐火度<br>℃ | カロリー |
| 1       | 嘉数トウンヤマ<br>西側埠 (表探) | 鍛冶滓  | 14~15c | 30×18×20 | 17.40   | なし    | ○    | ○     |       |               |      | ○    |      |          |      |
| 2 (第一次) | L15 Ⅱ层              | 鍛冶滓  |        | 17×16×19 | 11.70   | なし    | ○    | ○     |       |               |      |      |      |          |      |
| 3       | 西側埠 (表探)            | 鍛冶滓  |        | 32×28×14 | 20.27   | なし    | ○    | ○     |       |               |      | ○    |      |          |      |

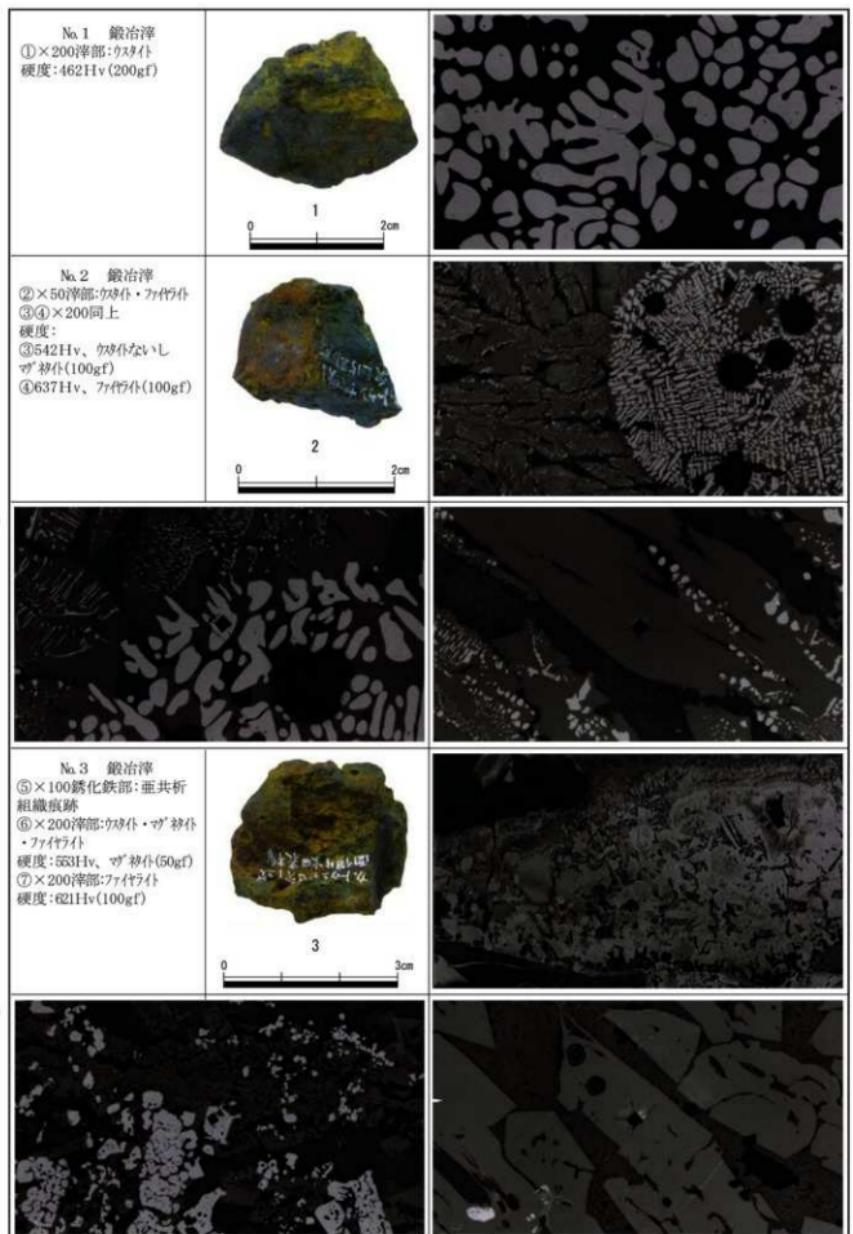
**第27表 供試材の化学組成**

| 番号         | 遺跡名             | 出土位置 | 遺物名    | 推定年代           | 元素分析           |                | 化学組成(%)         |   |                       |   |                                    |                  |                                   | XRD<br>主ピーク<br>(2θ)  | 組成<br>Total Fe<br>Total Fe |              |              |                |              |              |              |                |                |                |
|------------|-----------------|------|--------|----------------|----------------|----------------|-----------------|---|-----------------------|---|------------------------------------|------------------|-----------------------------------|----------------------|----------------------------|--------------|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
|            |                 |      |        |                | Total<br>Fe    | Metallic<br>Fe | 酸化第1<br>鉄 (FeO) | 酸化第2<br>鉄 (Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ) | 酸化マグ<br>ネシット<br>(MgO) | 酸化アル<br>ミニウム<br>(Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> ) | 酸化チタ<br>ニウム<br>(TiO <sub>2</sub> ) | 酸化マニ<br>ンガ (MnO) | 酸化シリ<br>ケン<br>(SiO <sub>2</sub> ) | 酸化カル<br>シウム<br>(CaO) |                            |              |              |                |              |              |              |                |                |                |
| 1<br>[第一次] | 嘉数トウンヤマ<br>(表探) | 鍛冶滓  | 14~15c | 57.33<br>43.70 | 57.33<br>43.70 | 0.09<br>0.09   | 63.37<br>42.46  | 11.54<br>14.52                              | 12.31<br>32.01        | 3.41<br>4.00                                      | 0.18<br>0.43                       | 1.10<br>0.86     | 0.87<br>0.99                      | 0.12<br>0.36         | 0.06<br>0.08               | 0.19<br>0.26 | 0.04<br>0.05 | 0.027<br>0.021 | 0.92<br>0.91 | 0.00<br>0.01 | 0.03<br>0.02 | 24.00<br>41.54 | 0.420<br>0.390 | 0.003<br>0.000 |
| 2<br>[第二次] | L15 Ⅱ层          | 鍛冶滓  |        |                |                |                |                 |   |                       |   |                                    |                  |                                   |                      |                            |              |              |                |              |              |              |                |                |                |

**第28表 出土遺物の調査結果のまとめ**

| 番号 | 遺跡名                 | 出土位置 | 遺物名    | 推定年代                   | 顯微鏡組織       |   | 化学組成(%)          |      |      |                  |       | 用具  |
|----|---------------------|------|--------|------------------------|-------------|---|------------------|------|------|------------------|-------|---|
|    |                     |      |        |                        | Total<br>Fe | Fayalite<br>(MgMnO <sub>3</sub> )<br>成分 | TiO <sub>2</sub> | V    | MnO  | 酸化<br>シリケン<br>成分 | Cu    |   |
| 1  | 嘉数トウンヤマ<br>西側埠 (表探) | 鍛冶滓  | 14~15c | 津浦 W                   | 57.33       | 11.54                                   | 7.28             | 0.18 | 0.03 | 0.06             | 24.00 | (SiO <sub>2</sub> )   |
| 2  | L15 Ⅱ层              | 鍛冶滓  |        | 津浦 F-W-M               |             |   | —                | —    | —    | —                |       | 鍛冶滓を熱間で鍛打加工した時に生じた滓、<br>鍛冶滓 (No. 1) より、炉材 (羽口・炉壁) 銅鐵鉄組成の割合が高い、<br>銅鐵鉄滓を熱間で鍛打加工した時に生じた滓、<br>銅鐵鉄滓 (No. 1) より、炉材 (羽口・炉壁) 銅鐵鉄組成の割合が高い、<br>銅鐵鉄滓を熱間で鍛打加工した時に生じた滓、<br>津浦中の鉄化鉄部は炭素含有量が2.5%前後の軟鉄と推定される |
| 3  | 西側埠 (表探)            | 鍛冶滓  |        | 津浦 F-W-M, 鋼化鉄部アーチ炉析組織部 | 43.25       | 14.52                                   | 4.07             | 0.26 | 0.01 | 0.09             | 41.54 |   |

W=Molite (FeO), M=Magnetite (Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>), F=Fayalite (2FeO·SiO<sub>2</sub>)



図版 30 錫治滓の顕微鏡組織

## 第V章 結語

前章までに、平成16年度に実施した嘉数トウンヤマ遺跡における範囲確認調査の成果並びに自然科学分析調査の成果について述べてきた。ここでは、検出された各種遺構・出土遺物等の調査成果について再度整理した上で、現在整理中の平成18年度に実施した調査成果についての概要を踏まえて、最終的な記録保存調査の報告書作成へ向けた課題や問題等についてまとめて、本報告の結語としたい。

周知の遺跡である嘉数トウンヤマ遺跡は、以前よりトゥン（嘉数之殿）やジトウヒヌカン（地頭火の神）と称される拝所の周辺一帯において、グスク土器や類須恵器、輸入陶磁器、沖縄産陶器等のグスク時代（中世相当）から近世以降に相当する遺物が散見されている状況であった。今回の範囲確認調査における調査面積は限られた範囲であったにも関わらず、当該期に比定される各種遺構や出土遺物が把握されており、調査後に想定された記録保存調査を実施する上でも非常に精度の高い情報が得られたと言える。これまでにも述べてきたように、今次調査は、嘉数トウンヤマ遺跡包蔵地内の国有地管理処分が予定される地所の範囲確認調査であったことから、当該遺跡の範囲や時期・時代等の性格を把握することが目的とされたため、基軸となる15ラインを中心として西側のL-14～N-14グリッドとL-15～O-15のみを発掘調査対象とした経緯がある。以下に、検出遺構と出土遺物について整理する。

調査区の表土を除去したところ、全面的に耕作土が確認されたほか、一部においては遺構面まで攪乱されている箇所も存在する状況であったことから、本来的に遺構を覆土していたと思われるいわゆるプライマリーな包含層は認められなかった。把握された本遺跡の基本的な層序としては、人為層である攪乱層と耕作土層に大別され、下層には各種遺構が展開する島尻マージからなる地山と琉球石灰岩基盤層が把握された。今次調査において得られた出土遺物のほとんどが攪乱層であるI層や耕作土であるII層、西側畠地より表採資料として検出されており、その全てが耕作行為等に伴う攪拌により細片化している状況であった。また、巻上げによる層の上下移動が著しい状況であったため、記録保存調査における最終的な本遺跡の評価に際しては、検出された遺構の解釈と遺構内出土遺物を基にした各種検討とそれを客観的に評価する自然科学分析調査の導入が極めて重要であると認識された。

確認された遺構としては、ピット群、列状ピット群が集中的に検出されているほか、特徴的な遺構として土器一括検出土坑、溝状礎敷遺構が検出されている。ピット群、列状ピット群、土器一括検出土坑については概ねグスク時代（中世相当）の時期を、溝状礎敷遺構については近世以降の時期を比定している。

ピット群はV層以降（マージ）の地山面にて159基検出されており、これらが他の遺構とともにグリッド設定範囲外の当該敷地全域に広がっている可能性が十分に想定された。ピット159基の内訳は、柱穴等が想定される124基と列状ピット群35基となっており、平面形は多くが円形・楕円形で、柱痕が明瞭なピットについては掘立柱建物の柱穴が想定された。限定的ではあるが、M-15の重機攪乱部分やO-15のサブトレーンにより損壊を受けた複数のピットを記録保存調査時の基礎資料とするべく調査・記録化を行った結果からは平面プラン1・2を積極的に想定しており、直径20～30cmで深度40cm前後のタイプと直径40cm前後で深度60cm前後のタイプの規格性が窺える。実際の記録保存調査時の全面発掘調査では、結果としてこれらの平面プランの1辺が3間（6m）以上となることが予想されたほか、M-14グリッドに残存したII層下層からも同様な規格の平面プランが複数確認されている。

列状ピット群は、近年検出事例の増加が著しい遺構で植栽痕とも称されており、現在のところグスク時代（中世相当）の畠跡が想定されている。本遺跡ではN-14～15グリッドとO-15グリッドにおいて集中的に検出されており、いずれの列状ピット群も北西～南東方向の軸を有し、直径20～30cm内外の共通性を持っている。記録保存調査においては、これらの列状ピット群と先の柱穴が想定されるピット群が同一面にて検

出することが確認されていることから、各遺構の平面的な展開や前後関係等の相対的な評価については遺構内出土遺物を含めた検討が必要であり、現段階において詳細は把握できていない。

土器一括検出土坑は、グスク土器片のみが一括して検出されており、非常に特徴的な遺構である。遺構の性格としては廃棄土坑が想定され、1～4層中において100点ものグスク土器片が検出されており、1～3層中において約80%を占めている。これらは全て鍋である可能が高く、口縁資料から少なくとも10個体以上はあるものと想定された。記録保存調査において残存部分を調査した際にも多量のグスク土器片が検出されており、接合可能な資料も把握されている状況にある。また、土坑内覆土を全てサンプルとして取り上げており、今後に実施予定の各種自然科学分析調査の結果からは想定外の遺構としての性格が窺えることも予想されることから、県内における類例資料の把握が急務である。

溝状礫敷遺構については、L-14～15・M-14～15グリッドにおいて2条確認されている。いずれも旧嘉数村の旧道が想定され、現在の里道とおおよそ平行する形でいずれも北西～南東に軸を持つ。調査成果からは、南側の溝状礫敷遺構②は溝幅が狭く、半円状に掘り下げた後、石灰岩礫を丁寧に充填しているが、北側の溝状礫敷遺構①は溝幅が広く、非常に浅い溝に雜に石灰岩礫を敷いているような状況であった。両者の切りあい状況からは溝状礫敷遺構①に先行して溝状礫敷遺構②が存在していたものと考えられ、溝状礫敷遺構②→溝状礫敷遺構①→現在の里道という変遷が推定できる。記録保存調査の結果からは、いずれも当該敷地外の北西側に延長して残存していることが確認されている。特徴的なのは、礫敷中に沖縄産陶器のほか、アカムヌー等の在地資料が多量に含まれているのが確認されていることで、記録保存調査においては遺物収納コンテナ(大)の25箱程度の出土量となっており、これらが旧道普請時に廃棄された可能性が考慮される。

確認された遺物は、概ねグスク時代(中世)及び近世の時期に比定される在地の土器・陶器類と輸入陶磁器等が主体をなし、種別ではグスク土器・類須恵器・白磁・青磁・青花・中国産褐釉陶器・タイ産褐釉陶器・三彩・鉄釉染付・瑠璃釉・黒釉陶器・タイ鉄絵・タイ産半線・本土産陶磁器・沖縄産施釉陶器・沖縄産無釉陶器・アカムヌー・古錢・ジーファー(簪)・玉・煙管・高麗系瓦・鐵治関連遺物等がある。多くは細片化しており、遺物の接合状況についても非常に複雑であった。記録保存調査時の出土遺物との接合可能な資料についても確認されており、改めて精査した上で接合・分類の再検討を予定している。主要遺物の層位別出土傾向を見てみると、西側畠表採が3,348点と最も多く、次いでI a～b層中が3,111点、II a～b層中が1,779点となっており、耕作等に伴う搅乱の状況を表していると言える。出土遺物別に傾向を見てみた場合、アカムヌーが3,056点と他を圧倒する出土状況を呈しており、沖縄産無釉陶器2,281点、沖縄産施釉陶器2,047点、青磁1,882点と後続し、青花、褐釉陶器、白磁は比較的に少ないことから、嘉数トゥンヤマ遺跡が展開していた時期や器種組成等を考察する上で非常に興味深いと言える。

自然科学分析による客観的考察を行ったグスク土器については、肉眼観察等による質感・色調・焼成状況等の情報から4種に大別された初期分類に対する精査を行っており、あくまで可能性として、積極的に胎土や混和材等から地域性について言及している。今回は実験的に単一遺構出土グスク土器について、肉眼観察とそれに基づく剥片観察結果との比較を行っており、提示されたデータとの整合性を図った結果からは、記録保存調査後の本遺跡出土のグスク土器分類の方向性についてある程度設定できたと言えるが、未集計資料や記録保存調査時のグスク土器について全体としてデータ化することで本遺跡におけるグスク土器の様相が詳細に把握できるものと思われる。

範囲確認調査並びに記録保存調査におけるこのような各種遺構や出土遺物の検出状況からも、調査以前の立地状況や表採資料による考察からグスク時代(中世相当)から近世の時期が想定された嘉数トゥンヤマ遺跡について、概ね同時期にかけて展開した遺跡であることが把握されたと言えるが、現在整理中の記録保存調査成果報告書において、本遺跡の集落としての展開と陶磁器類の組成等に着目して詳細に報告したい。

## 報告書抄録

|                          |  |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
|--------------------------|--|----------|------------------------------|--|--|------------------|----------------------|-----------------------------------|
| ふりがな                     | かかずとうんやまいせき  |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 書名                       | 嘉数トゥンヤマ遺跡I   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 副書名                      | 範囲確認調査報告書  |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 卷次                       | 一  |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| シリーズ名                    | 宜野湾市文化財調査報告書   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| シリーズ番号                   | 第43集   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 編著者名                     | 城間肇、上田圭一、斎藤嵩人、橋本真紀夫  |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 編集機関                     | 沖縄県宜野湾市教育委員会   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 所在地                      | 郵便番号 901-2203 沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| 発行年月日                    | 2008年3月31日   |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |
| ふりがな                     | ふりがな   | コード      | 北緯                           | 東経   | 調査期間   | 調査面積             | 調査原因                 |                                   |
| 所収遺跡名                    | 所在地  | 市町村      | 遺跡番号                         |  |  | m <sup>2</sup>   |                      |                                   |
| かかずとうんやまいせき<br>嘉数トゥンヤマ遺跡 | ぎのわんし<br>宜野湾市<br><br>かー か す<br>嘉 数<br><br>こあざくじぜき<br>小字後原  | 4720     |                              | 26°<br>15'<br>78"  | 127°<br>44'<br>50"                                   | 040809<br>041105 | 約 883 m <sup>2</sup> | 国有地管理処分に係る<br>土地売却計画に伴う<br>範囲確認調査 |
| 所収遺跡名                    | 種別   | 主な時代     | 主な遺構                         | 主な遺物   | 特記事項   |                  |                      |                                   |
| 嘉数トゥンヤマ遺跡                | 集落遺跡   | 中世～近世・近代 | 柱穴<br>列状ピット群<br>土坑<br>溝状礫敷遺構 | 土器<br>類須恵器<br>白磁<br>青磁<br>青花<br>褐釉陶器<br>黑釉陶器<br>三彩<br>鉄輪染付<br>珊瑚釉<br>タイイ鉄絵<br>タイ半練<br>本土産陶磁器<br>沖縄産施釉陶器<br>沖縄産無釉陶器<br>アカムヌー<br>錢貨<br>ジーファー(費)<br>玉・煙管・高麗系瓦<br>鋳冶関連遺物 | グスク土器<br>—括検出土坑<br><br>植栽痕検出<br><br>近世の旧道<br>跡地内遺構遺構 |                  |                      |                                   |
| 要約                       | 本報告書は、周知の遺跡である嘉数トゥンヤマ遺跡における国有地管理処分に係る土地売却計画に伴う範囲確認調査の成果をまとめたものである。<br>範囲確認調査の結果、ピット群が159基検出されており、これらの中には住居跡や倉庫跡が想定される柱穴とグスク時代(中世相当)の烟跡が想定されている植栽痕が確認されているほか、グスク土器が一括して検出された土坑も確認されている。また、近世に成立したとされる旧嘉数村の旧道(村道)も確認されており、嘉数地域を含めた宜野湾市内の集落遺跡を考える上で非常に重要な遺跡であると言える。 |          |                              |  |  |                  |                      |                                   |

宜野湾市文化財調査報告書 第43集

## 嘉数トウンヤマ遺跡I

—範囲確認調査報告書—

発行年 2008(平成20年)3月31日

編集行 沖縄県宜野湾市教育委員会

住所 〒901-2203  
沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1番2号  
TEL 098-893-4431

印刷 株式会社 ちとせ印刷宜野湾営業所  
〒901-2225  
沖縄県宜野湾市大謝名三丁目4番17号  
TEL 098-897-1902